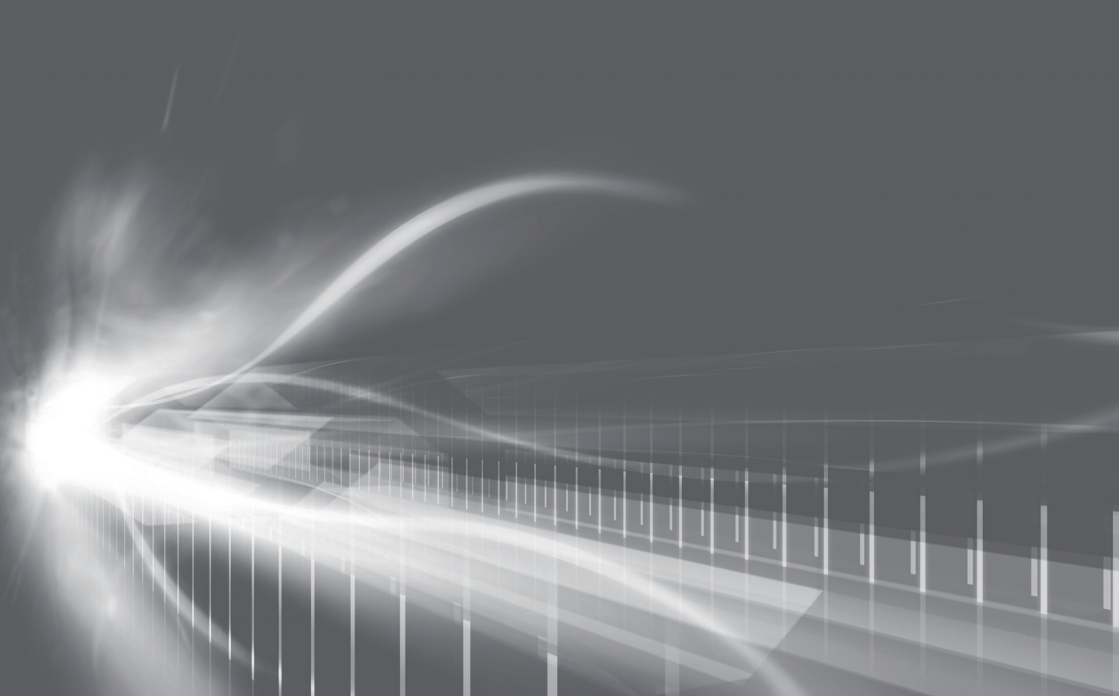


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PRIUS

TOYOTA

TABLE OF CONTENTS
目次

1	運転する前に	ハイブリッド車についての基本的な情報や、運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行・停止のしかたや、安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

1 運転する前に

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムについて 22
ハイブリッド車運転のアドバイス 34

1-2. キーの取り扱い

キー 39

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー&スタートシステム 42
ワイヤレスリモコン 55
ドア（フロントドア・リヤドア） 57
バックドア 60

1-4. シート・ハンドル・ミラーの調整のしかた

フロントシート 65
リヤシート 67
ヘッドレスト 70
シートベルト 72
ハンドル 77
インナーミラー 78
ドアミラー 79

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ 81
ソーラーパネル付ムーンルーフ 84

1-6. 給油のしかた

給油口の開け方 89

1-7. 盗難防止システム

イモビライザーシステム 93
オートアラーム 94

1-8. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢 97
SRS エアバッグ 99
子供専用シート 108
チャイルドシートの取り付け 117

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 126
パワー（イグニッション）スイッチ 138
EV ドライブモード 144
トランスミッション 147
方向指示レバー 155
パーキングブレーキ 156
ホーン（警音器） 157

2-2. メーターの見方

計器類 158
表示灯／警告灯 161
エコドライブモニター 164
ヘッドアップディスプレイ 188

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ 198
フォグライトスイッチ 203
ワイパー & ウォッシャー 206
ヘッドライトクリーナー 209

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール 210
レーダークルーズコントロール 214
運転を補助する装置 225
ヒルスタートアシストコントロール 230
緊急ブレーキシグナル 232
PCS（プリクラッシュセーフティシステム） 233
ETC システム 241

2-5. さまざまな状況での運転

荷物を積むときの注意 260
寒冷時の運転 262

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

オートエアコン 268
ステアリングスイッチでの操作 277
ソーラーベンチレーションシステム 279
リモートエアコンシステム 282
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り） 286
フロントワイパーデアイサー 287

3-2. オーディオの使い方

オーディオインデックス 288
ラジオの使い方 290
CD プレーヤーの使い方 293
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方 299
快適に聞くために 306
AUX 端子の使い方 308
ステアリングスイッチでの操作 310
アンテナ 313

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 314
・フロントパーソナルライト..... 316, 317
・ルームライト..... 318
・ドアカーテシライト..... 318

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧..... 319
・グローブボックス..... 321
・コンソールボックス... 322, 323
・オーバーヘッドコンソールボックス..... 324
・カップホルダー..... 325
・ボトルホルダー..... 327
・オープントレイ..... 328
・カードホルダー..... 329

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー..... 330
バニティミラー..... 331
アクセサリーソケット..... 332
シートヒーター..... 334
アシストグリップ&コートフック..... 336
リヤセンターアームレスト..... 337
フロアマット..... 338
ラゲージルーム内装備..... 340

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 348
内装の手入れ..... 352
タイヤについて..... 355

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 360
ガレージジャッキ..... 363
電球（バルブ）の交換..... 366
ヒューズの点検・交換..... 378
キーの電池交換..... 385
ウォッシャー液の補給..... 388
エアコンフィルターの清掃・交換..... 389

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは 394
非常点滅灯 395
発炎筒 396
けん引について 398
イベントデータレコーダー 404

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは 406
警告メッセージが表示されたときは 412
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 424
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 435
ハイブリッドシステムが始動できないときは 451
キーをなくしたときは 453
電子キーが正常に働かないときは 454
補機バッテリーがあがったときは 456
オーバーヒートしたときは 462
スタックしたときは 466
車両を緊急停止するには 467

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など） 470

6-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 476

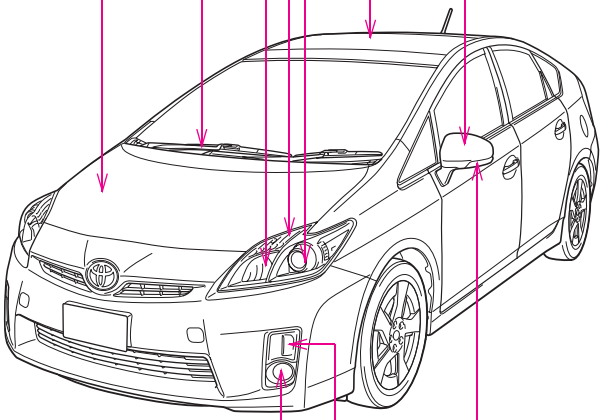
6-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 479

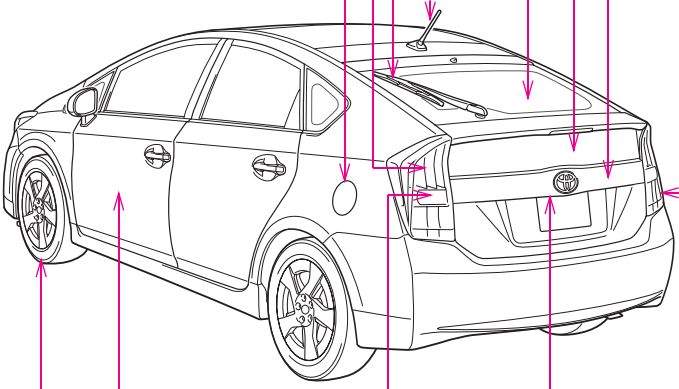
さくいん

略語一覧 482
五十音順さくいん 483
症状別さくいん 496
ハイブリッドさくいん 499

外観


ヘッドライト
（ハイビーム）P. 199
車幅灯 P. 198
ヘッドライト
（ロービーム）P. 198
ワイパー P. 206
ソーラーパネル付
ムーンルーフ* P. 84
ボンネット P. 360
ドアミラー P. 79
ITOPP182
方向指示灯 P. 155
方向指示灯 P. 155
フロントフォグライト*
P. 203, 205

リヤフォグライト* P. 204, 205
バックドア P. 60
リヤウインドウデフォッガー P. 286
アンテナ P. 313
リヤワイパー* P. 207
尾灯 P. 198
給油口 P. 89

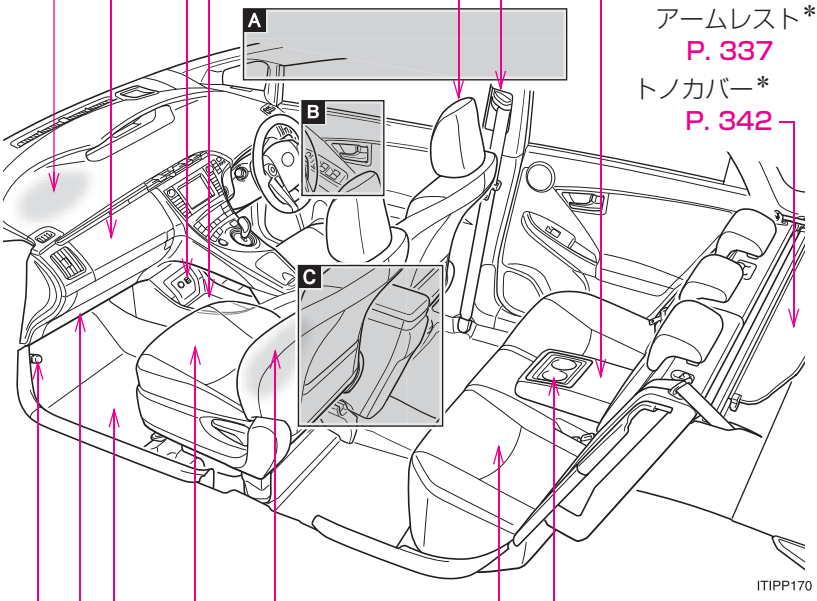


ITOPP183

ドア P. 57
番号灯 P. 198
方向指示灯 P. 155
タイヤ
●ローテーション P. 355
●交換（応急用タイヤ*） P. 424
●応急修理* P. 435

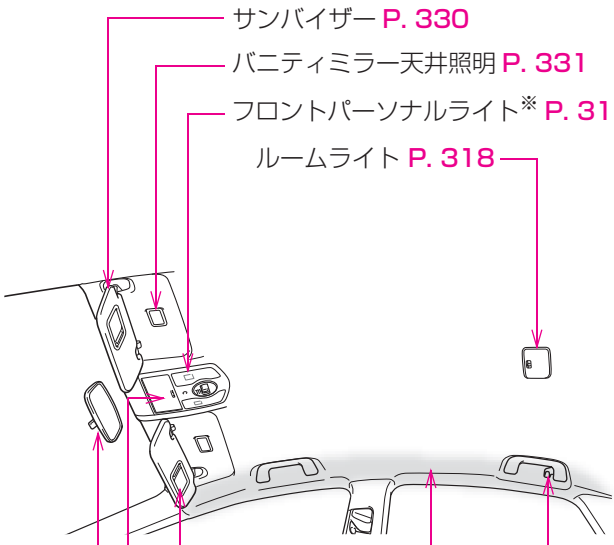
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内



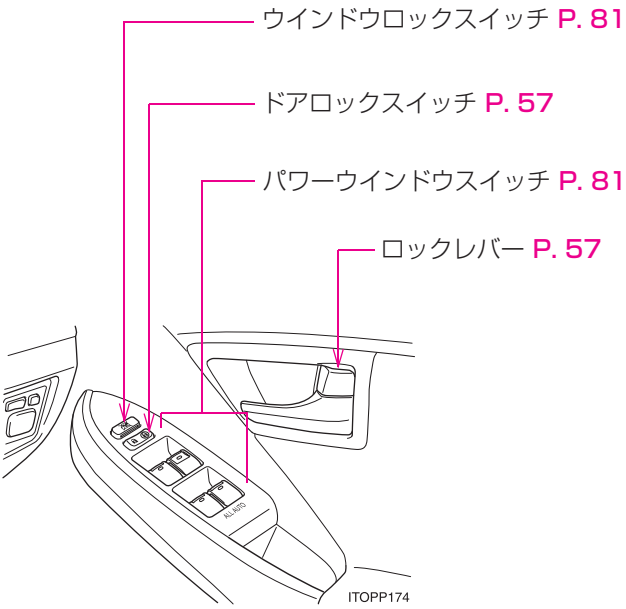
助手席 SRS エアバッグ P. 99
アッパーグローブボックス P. 321
シートヒータースイッチ* P. 334
フロントコンソールトレイ P. 328
ヘッドレスト P. 70
シートベルト P. 72
リヤセンター
アームレスト*
P. 337
トノカバー*
P. 342
カップホルダー* P. 325
リヤシート P. 67
SRS サイドエアバッグ P. 99
フロントシート P. 65
フロアマット P. 338
ロアグローブボックス P. 321
発炎筒 P. 396

A

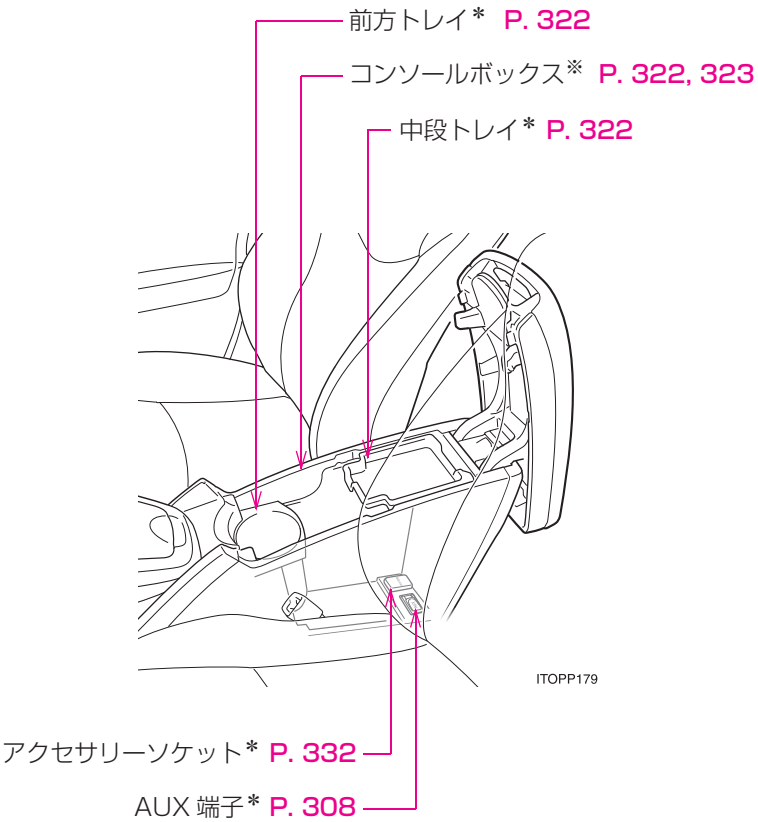


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：フロントパーソナルライトは、ソーラーパネル付ムーンルーフの有無により形状が異なります。

B

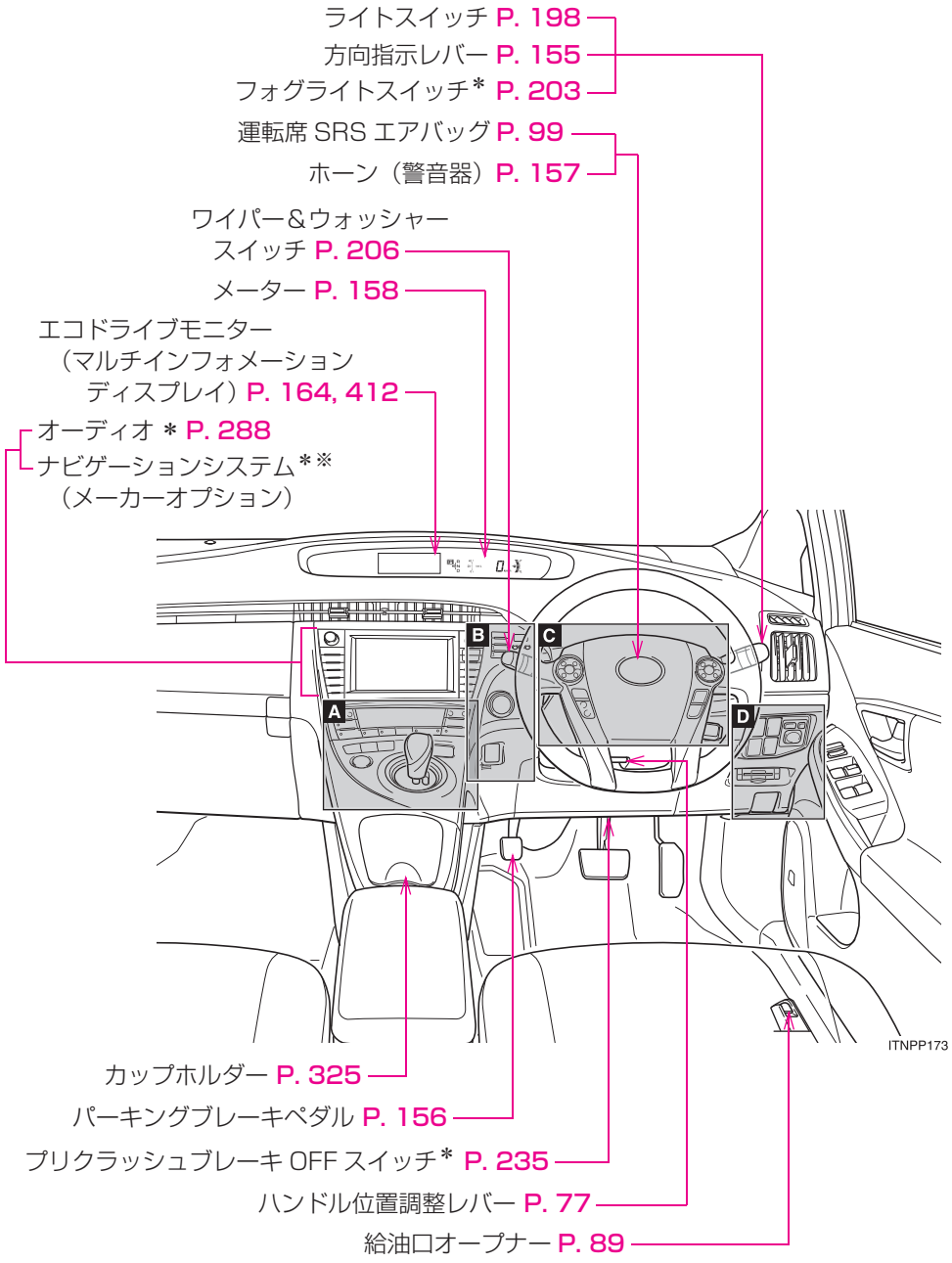

ウインドウロックスイッチ P. 81
ドアロックスイッチ P. 57
パワーウインドウスイッチ P. 81
ロックレバー P. 57
ITOPP174

C

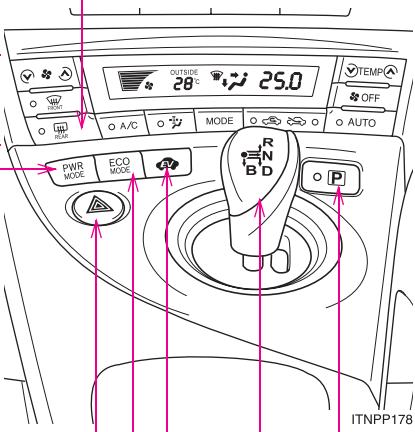


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：コンソールボックスは、グレードにより形状が異なります。

イラスト目次　インストルメントパネル



A



オートエアコン P. 268

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 286

P ポジション
スイッチ P. 150

シフトレバー P. 147

EVドライブモードスイッチ P. 144

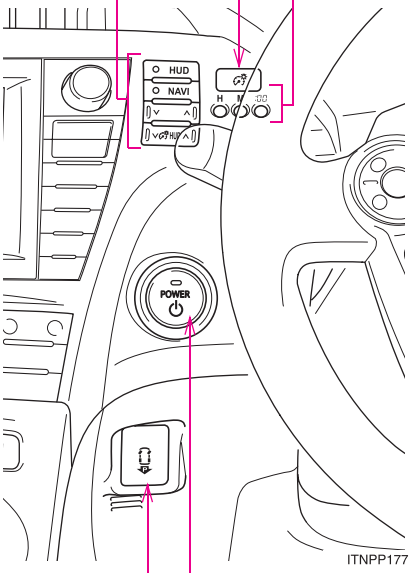
ECO MODE スイッチ P. 149

非常点滅灯スイッチ P. 395

パワーモードスイッチ P. 149

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

B



時計調整スイッチ P. 183

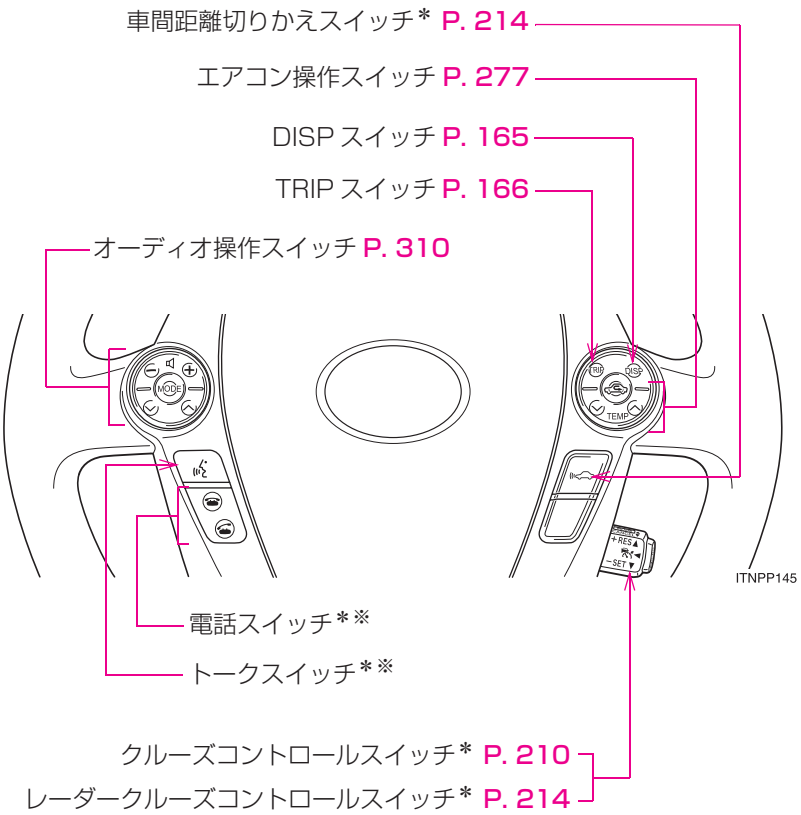
メーター照度調整スイッチ P. 159

ヘッドアップディスプレイ
操作部* P. 188

パワー（イグニッション）
スイッチ P. 138

IPA（インテリジェントパーキング
アシスト）プレサポートスイッチ*※

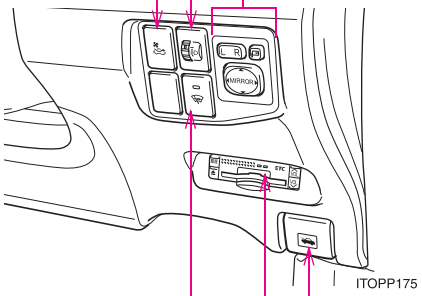
C



*：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

D

▶ ハロゲンヘッドライト装着車



ドアミラースイッチ P. 79

手動光軸調整ダイヤル P. 200

換気スイッチ* P. 279

フロントワイパー
デアイサースイッチ* P. 287

ETC（メーカーオプション）* P. 241

カードホルダー * P. 329

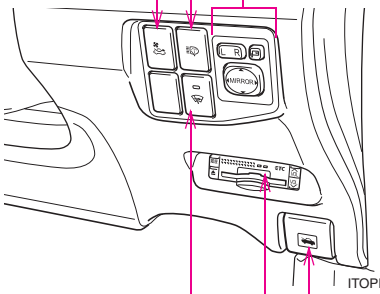
ボンネットオープナー P. 360

▶ LED ヘッドライト装着車

ドアミラースイッチ P. 79

ヘッドライト
クリーナースイッチ P. 209

換気スイッチ* P. 279



ITOPP176a

フロントワイパー
デアイサースイッチ* P. 287

ETC（メーカーオプション）* P. 241

カードホルダー * P. 329

ボンネットオープナー P. 360

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書を参照してください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには ＳＲＳ エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 117）を参照してください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せて参照してください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

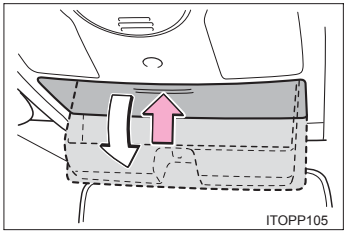
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。



操作を示す矢印

➪ スイッチなどの操作（押す・まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

1-1. ハイブリッドシステムについて
ハイブリッドシステムについて 22
ハイブリッド車運転のアドバイス 34

1-2. キーの取り扱い
キー 39

1-3. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた
スマートエントリー&スタートシステム 42
ワイヤレスリモコン 55
ドア（フロントドア・リヤドア） 57
バックドア 60

1-4. シート・ハンドル・ミラーの調整のしかた
フロントシート 65
リヤシート 67
ヘッドレスト 70
シートベルト 72
ハンドル 77
インナーミラー 78
ドアミラー 79

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方
パワーウインドウ 81
ソーラーパネル付ムーンルーフ 84

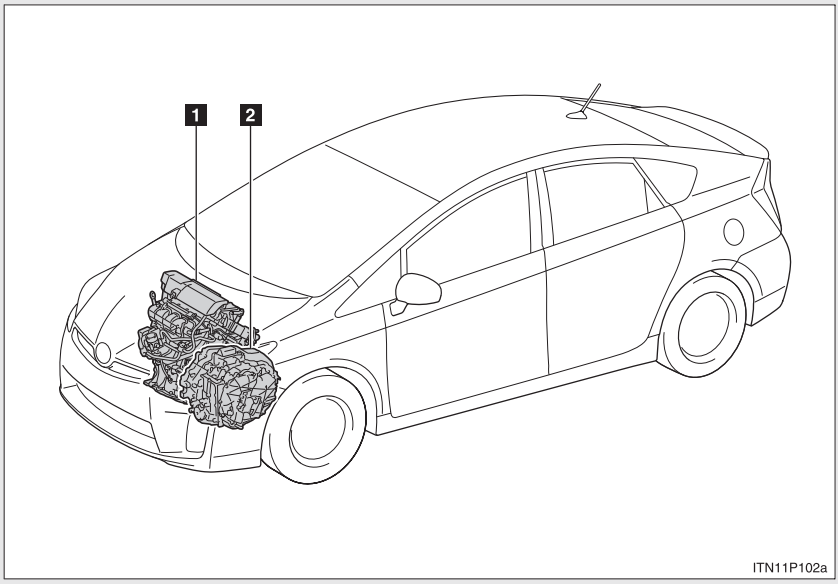
1-6. 給油のしかた
給油口の開け方 89

1-7. 盗難防止システム
イモビライザーシステム 93
オートアラーム 94

1-8. 安全にお使いいただくために
正しい運転姿勢 97
SRS エアバッグ 99
子供専用シート 108
チャイルドシートの取り付け 117

ハイブリッドシステムについて

プリウスのハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減・クリーン化した、環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン
2 電気モーター

■ 停車時・発進時

停車中はガソリンエンジンを停止します。
発進時は電気モーターを使って発進します。

■ 通常走行時

ガソリンエンジンと電気モーターを効率よく制御し、燃費効率が最適になるよう、走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 低速走行時

ガソリンエンジンを停止し、電気モーターの動力のみで走行します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D または B でブレーキペダルを踏んだとき

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池充電レベルが低いとき
- 暖房をかけているとき

※状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■充電について

- ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため、少なくとも 2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間は運転してください。
  万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。
- シフトポジションが N のときは、駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は、必ず P にしてください。また、渋滞時などでも D または B で運転してください。

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

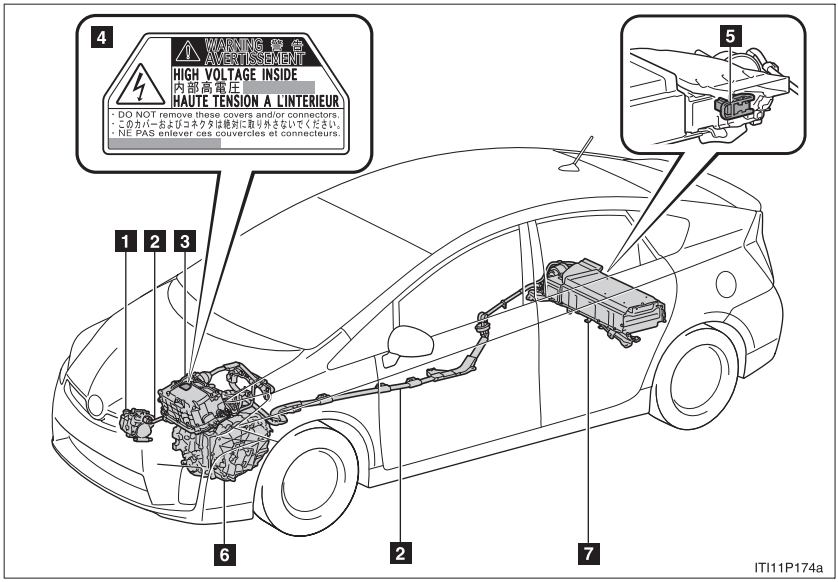
ハイブリッド車は READY インジケーターが点灯して走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時は必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。
ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからの電気モーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる、車両後方および駆動用電池からの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッションから聞こえる“コツコツ”“カタカタ”という音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート横（運転席側）にある吸入口から聞こえるファンの音
- エアコンの作動音（エアコンコンプレッサー、ブロワモーター）

■メンテナンス・修理・廃車について

お車のメンテナンス・修理・廃車の際は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通して駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

高電圧部位

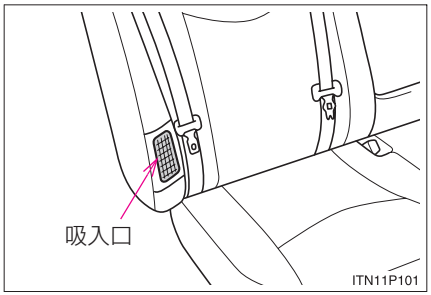


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 高電圧ケーブル（オレンジ色）
3 パワーコントロールユニット・DC ／ DC コンバーター
4 コーションラベル
5 サービスプラグ
6 電気モーター
7 駆動用電池

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、安全のためふれないでください。

■ 駆動用電池冷却用吸入口



リヤシートの横（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

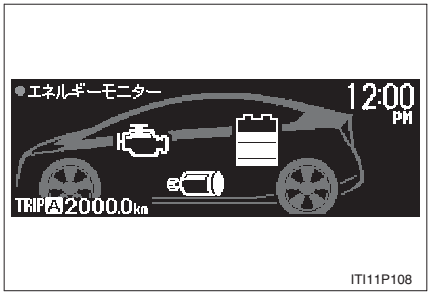
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

エネルギーモニター／燃費表示／ハイブリッドシステムインジケーター

メーター内のエコドライブモニターに、ハイブリッドシステムの作動状況や燃費に関する情報などを表示することができます。（→P. 164）

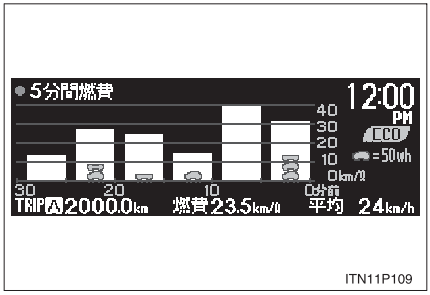
■ エネルギーモニター（→P. 169）



ITI11P108

エネルギーの使用・回収状況など、ハイブリッドシステムの作動状態を表示します。

■ 5 分間燃費／ 1 分間燃費（→P. 176）



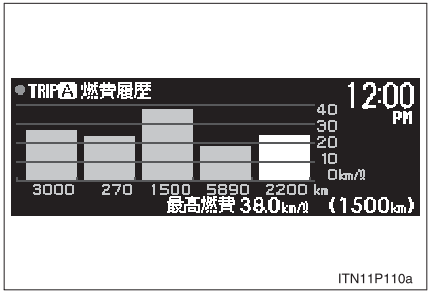
ITN11P109

5 分間または 1 分間あたりの平均燃費と、電気エネルギーの回収量を表示します。

エコドライブの結果を確認する際に使用します。

図は 5 分間燃費画面の例です。

■ トリップ燃費履歴（→P. 179）

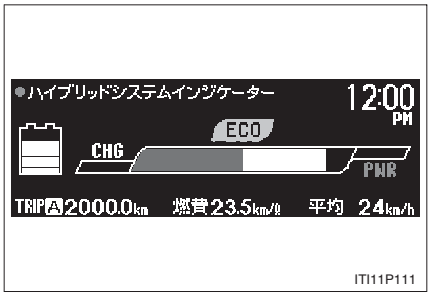


ITN11P110a

トリップメーター A・B に連動して、リセット（計測開始）してから、再度リセット（計測終了）するまでの、平均燃費の履歴を表示します。（最大 5 区間）

エコドライブの結果を確認する際に使用します。

■ ハイブリッドシステムインジケーター（→P. 172）

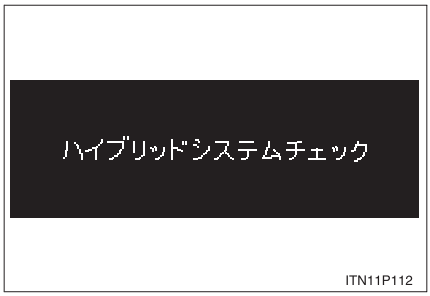


ITI11P111

車両の走行状況に対するハイブリッドシステムの作動状況がバー表示で示されます。

エコドライブの効果を上げるため、積極的に活用してください。

警告メッセージ



ITN11P112

エコドライブモニターは、ハイブリッドシステムの異常や、お知らせしたい事項が発生したとき、警告メッセージを表示する、マルチインフォメーションディスプレイとしても機能します。

警告メッセージが表示された場合は、表示されたメッセージの指示に従ってください。（→P. 412）

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 410）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 7.1L です。車両の傾きによって給油量はかわります）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

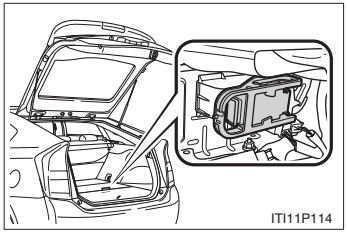
駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

⚠ 警告

■高電圧・高温について

●高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがありますので、絶対に行わないでください。

●電気モーター・冷却用ラジエーターなど、高温になる部位があります。
熱くなっている場合がありますので、さわらないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●リヤシート下部にある駆動用電池の横に、サービスプラグが設置してあります。
サービスプラグは、トヨタ販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがありますので、絶対にさわらないでください。また、サービスプラグに直接強い衝撃を与えないでください。

■駆動用電池について

駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が駆動用電池にふれた場合に、生命にかかわる感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■事故が発生したときは

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車する
  停車時は、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止します。その後、ブレーキペダルからゆっくり足を離してください。
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには絶対にさわらない
- 車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店へ状況を連絡するときに併せてお伝えください。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
  吸入口がふさがれると、駆動用電池が過熱し、ハイブリッドシステムの出力低下や、性能の低下につながるおそれがあります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- リヤシートベルトがガイド（→P. 68）からはずれていると、吸入口をふさいでしまう可能性があります。リヤシートベルトはガイドにセットして使用してください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

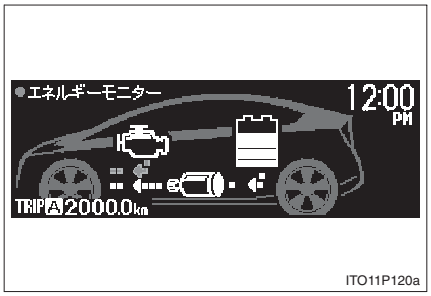
ここでは、エコドライブモニターの具体的な活用法と、エコドライブを行うための基本的な情報を説明します。

エコドライブモニターの活用方法

プリウスに装備されているエコドライブモニターは、エコドライブを補助するための、各種の画面を表示することができます。各画面の役割を理解し、上手に活用することで、楽しみながらエコドライブを行うことが可能になります。

エコドライブモニターの詳しい説明や操作方法、また各画面表示の意味などについては、P. 164 を参照してください。

■ エネルギーモニターでハイブリッドシステムの作動を理解する



ITO11P120a

この画面では、発進時・加速時などの各走行状況によって、ガソリンエンジンと電気モーターのエネルギーがどのように使用されているか、確認することができます。

どのような場面のときモーターのみで走行するか、またガソリンエンジンとモーターのエネルギーが同時に使用される走行状態はどんなときかなど、ハイブリッドシステムの特性を知っておくことが、エコドライブを行うために重要です。

■ ハイブリッド車の上手な走行のしかた

ハイブリッドシステムインジケーターは、アクセルペダルの操作や車両の走行状況（加速・減速など）に応じて、リアルタイムで表示が変化します。この画面の表示を参考にして走行することで、エコドライブが容易になります。

エコドライブの効果をより高めるために、次のような走行方法をおすすめします。

手順 1



エコエリアの範囲内で加速する

アクセルペダルをゆっくりと踏み込み、目的の速度まで加速します。

このとき、バー表示がエコエリアの範囲をこえないように心がけます。

手順 2



目的の速度に達したら、いったんアクセルペダルをもどす

その後、徐々にアクセルペダルを踏み込みます。

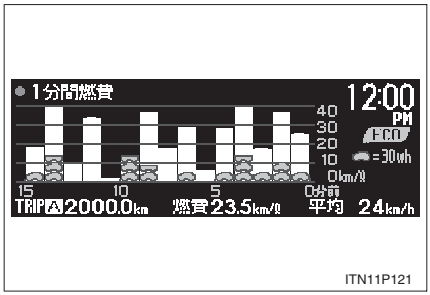
ハイブリッドエコエリアの範囲内で走行すると、電気モーターの動力のみでの走行状態が増え、ガソリンの消費を抑えることができます。

手順 3 減速するときは、急ブレーキを避け、ブレーキペダルをゆるやかに操作する

早めのアクセルオフと、スムーズなブレーキペダル操作を行うことで、回生ブレーキ機能によるエネルギー回収を効率的に行えます。

■ エコドライブの結果を確認するには

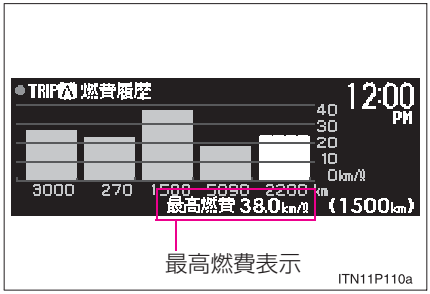
5 分間燃費／ 1 分間燃費・トリップ燃費履歴という 2 種類の画面で、エコドライブの結果を確認することができます。



ITN11P121

5分間燃費／1分間燃費画面では、平均燃費と電気エネルギーの回収状況が時間単位（5 分間または 1 分間）で記録されるため、車両がどのように走行したか確認する際に便利です。

図は 1 分間燃費画面の例です。



ITN11P110a

トリップ燃費履歴画面は、給油してから再度給油するまでなど、一定区間での燃費の推移を確認する場合に便利です。

また、この画面では、最高燃費も表示されます。最高燃費の記録は、高い数値を達成するたびに更新されます。

その他のエコドライブテクニック

■ 渋滞路の走行

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微速前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路を走行するときは

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エコドライブモードについて（→P. 149）

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動などを抑え、燃費向上につながります。

■ エアコンの上手な使い方

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環に設定しましょう。エアコンの負荷が減り、燃費向上につながります。

冬季：エンジン・車室内が暖まるまで、エンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。なお、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節・道路状況に応じて、適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物の積載について

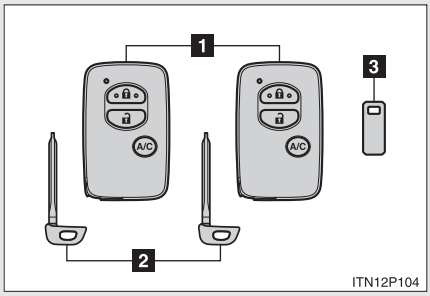
重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。
また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

エンジンが冷えているときは、エンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。



ITN12P104

1 電子キー※1

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 42）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 55）
- リモートエアコンシステムの作動（→P. 282）※2

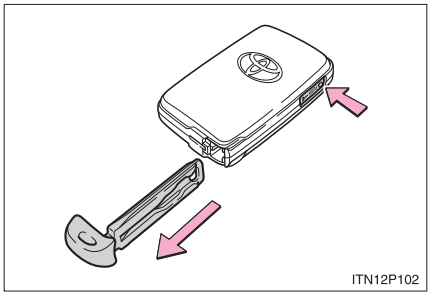
2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

※1 図はリモートエアコンシステム装着車のキーで代表しています。

※2 リモートエアコンシステム装着車のみ

メカニカルキーを使うには


ITN12P102

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 454）

知識

■キーナンバープレート

車内以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一メカニカルキーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 453）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばん等に保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

電子キーは精密機器です。次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- 電子キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビ・オーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

⚠ 注意

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内だと電化製品の電波と干渉し、正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは

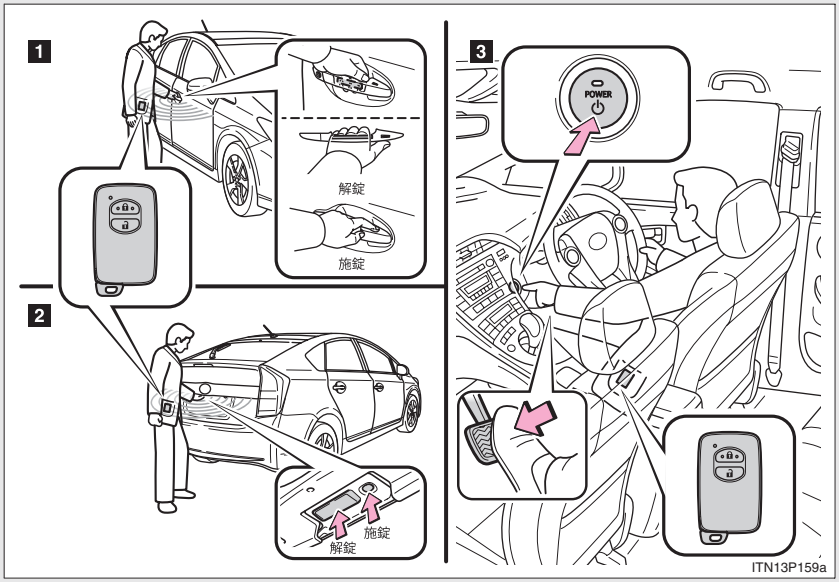
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで次の操作が行えます。
（必ず運転者が携帯してください）

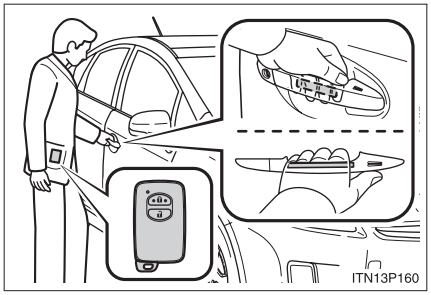


1 ドアの解錠・施錠 （→P. 43）

2 バックドアの解錠・施錠
（前席&バックドアスマートドアロック装着車のみ：→P. 44）

3 ハイブリッドシステムの始動 （→P. 138）

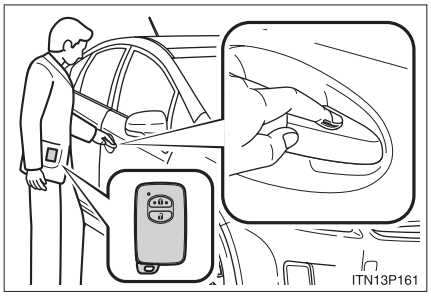
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ※）



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

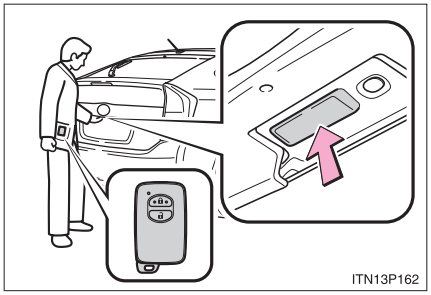
- ドアが解錠されたことを確認してから、ドアハンドルを引いてください。
- 施錠操作後、約３秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセンサー部(ハンドルのくぼみ部)にふれ、施錠する

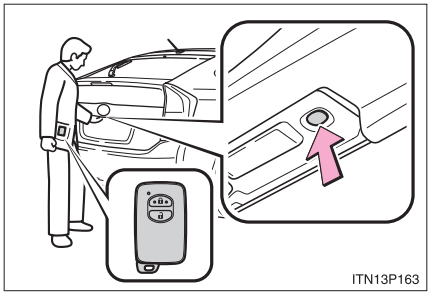
※運転席単独スマートドアロック装着車は運転席ドアハンドルのみで、前席＆バックドアスマートドアロック装着車は、運転席および助手席ドアハンドルで、ドアを解錠・施錠することができます。

バックドアの解錠・施錠（前席&バックドアスマートドアロック装着車のみ）



バックドアオープンスイッチを押して解錠する

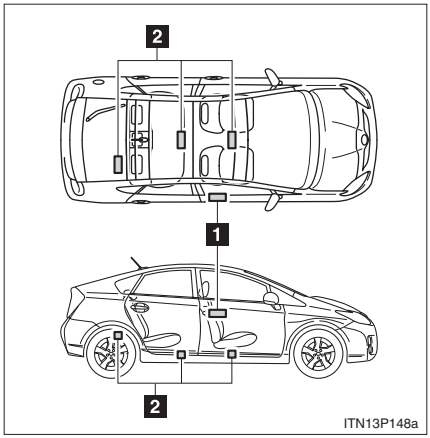
施錠操作後、約 3 秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

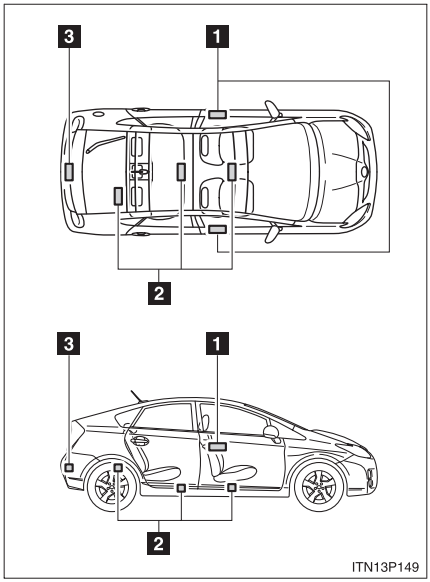
アンテナの位置

▶ 運転席単独スマートドアロック装着車



1 車外アンテナ
2 車内アンテナ

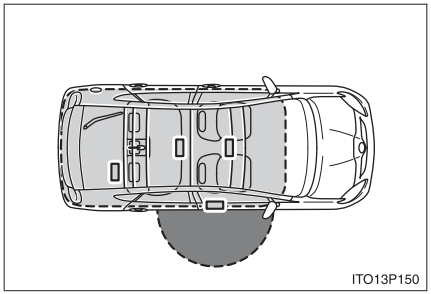
▶ 前席&バックドアスマートドアロック装着車



1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
3 ラゲージルーム外アンテナ

作動範囲（電子キーの検知エリア）

▶ 運転席単独スマートドアロック装着車



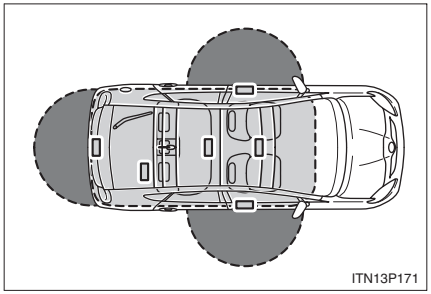
：ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

：ハイブリッドシステム始動時、またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

▶ 前席&バックドアスマートドアロック装着車



：ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：ハイブリッドシステム始動時、またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

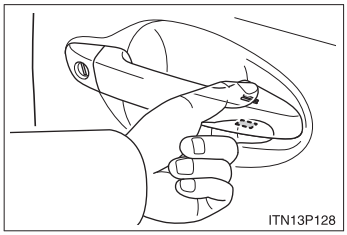
■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームについて（オートアラーム装着車）

スマートエントリー&スタートシステム、またはワイヤレスリモコンで施錠すると、オートアラームが設定されます。（→P. 94）

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
  - ・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
  - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 前席&バックドアスマートドアロック装着車では、14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくはワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 423）

●電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。

・テレビ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話やその充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

必ず電子キーを携帯した上で、スマートエントリー＆スタートシステムを作動させてください。

■電子キーの検知に関する留意事項

●車外から操作する場合は、電子キーを車に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かない場合があります）

●電子キーが作動範囲内にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央部に近付きすぎた場合
・電子キーがインストルメントパネルやフロア上、トノカバー（装着車のみ）の上、ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置くと、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

■スマートエントリー＆スタートシステム特有の留意事項

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でもスマートドアロックを操作して施錠・解錠できます。ただし、前席＆バックドアスマートドアロック装着車では、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合に、洗車や大雨などでスマートドアロック装着のドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。

●電子キーが車室内または車に近い場所にある場合にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できない場合は、ワイヤレスリモコンを使って解錠してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着用してロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●キーを携帯して洗車等で水をスマートドアロック装着のドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車等をしてください。（キーの盗難に注意してください）

●車室内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水がスマートドアロック装着のドアハンドルにかかった場合、「車室内にキーがあります」という警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車室外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。

●スマートドアロックによる施錠操作を連続で行ったときは、最大で 2 回までしかロックセンサーが反応しません。（この設定を変更することができます。：→P. 476）

●ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着用してドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

■解錠操作時のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 412)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“パワー”スイッチをOFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■補機バッテリー脱着時の留意事項

●補機バッテリー脱着直後は、スマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリー脱着前の“パワー”スイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→P. 454

●モードの切りかえ／ハイブリッドシステム始動：→P. 454

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 385

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 476）

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P. 45）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

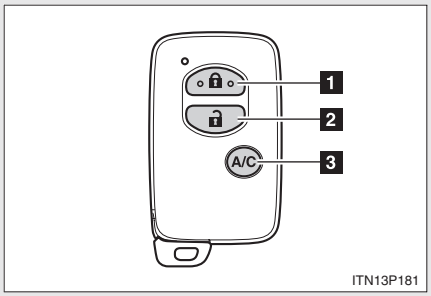
■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 454）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話･コードレス式電話などの無線通信機器が電子キーの近くにあるとき
- 電子キーが次のような金属製のものに接していたり､覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような製品と同時に携帯しているとき
  - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコンや携帯情報端末（PDA 等）
  - ・デジタルオーディオプレーヤー
  - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。また、リモートエアコンシステム装着車では、リモートエアコンシステムを作動・停止させることができます。
(→P. 282)



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

3 リモートエアコンシステムの作動（→P. 282）※1 ※2

※1 リモートエアコンシステム装着車のみ

※2 図はリモートエアコンシステム装着車のキーで代表しています。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー

→P. 47

■オートアラームについて（オートアラーム装着車）

→P. 94

■電池の消耗について

→P. 48

■解錠操作時のセキュリティ機能

→P. 51

■電子キーが正常に働かないときは

→P. 454

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 385

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 476）

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 54

ドア（フロントドア・リヤドア）

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、メカニカルキー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 42

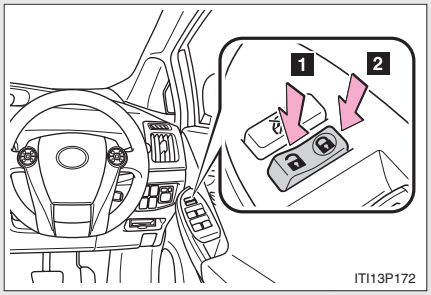
■ ワイヤレス機能

→P. 55

■ メカニカルキー

→P. 454

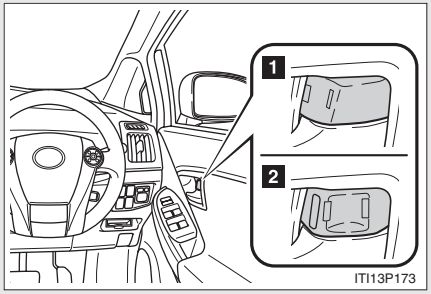
■ ドアロックスイッチ



1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

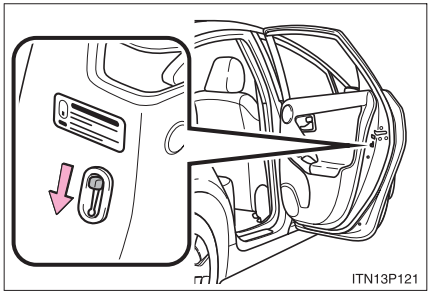
手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、または ON モードのときや、車内に電子キーがあるときは、キーの閉じ込みを防止するため施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠、および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ ドアロックスイッチ

→P. 57

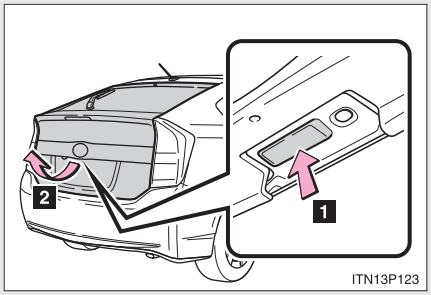
▶ スマートエントリー&スタートシステム（前席&バックドアスマートドアロック装着車のみ）

→P. 44

▶ ワイヤレス機能

→P. 55

■ バックドアを開けるには



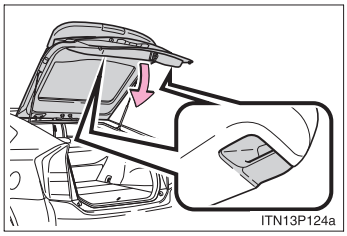
1 ロックを解除する

2 引き上げる

図は前席&バックドアスマートドアロック装着車で代表しています。

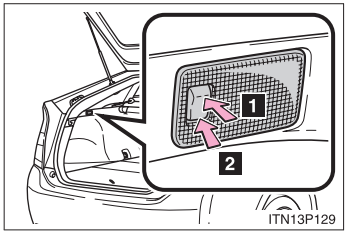
知識

■バックドアを閉めるときは



バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

■ラゲージルームライト



スイッチをドア連動にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

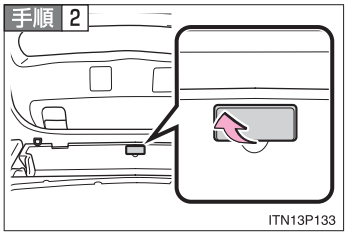
1 ドア連動

2 OFF

■バックドアが開かないときは

バックドアを内側から開けることができます。

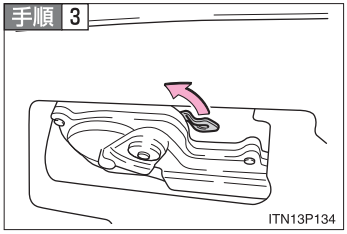
手順 1 デッキボードを開く（→P. 341）



デッキアンダートレイのフタを取りはずす（A タイプのデッキアンダートレイ※のみ）

切り欠きに指をかけてフタを手前に引き、取りはずします。

※デッキアンダートレイについては、P. 342 を参照してください。



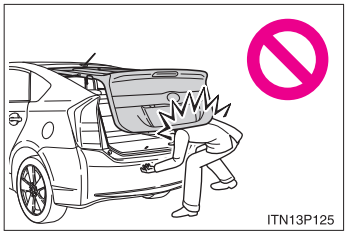
レバーを引き上げる

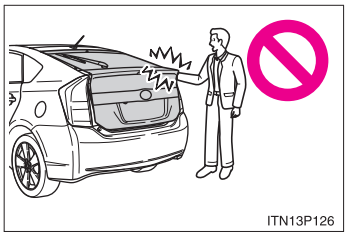
⚠ 警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。


ITN13P125


ITN13P126

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。
  特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。
  必ずバックドアが全開で静止していることを確認して、使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。
  バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

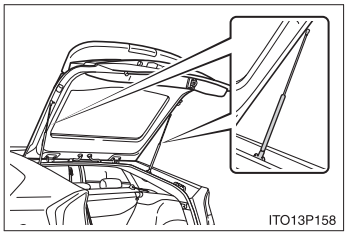
●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 注意

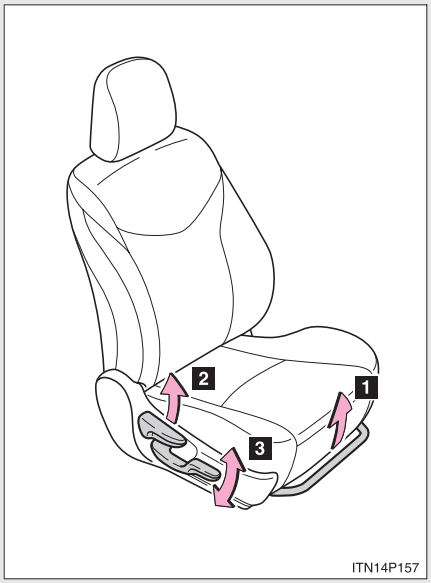
■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

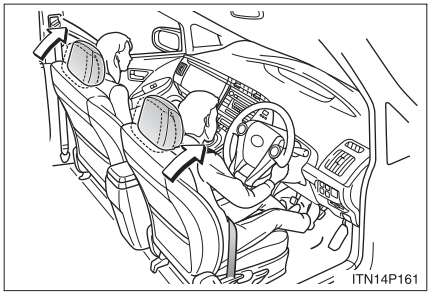


1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整*
（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト



背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■シートを操作するときは

可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

リヤシート

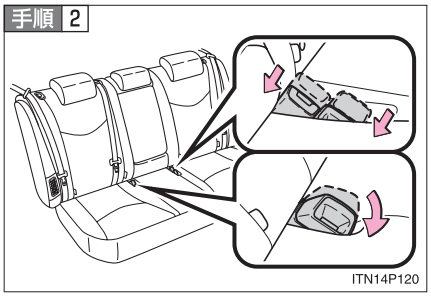
背もたれを前倒しして、ラゲージスペースを拡大することができます。

リヤシートの前倒しをする前に

手順 1 フロントシートの前後位置を調整する（→P. 65）

前倒ししたときあたらない位置まで、フロントシートを前方に動かします。

手順 2



ITN14P120

リヤシートベルトのバックルを格納する

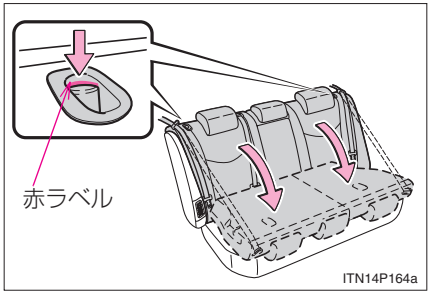
手順 3 ヘッドレストを上げてある場合は下げる（→P. 70）

手順 4 リヤセンターアームレストを格納する（→P. 337）※

※ 装着車のみ（助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です）

リヤシートの前倒し

■ 前倒しするときは

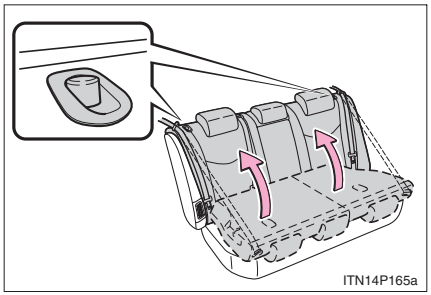


ITN14P164a

ロックボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックをはずすと、ボタンのまわりの赤ラベルが見えます。

■ もとにもどすときは

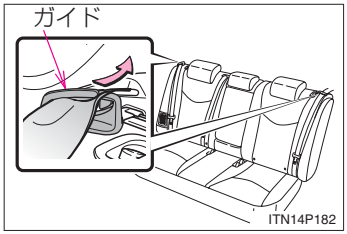


背もたれを起こして固定する

ボタンのまわりの赤ラベルが見えているときは、背もたれが固定されていません。赤ラベルが見えないよう、確実に固定してください。

知識

■リヤシートを前倒しして荷物を積むときに



- 荷物がリヤシートベルトにあたってしまうときは、ガイドの切り込みのあいだから、シートベルトをはずしてください。
- シートベルトをガイドからはずした場合は、背もたれをもどす際、車両のシートサイド部と背もたれのあいだに、シートベルトが挟まれないように注意してください。
- リヤシートをもとにもどしたあとは、必ずリヤシートベルトをもとどおりガイドにセットしておいてください。

⚠ 警告

■リヤシートを操作するときは

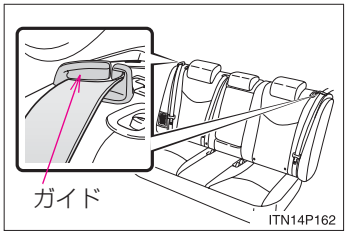
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する



- シートベルトがガイドに通っていることを確認する

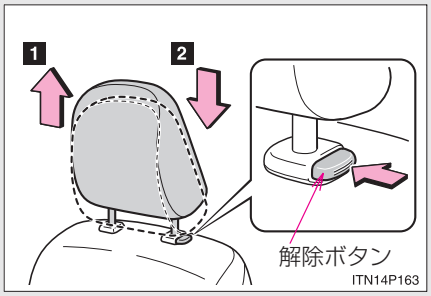
⚠ 注意

■シートを操作するときは

- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

ヘッドレスト

▶ フロントシート

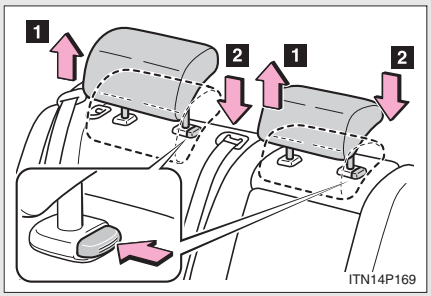


1 上げる

2 下げる

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

▶ リヤシート



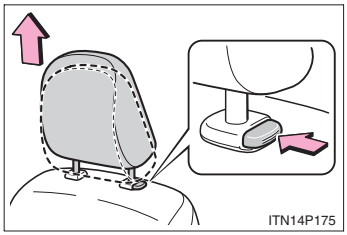
1 上げる

2 下げる

解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

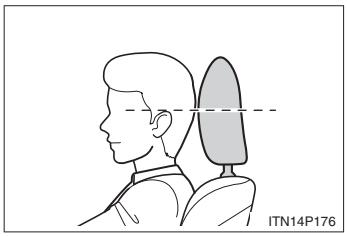
知識

■ヘッドレストの取りはずし



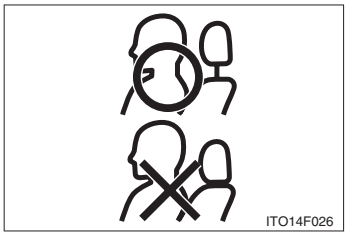
解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

■フロント席のヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ席のヘッドレストの使用について



使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。
また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⚠警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

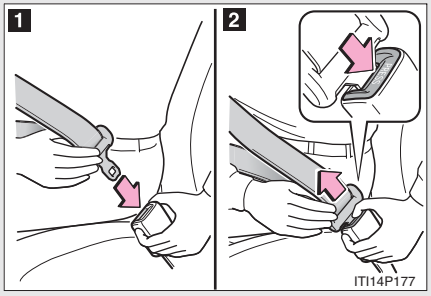
■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

■ 着け方・はずし方



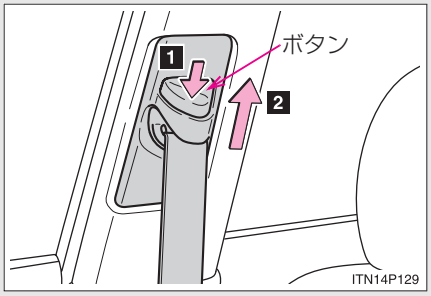
1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

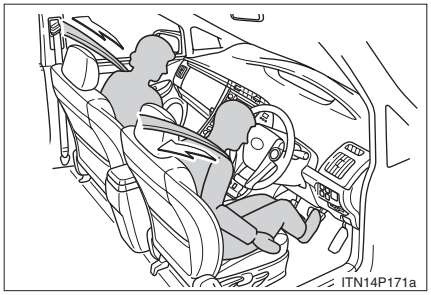


1 ボタンを押しながら下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（フロント席）*

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 234）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

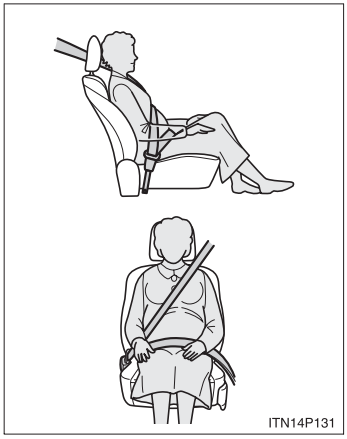
■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 72)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 108)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 72)

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトはひとつにつき一人で使用する
  お子さまでもひとつのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- 左右のリヤシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイド (→P. 68) に通っていることを確認する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠ 警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■プリクラッシュシートベルト*について

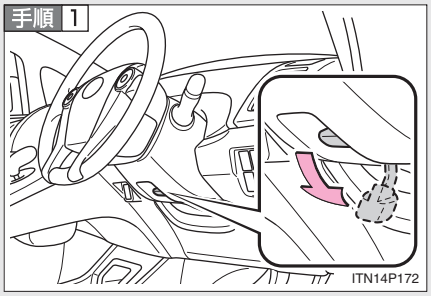
プリクラッシュシートベルトを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハンドル

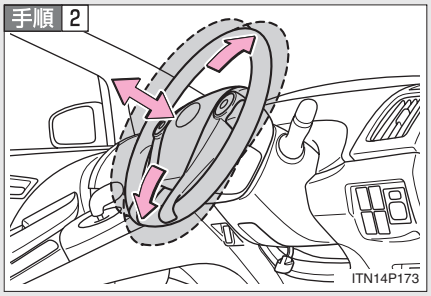
ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

手順 1



ハンドルを持ち、レバーを下げる

手順 2



ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

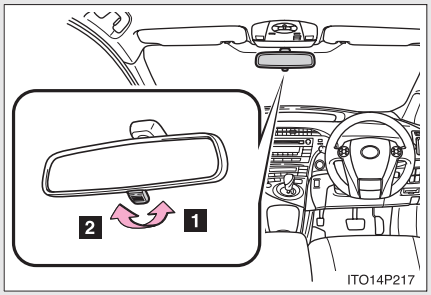
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

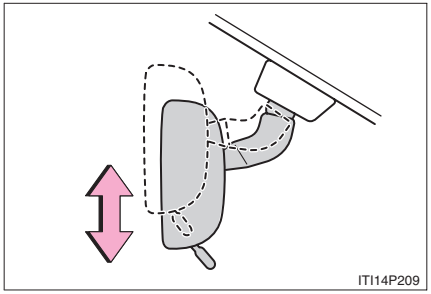
後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

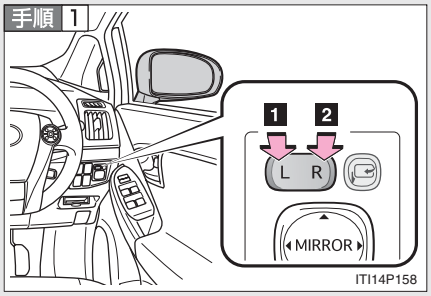
⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

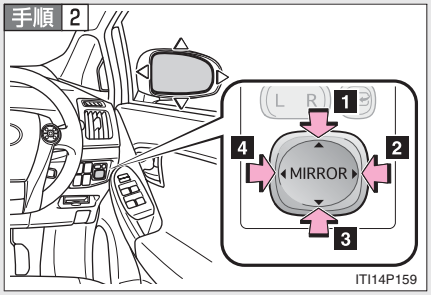
スイッチで鏡面の角度を調整できます。



ミラーを選ぶ

1 L：左

2 R：右



スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

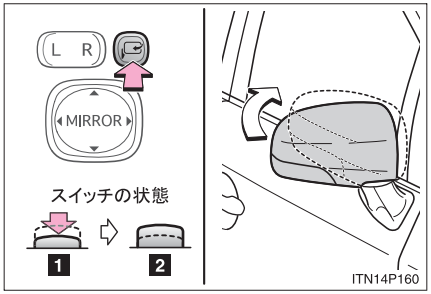
1 上

2 右

3 下

4 左

ドアミラーを格納するときは



スイッチを押して、ドアミラーを格納する

1 格納状態

2 復帰状態

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがアクセサリーモード、または ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（寒冷地仕様車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 286）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

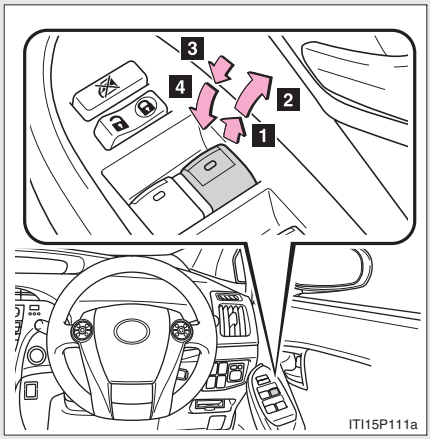
手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているときは（寒冷地仕様車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



1 閉める（スイッチを途中で保持）

スイッチを離すまで、ドアガラスが閉まります。

2 自動全閉※

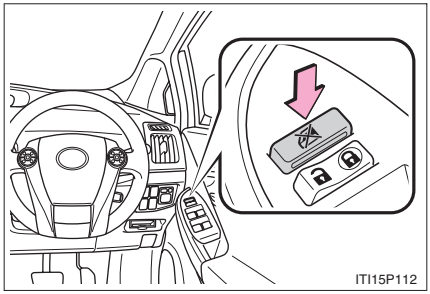
3 開ける（スイッチを途中で保持）

スイッチを離すまで、ドアガラスが開きます。

4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ



スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■“パワー”スイッチ OFF 後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

- ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。
- 故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。（このときは挟み込み防止機能が作動しません）

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“パワー”スイッチを ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

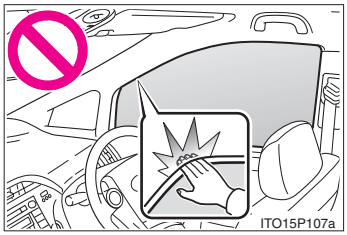
手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ドアガラスを開閉するときは

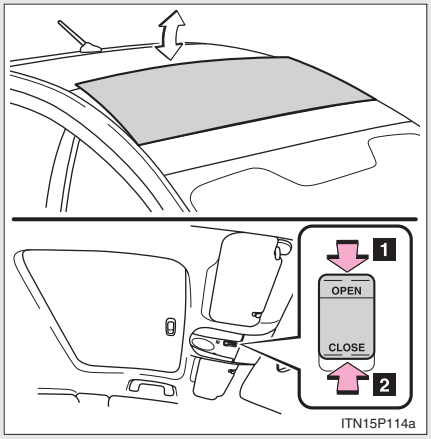
次のことをお守りください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ソーラーパネル付ムーンルーフ*

天井にあるスイッチで、ソーラーパネル付ムーンルーフをチルトアップ／ダウンしたり、開閉したりすることができます。

■ チルトアップ／ダウン



1 チルトアップ

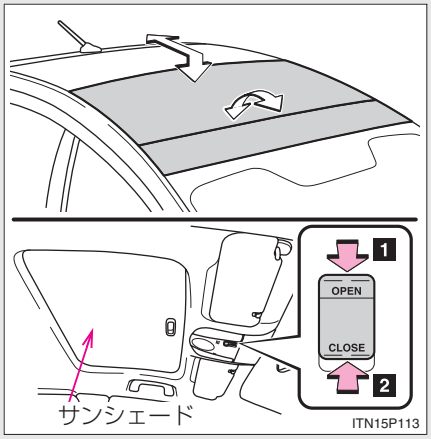
約 0.3 秒以上押し続けて手を離すと、自動でチルトアップし、停止※します。

2 チルトダウン

押しているあいだ、チルトダウンします。

※作動中、押し続けたままにしていると、チルトアップ位置でいったん停止し、その後、開きます。

■ ルーフの開閉



1 開く

チルトアップ自動停止位置でスイッチを約0.3秒以上押し続けて手を離すと、自動で開きます。

- 自動作動を止めたいときは、スイッチを軽く押します。
- 全開手前位置でいったん停止します。再度スイッチを押すと全開します。

2 閉まる

押しているあいだ、ルーフが閉まります。

全閉手前では、いったん停止します。再度スイッチを押すと閉まります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■“パワー”スイッチOFF後の作動

“パワー”スイッチをアクセサリーモード、またはOFFにしたあとでも、約43秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■風切音の低減

自動で開けたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフを開くと連動して開きます。

■ソーラーパネルについて

太陽電池を内蔵しており、日射を受けることによって、ソーラーベンチレーションシステム作動用の電気を生み出します。
ソーラーベンチレーションシステムについては、P. 279を参照してください。

■閉め忘れ警告ブザー

ムーンルーフが完全に閉まっていない状態で、“ パワー ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■ムーンルーフが正常に作動しないときは

次の操作を行ってください。

●スライドクローズ時、およびチルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

CLOSE 側を押し続ける※と、ムーンルーフが全閉します。

※反転作動してもスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから指を離すと、最初からやり直しとなります。

●全閉にしたあとに、オートオープン機能が働かない場合

手順 1 OPEN 側を押してムーンルーフを開く

手順 2 ムーンルーフが全開位置まで開き、その後わずかに閉まる（閉じ方向に動く）まで、OPEN 側を押し続ける

操作後、オートオープン機能が作動することを確認してください。
以上の操作を行ってもオートオープン機能が働かない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

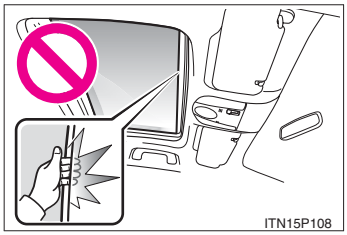
■ムーンルーフを開けているときは

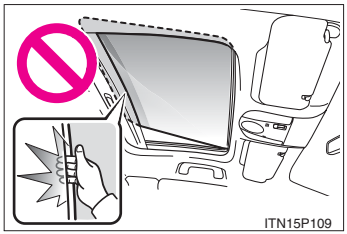
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


ITN15P108


ITN15P109

- ムーンルーフを開閉、またはチルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ソーラーパネル付ムーンルーフについての警告

炎天下では、ソーラーパネルの表面が高温となる場合があります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■ムーンルーフの損傷を防ぐために

- 開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- ムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。
- ムーンルーフが全開・全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

ムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

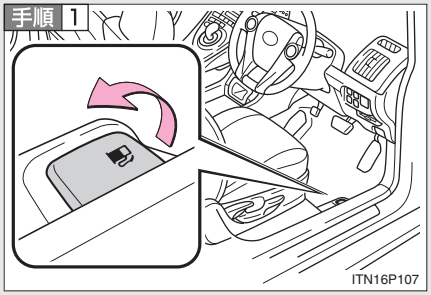
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

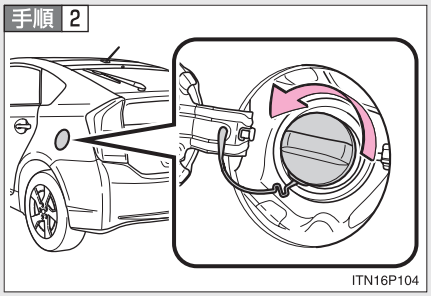
■ 給油する前に

ドアと窓を閉め、“ パワー ” スイッチを OFF にしてください。

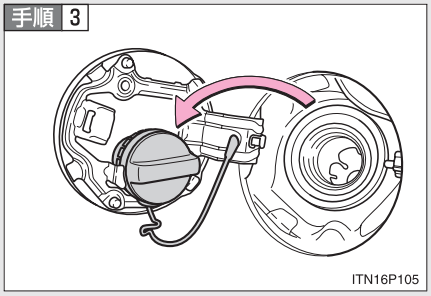
■ 給油口の開け方



給油口オープナーを引いて、給油口を開ける

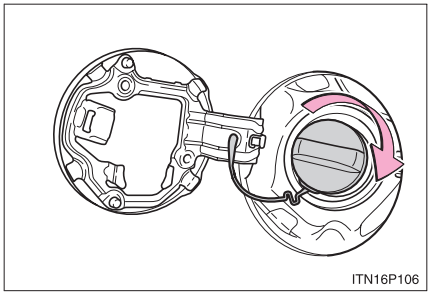


キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

45 L

⚠ 警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
  ゆっくりと開けないと、気温が高いとき給油口から燃料が噴き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人やものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
  正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

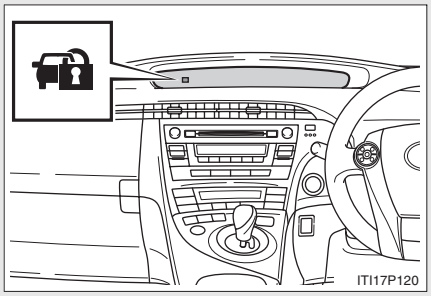
■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では“パワー”スイッチのモード切りかえやハイブリッドシステムの始動ができません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



“パワー”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるために、インジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

⚠ 注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 54

オートアラーム*

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

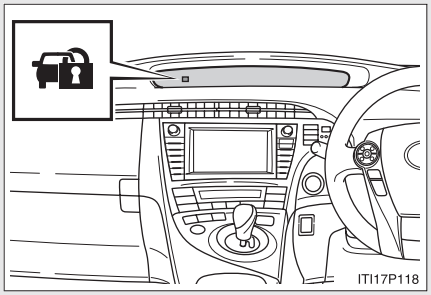
■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアがスマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、オートアラームが作動した場合、メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ G-Security」を参照してください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされると、インジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除、および作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- “パワー” スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

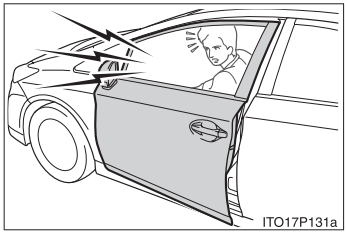
■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

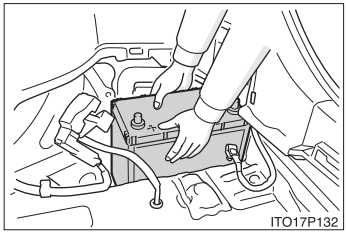
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ（装着車のみ）が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作を行ってください。



- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると、車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

■販売店で設定可能な機能

メカニカルキーで解錠したときの作動内容を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 476）

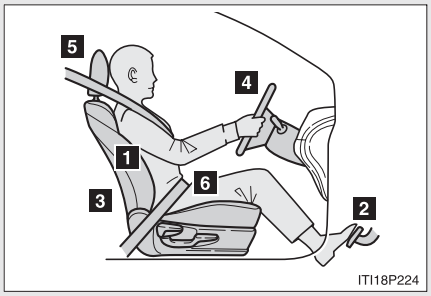
⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。



1. まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 65）
2. シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→ P. 65）
3. 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 65）
4. SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 77）
5. ヘッドレストの中央を耳の後方にする（→ P. 70）
6. シートベルトが正しく着用できる（→ P. 72）

⚠ 警告

■走行中は

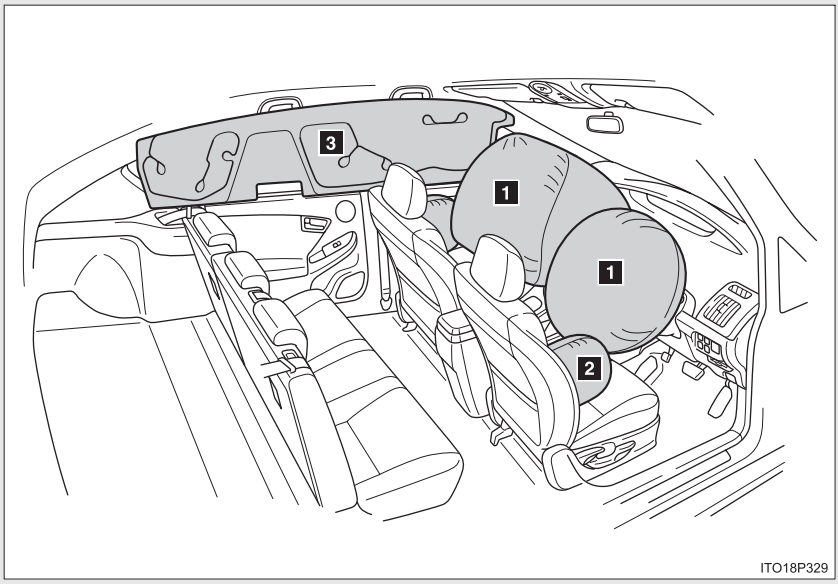
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

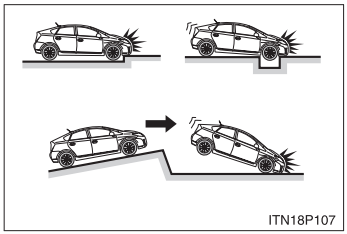
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

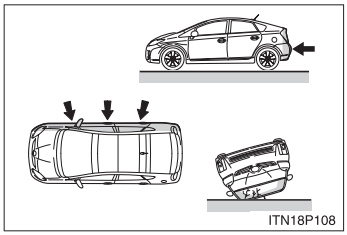
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

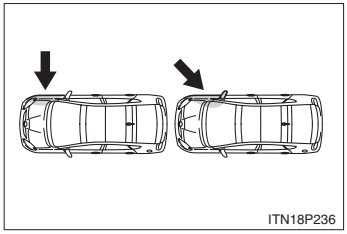
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

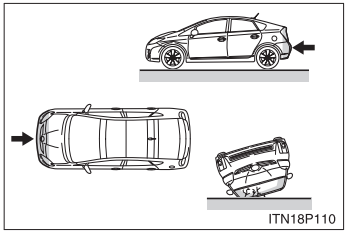
■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



●客室部分以外の側面への衝撃
●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

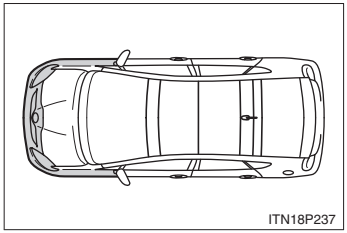


●前方からの衝突
●後方からの衝突
●横転

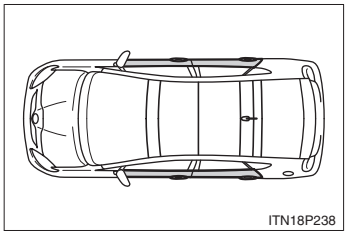
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

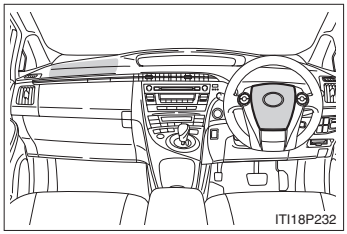
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき


ITN18P237

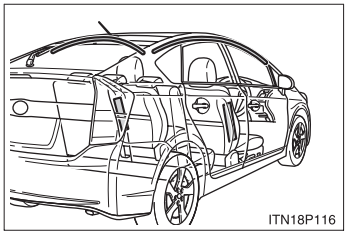
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


ITN18P238

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


ITI18P232

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


ITN18P116

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

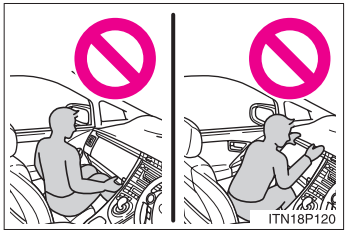
●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

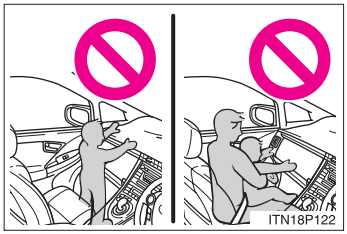
■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 117)



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



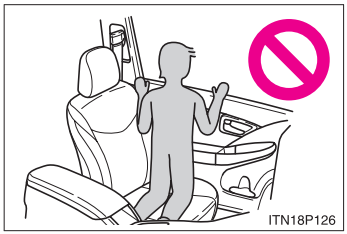
- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

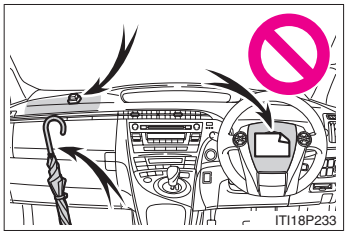
■SRS エアバッグについて



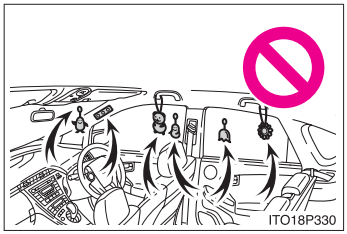
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・サイドガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
  皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

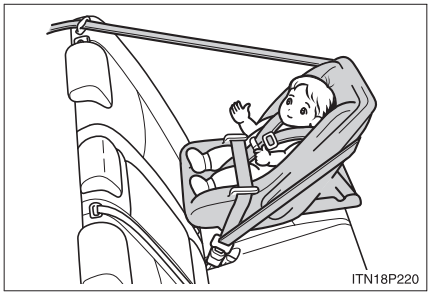
この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

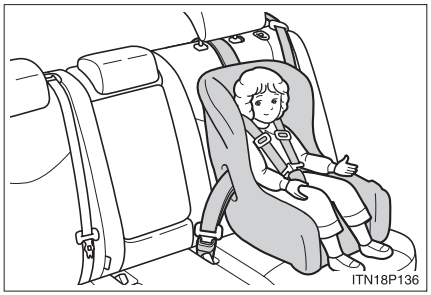
子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート



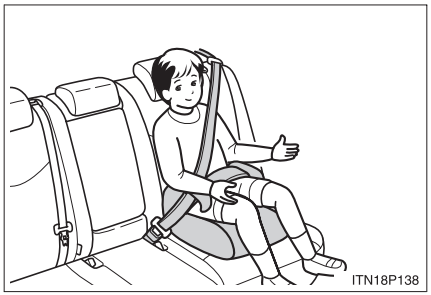
ECE R44 基準のグループ 0、0^{+} に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0^{+}、I に相当

▶ ジュニアシート



ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 （10kg まで）	×	U	U
0^+ （13kg まで）	×	U	U
Ⅰ （9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	U
Ⅱ （15 ～ 25kg）	UF	U	U
Ⅲ （22 ～ 36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15 ～ 25kg）		（1）	×
III（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL ：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× ：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択・使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 110）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 111）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0^+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例 2）：質量グループが「I」の場合、「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

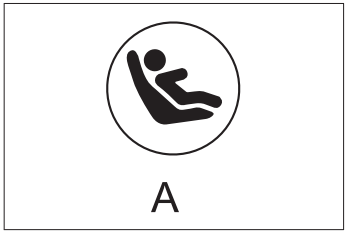
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 112）で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

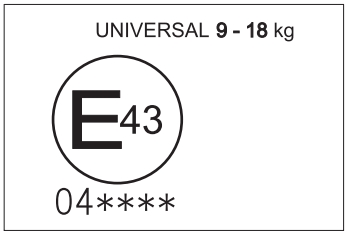
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

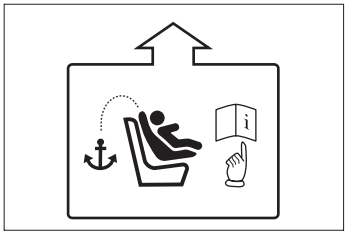
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



3 トップテザー（→P. 117）を示すマーク

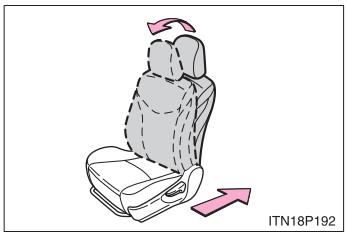
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

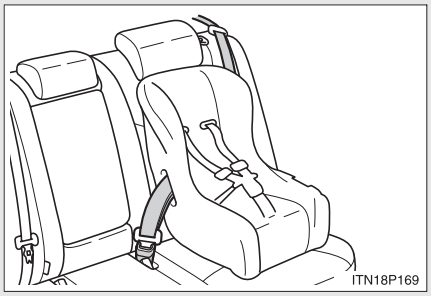
⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

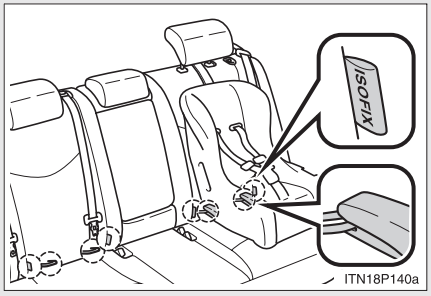
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に、容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書に従ってください。

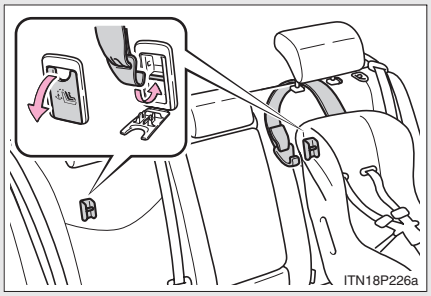


シートベルトによる取り付け
（→P. 118）



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー
（→P. 119）

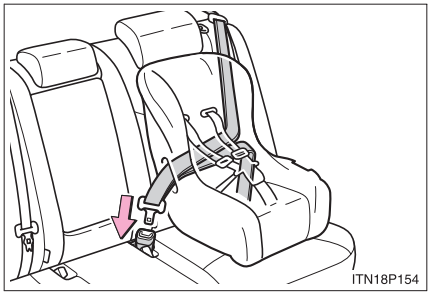
リヤシートの外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



トップテザーアンカー
（→P. 119）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーは、リヤシートの外側席に装備されています。

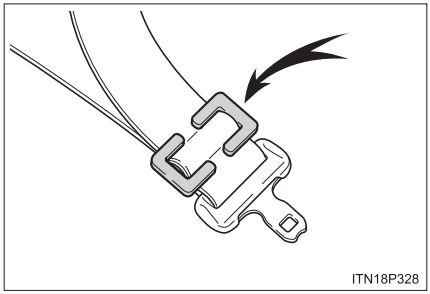
シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け※、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

※チャイルドシートがヘッドレストにかかる場合は、ヘッドレストを上げてください。（→ P. 70）



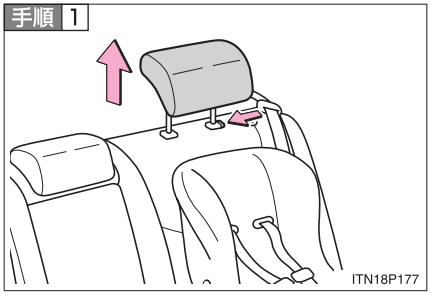
チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

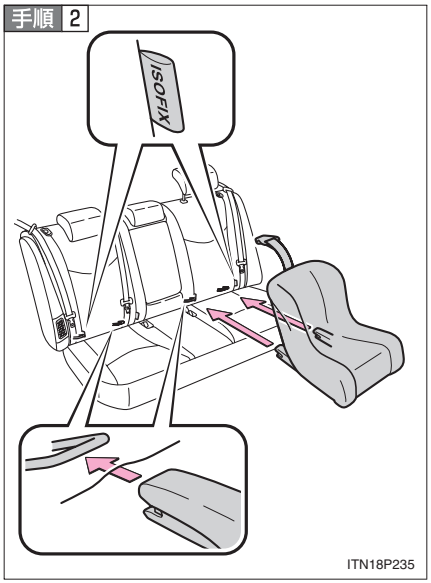
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

手順 1



ヘッドレストを上げる

手順 2

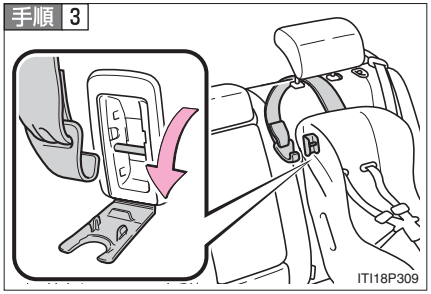


固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書に従ってください。

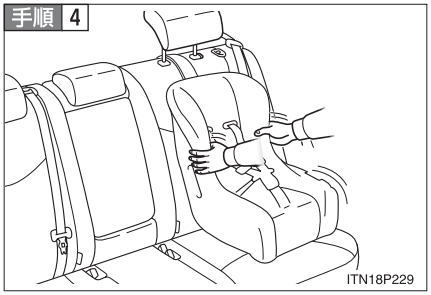
手順 3



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

手順 4



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

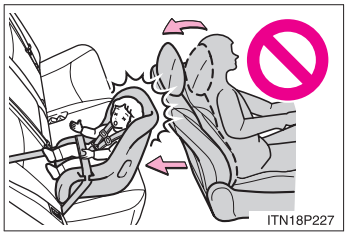
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

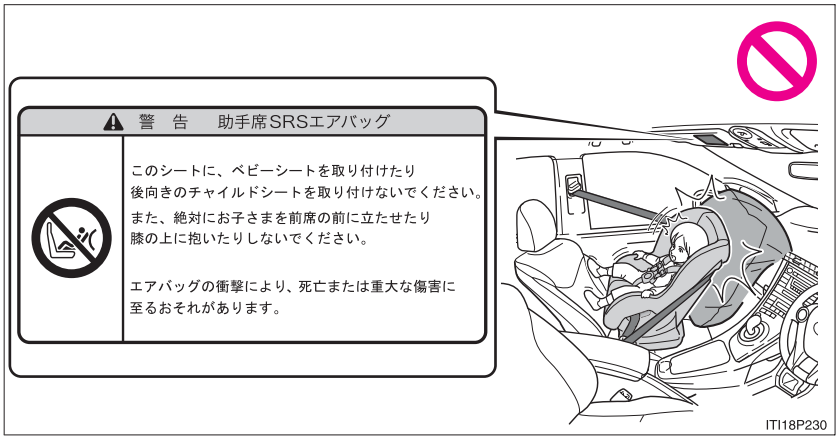
⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは


ITN18P227

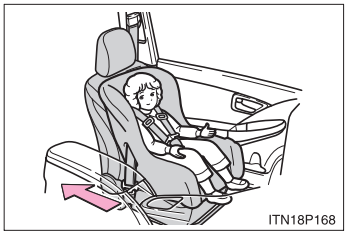
●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。



ITI18P230

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。


ITN18P168

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席をいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた
- 運転にあたって 126
- パワー（イグニッション）スイッチ 138
- EV ドライブモード..... 144
- トランスミッション..... 147
- 方向指示レバー 155
- パーキングブレーキ..... 156
- ホーン（警音器）..... 157

2-2. メーターの見方
- 計器類..... 158
- 表示灯／警告灯 161
- エコドライブモニター..... 164
- ヘッドアップディスプレイ..... 188

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方
- ライトスイッチ 198
- フォグライトスイッチ..... 203
- ワイパー & ウォッシャー..... 206
- ヘッドライトクリーナー..... 209

2-4. その他の走行装置の使い方
- クルーズコントロール..... 210
- レーダークルーズコントロール..... 214
- 運転を補助する装置..... 225
- ヒルスタートアシストコントロール..... 230
- 緊急ブレーキシグナル..... 232
- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 233
- ETC システム..... 241

2-5. さまざまな状況での運転
- 荷物を積むときの注意..... 260
- 寒冷時の運転..... 262

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ ハイブリッドシステムを始動する（→P. 138）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P. 147）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 156）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にする（→P. 150）

■ 駐車する

手順 1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 156）

手順 3 シフトポジションを P にする（→P. 150）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 “パワー”スイッチを OFF にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

手順 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 34 の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■環境に配慮した走行をするために

ハイブリッドシステムインジケーター／エコドライブインジケーターランプを活用してください。（→P. 172）

■ヒルスタートアシストコントロールについて

ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。（→P. 230）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■下り坂を連続して走行したとき

アクセルペダルをもどすと、ガソリンエンジンの回転数が高くなることがありますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■発進するときは

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■走行中の警告

→P. 146

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

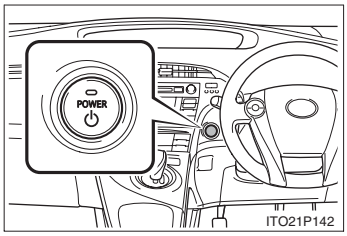
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■運転するときは

- 前進側のシフトポジションを選択したまま惰性で後退したり、R を選択したまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- シフトポジションを前進中Rに、または後退中Dにしようとしたり、車がまだ動いているのに P ポジションスイッチを押したりしないでください。そのような操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションが N になりますが、駆動系に無理な力がかかり、損傷するおそれがあります。
- 走行中はシフトポジションを N にしないでください。
  N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 走行中は“パワー”スイッチにふれないでください。
  誤って“パワー”スイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P. 148)

⚠ 警告

■運転するときは

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オフロード走行をしないでください。
  やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトレバーの操作後は、シフトポジションインジケーター（→P. 158）で、現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると、故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
  どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は、排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■排気ガスについて

- 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 換気が悪い場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ず“パワー”スイッチを OFF にしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して運転してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- 万一システムの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、いずれかの油圧システムが故障しても、異常のない系統は作動します。ただし、その場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。
  いずれかのブレーキシステムに異常がある状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

⚠ 注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制することがあります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

■タイヤがパンクしたときは

▶応急用タイヤ装着車

応急用タイヤに交換してください。(→P. 424)

▶タイヤパンク応急修理キット装着車

タイヤの損傷の程度を確認してください。

●修理可能な場合は、応急修理してください。(→P. 435)

●修理不可能な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのガソリンエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

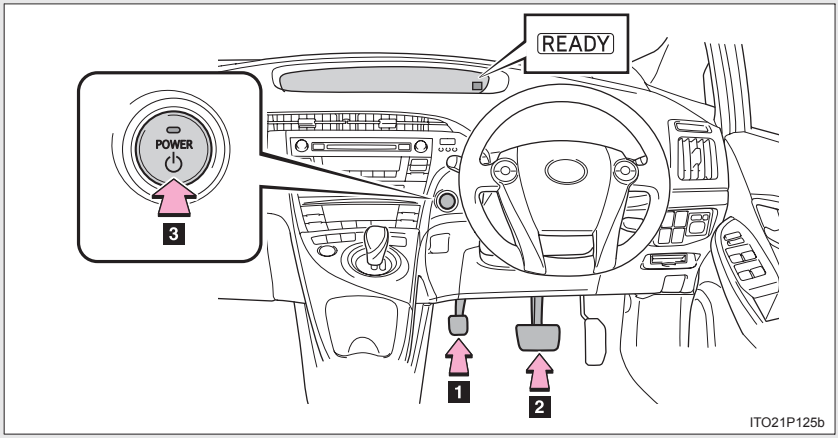
- ブレーキの効き具合
- ガソリンエンジン・ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水により P ポジション制御関連部品が損傷すると、パーキングロックが解除できなくなる可能性があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムを始動、またはモードを切りかえることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法



1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏み、“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯することを確認する

緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N のときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P. 150）

3 “パワー”スイッチを押す

完全にハイブリッドシステムが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。

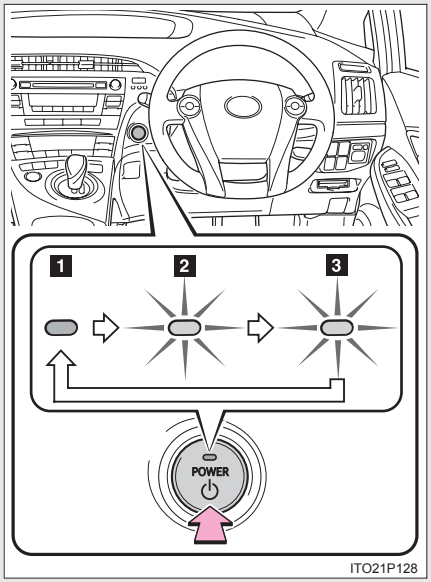
どのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

READY インジケーターが点滅から点灯にかわれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します）

■“パワー”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

“パワー”スイッチが ON モードでシフトポジションが P 以外、かつ車両が完全に停止した状態で“パワー”スイッチを押すと、“パワー”スイッチが OFF になると共に自動 P ポジション切りかえ機能が働きます。（→P. 151）

■ ハイブリッドシステム停止のしかた

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 156）

手順 3 P ポジションスイッチを押す（→P. 150）

シフトポジションインジケーター（→P. 158）で、P の位置の枠が点灯していることを確認してください。

手順 4 “パワー” スイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。
（シフトポジションインジケーターは、メーター表示が消えたあとも 1 ～ 2 秒程度、表示されています）

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして “パワー” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 93)

■“パワー”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P のとき、1 時間以上アクセサリーモードか ON モード(ハイブリッドシステムが始動していない状態) にしたままにしておくと、“パワー”スイッチのモードが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま、長時間放置しないでください。

■“パワー”スイッチの操作について

“パワー”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので、点灯するまでそのままお待ちください。

■P ポジション制御システムについて

P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけると、スイッチを OFF にすることができます。
システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ハイブリッドシステム停止後に再始動したいとき

ハイブリッドシステム停止後、すぐに始動操作を行うと、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。“パワー”スイッチを OFF にしたあとは、時間をおいてから始動操作を行ってください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」という警告メッセージが表示されたときは

→P. 418

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 48

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 385

■ご留意いただきたいこと

→P. 49

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、3 秒以上“パワー”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムの停止中に、“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにハイブリッドシステムの点検を受けてください。

■“パワー”スイッチの操作について

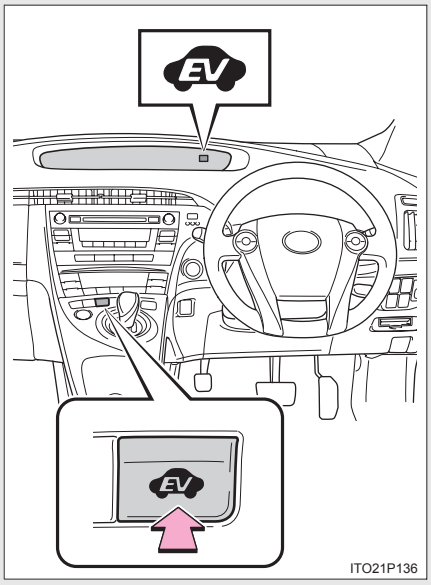
“パワー”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 54

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝・深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。



EVドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のとき※は EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P. 412)

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや、登降坂・高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

※状況により、上記の他にも EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速が約 55km/h 以下で、数百 m から約 2km 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■走行モード（→P. 149）の切りかえについて

EVドライブモードとエコドライブモード／パワーモードは併用することができます。
ただし、パワーモードとの併用時は EV ドライブモードが自動解除されやすくなることがあります。

■燃費について

プリウスは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、もっとも燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

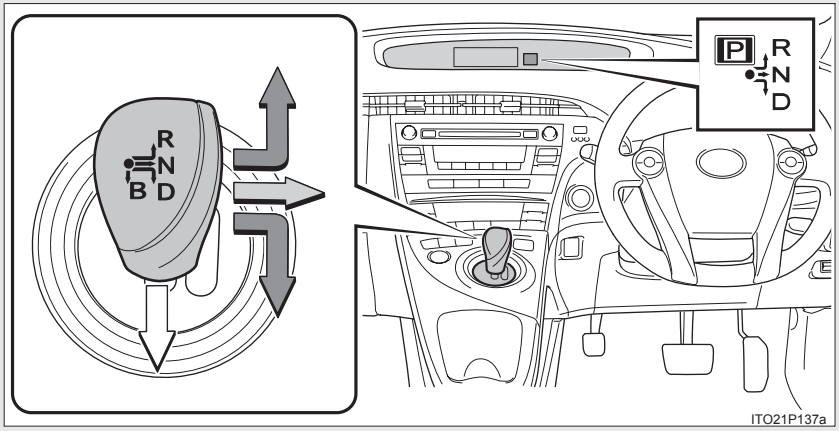
⚠ 警告

■走行中の警告

EV ドライブモードでの走行は、ガソリンエンジンの音がしないため、歩行者・自転車・付近の人や車が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。
十分注意して運転してください。

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方



⇦ シフトポジションが D のときのみ、切りかえが可能です。

⇦ 切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

⇦ Nに切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

● シフトレバーを操作したあとは、常に中央の位置にもどります。

P から D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

現在のシフトポジションに連動して、シフトポジションインジケーター上の枠の表示位置がかわります。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジションインジケーター（→P. 158）で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

■ シフトポジション切りかえ時の制約事項

- “パワー” スイッチが OFF のときは、シフトポジションを切りかえることができません。
- “パワー” スイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、D・N・R を選択できます。（D に切りかえたあとは、B も選択できます）
- D 以外から直接、B に切りかえることはできません。（D・B 以外のときは、シフトポジションインジケーターの B 方向への矢印と B ポジション表示が消灯します）
- P を選択するときは、P ポジションスイッチを押します。（→P. 150）

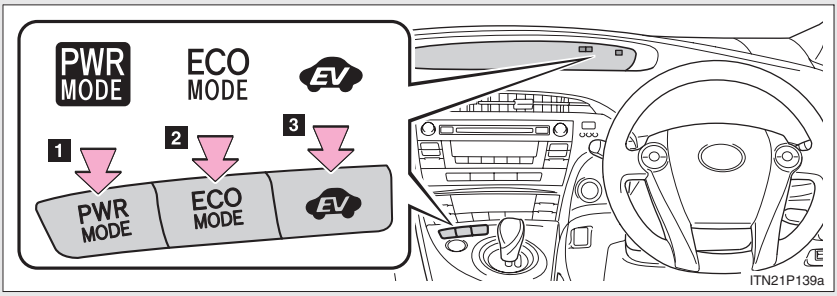
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステム始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂など、アクセルペダルを離したときに強いブレーキ力、またはエンジンブレーキが必要な場合

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

走行状況に合わせて、次のいずれかのモードを選択して走行できます。



1 パワーモード

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スイッチを押すと、メーター内のパワーモード表示灯が点灯します。

2 エコドライブモード

駆動力とエアコン（暖房／冷房）の作動などを抑え、燃費を向上させる走行に適しています。（→P. 152）

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイの表示がハイブリッドシステムインジケーター（→P. 172）に切りかわります。※

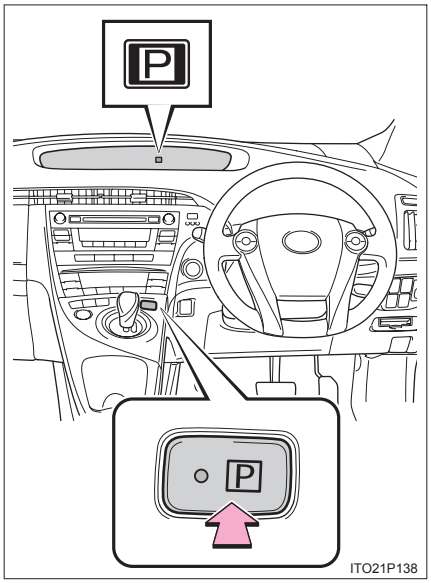
※マルチインフォメーションディスプレイを非表示に設定してある場合を除く（→P. 184）

3 EV ドライブモード

→P. 144

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえるときは



車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏みながら、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

シフトポジションインジケーター（→P. 158）で、P の位置の枠が点灯していることを必ず確認してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえるときは

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジションインジケーター（→P. 158）で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをBに切りかえることはできません。

知識

■シフトポジション変更時の制限事項

シフトポジションの切りかえには制限があり、不正な操作をするとブザーが鳴り、下表に示すシフトポジションに自動で変更されます。ブザーが鳴った場合は、適切なシフトポジションに切りかえてください。

操作	選択されるシフトポジション
ブレーキペダルを踏まずに、P から他のシフトポジションに切りかえようとした	P
走行中に P ポジションスイッチを押した	N※
P または N から B に切りかえようとした	現在のまま
前進中 R に切りかえようとした	N
後退中 D に切りかえようとした	
R から B に切りかえようとした	

※極低速走行時は、P ポジションに切りかわることがあります。(→P. 153)

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

“パワー”スイッチが ON モードでシフトポジションが P 以外、かつ車両が完全に停止した状態のとき、“パワー”スイッチを押すと、シフトポジションが自動で P に切りかわり、“パワー”スイッチが OFF になります。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処方法は、P. 456 を参照してください。

■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションをBにしてください。

■エコドライブモード／パワーモードを解除するときは

●再度スイッチを押します。なお、“パワー”スイッチをOFFにするとパワーモードは自動的に解除されますが、エコドライブモードはスイッチを再度押して解除するまで、“パワー”スイッチをOFFにしても自動では解除されません。

●エコドライブモードのときにパワーモードスイッチを押す、またはその逆の操作を行うと、あとから押したスイッチのモードに切りかわります。

■エコドライブモードを使用しているときは

●ノーマルモードにくらべて、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。

●エコドライブモードは、暖房／冷房の効きを抑えることで燃費向上を図っています。(→P. 275)
効きを強くしたいときは、エコドライブモードを解除してください。

■EV ドライブモード時の走行モードの切りかえについて

→P. 146

■補機バッテリーを脱着したときは

ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジションインジケーターで確認してください。

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

■シフトレバーについて

シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■P ポジションスイッチについて

車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■P ポジション制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、P ポジション制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイに P ポジション制御システムの異常警告メッセージが表示されたとき（→P. 413）
- P ポジションスイッチの作動表示灯が点滅したとき
- シフトポジションインジケーターの文字（P や R など）が消灯し、すべての枠が点滅したとき
- シフトポジションインジケーターが点灯しないとき

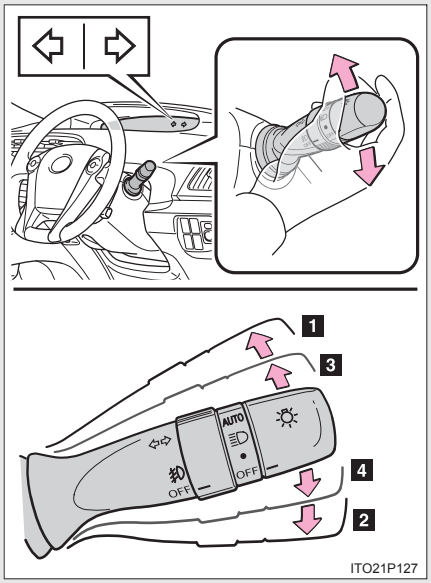
■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると、駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。駆動用電池のバッテリーあがりを防ぐためにも、駐車時はシフトポジションを P にしてください。（シフトポジションが P のときは、残量に応じて駆動用電池が自動的に充電されます）

方向指示レバー



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

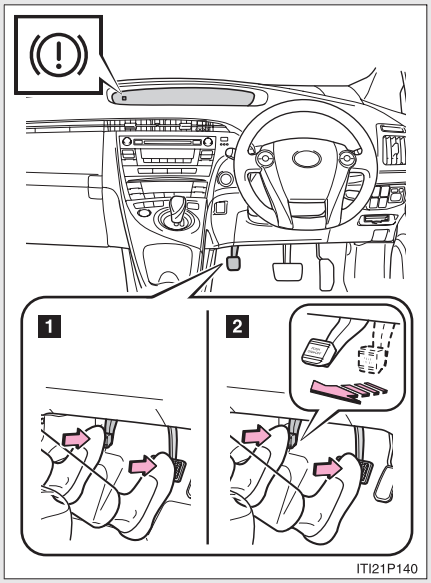
■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ



1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキペダルを踏み込みます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（P. 262）の記載を参照してください。

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

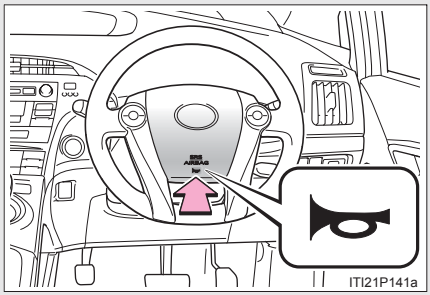
→P. 406

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）



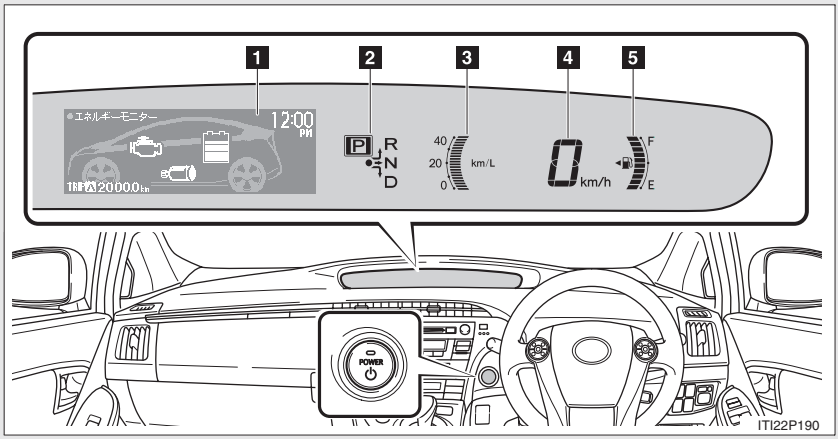
ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。（→P. 77）

計器類



“パワー”スイッチを ON モードにすると計器類が表示されます。

1 エコドライブモニター

→P. 164

2 シフトポジションインジケーター

現在のシフトポジションを表示します。

3 瞬間燃費計

現在の瞬間燃費を表示します。

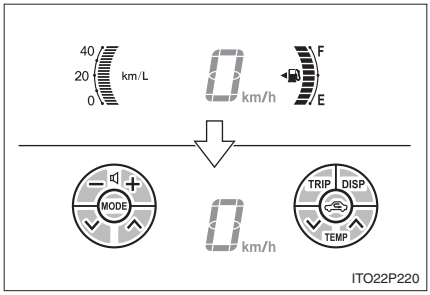
4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

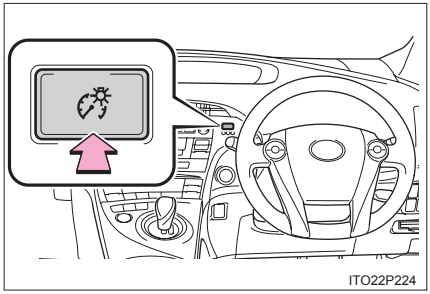
タッチトレーサーディスプレイ*



ステアリングスイッチにふれると、メーターの表示が、タッチトレーサーディスプレイに切りかわります。

ステアリングスイッチの操作方法については、P. 165, 277, 310 を参照してください。

メーター照度調整スイッチ



車幅灯が点灯中で、かつ周囲が暗いとき、スイッチを押すたびに、メーター表示の明るさが切りかわります。

メーター表示は、3 段階に明るさを調整できます。

知識

■タッチトレーサーディスプレイ*について

- タッチトレーサーディスプレイ非装着車では、オーディオ（装着車のみ）・エアコン操作用のステアリングスイッチを操作しても、メーター部にタッチトレーサーディスプレイは表示されません。
- タッチトレーサーディスプレイ装着の有無がわからない場合は、懐中電灯などを使ってメーター内を照らすことで確認できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■メーター照度について

●車幅灯を点灯※すると、メーター照明が減光されます。表示が見づらい場合は、メーター照度調整スイッチを押し続けることで、減光を解除することができます。（このときは、メーター照度調整で最も明るくした状態より、さらに明るくなります）
もとにもどすときは、再度スイッチを押します。

※昼間など周囲が明るいときは、車幅灯を点灯しても、メーター照明は減光されません。

●メーター照度を変更すると、タッチトレーサーディスプレイの明るさも変化します。（タッチトレーサーディスプレイ装着車のみ）

⚠ 注意

■P ポジション制御システムの異常が考えられるとき

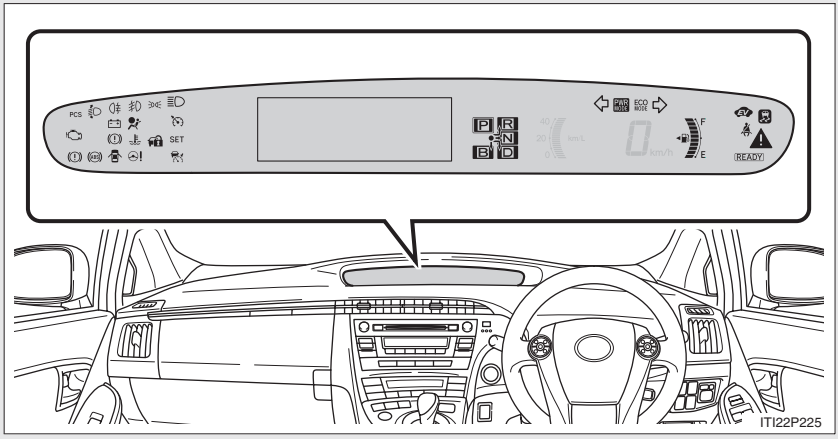
→P. 154

■ガソリンエンジンの損傷を防ぐために

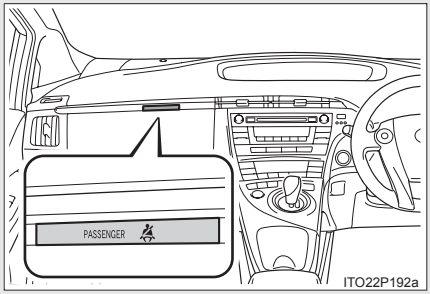
この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯(→P. 407)が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 462)

メーター・インストルメントパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ インストルメントパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯
（→P. 155）


尾灯表示灯
（→P. 198）


ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 199）


フロントフォグライト
表示灯*（→P. 203, 205）


リヤフォグライト表示灯*
（→P. 204, 205）


セキュリティ表示灯
（→P. 93, 94）


クルーズコントロール
表示灯*※1（→P. 210）


車間制御モード表示灯*
（→P. 214）



セット表示灯*
（→P. 210, 214）


（点滅）
スリップ表示灯※2
（→P. 226）



READY インジケーター
（→P. 138）



ECO MODE 表示灯
（→P. 149）



パワーモード表示灯
（→P. 149）



EV ドライブモード
表示灯（→P. 144）



（速い点滅）
PCS 警告灯*※2※3
（→P. 233）



シフトポジションインジ
ケーター（→P. 158）

※1 レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

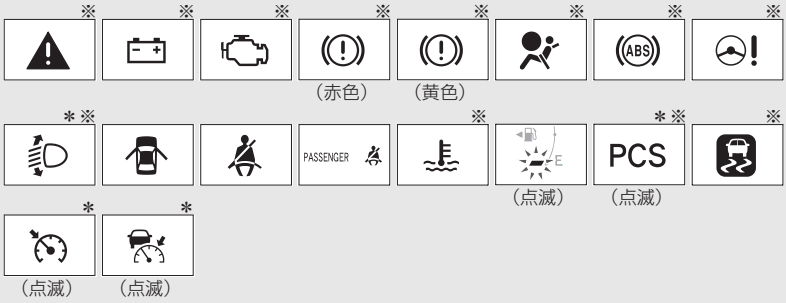
※2 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 プリクラッシュブレーキが OFF のときは点灯します。（→P. 235）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 406)



※ 作動確認のために“パワー”スイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

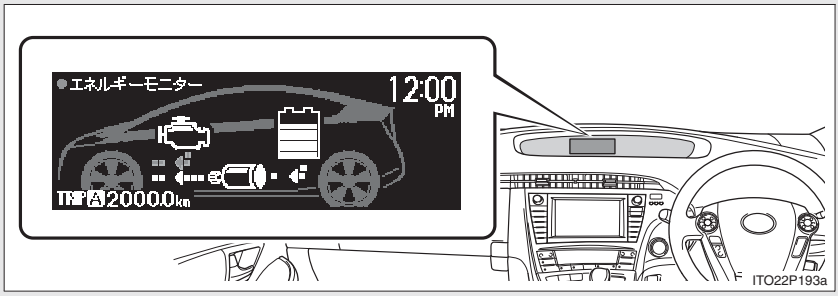
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“パワー”スイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エコドライブモニター

メーター内にあるエコドライブモニターでは、車両に関する各種の情報を表示することができます。

エコドライブモニターは、ハイブリッドシステムの作動状況や、燃費に関する情報など、エコドライブを支援する情報を表示する他、各種の警告メッセージなどを表示する、マルチインフォメーションディスプレイとしての機能を備えています。



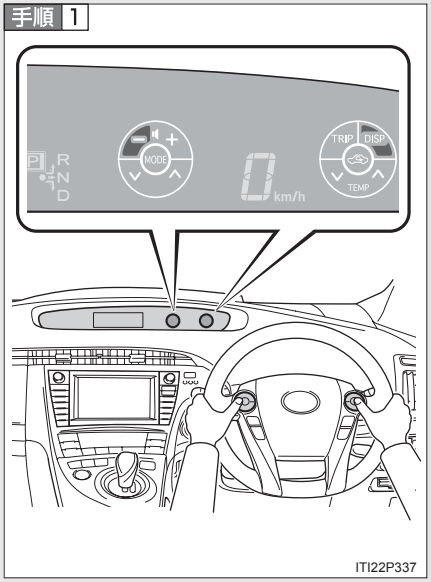
エコドライブモニターでは、次の情報を確認できます。

- エネルギーモニター（→P. 169）
- ハイブリッドシステムインジケーター（→P. 172）
- 5 分間燃費／ 1 分間燃費（→P. 176）
- トリップ燃費履歴（→P. 179）
- オドメーター／トリップメーター／航続可能距離（→P. 181）
- 時計（→P. 183）
- レーダークルーズコントロール表示※（→P. 214）
- 警告メッセージ（→P. 412）

※レーダークルーズコントロール装着車のみ

■ 画面の操作

手順 1

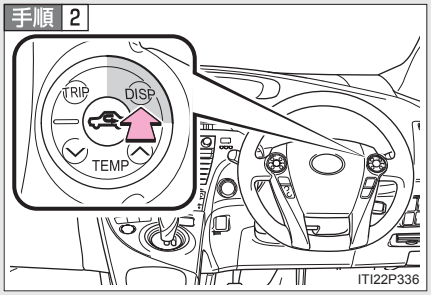


画面を切りかえるときは、ステアリングスイッチを操作する

タッチトレーサーディスプレイ装着車では、スイッチ操作に連動して、タッチトレーサーディスプレイが表示されます。

- スイッチ内部のタッチセンサーが指の接触を感知すると、メーターの表示がタッチトレーサーディスプレイに切りかわります。
- ふれているスイッチのみが強調表示され、手元を見なくても、どのスイッチを操作しているか判断できます。
- スイッチから指を離すと、通常のメーター表示にもどります。

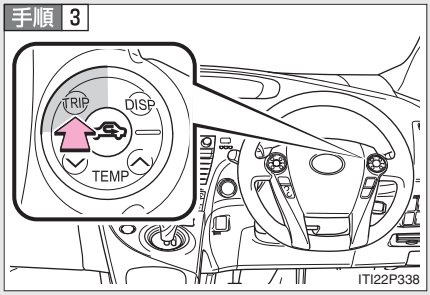
手順 2



DISP スイッチを押して、画面表示を切りかえる

目的の画面が表示されるまで、くり返しDISPスイッチを押します。

手順 3



オドメーター／トリップメーター／航続可能距離を切りかえるときは、TRIP スイッチを押す

知識

■エコドライブモニターを活用するために

「ハイブリッド車運転のアドバイス」(→P. 34)の記載を併せて参照してください。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- トリップメーター
- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速
- 時計
- 表示設定の内容（→P. 184）

■タッチセンサー内蔵ステアリングスイッチについて
（タッチトレーサーディスプレイ装着車）

●必要に応じて、ステアリングスイッチにふれてもタッチトレーサーディスプレイが表示されないように、設定を変更できます。（→P. 184）

●タッチセンサーを内蔵しているのは、ゴムで覆われた円形のスイッチのみです。その他のステアリングスイッチ（オプション装備の電話スイッチなど）にふれても、タッチトレーサーディスプレイは表示されません。

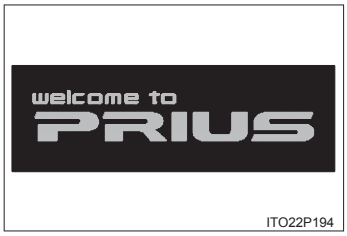
■タッチトレーサーディスプレイ*について

→P. 159

■ステアリングスイッチについて

ステアリングスイッチは、エコドライブモニターの操作だけでなく、エアコンやオーディオ（装着車のみ）などの操作にも使用します。
（→P. 277, 310）

■ウェルカム表示



●“パワー”スイッチをONモードにしたとき、エコドライブモニターに車名が表示されます。

●ヘッドアップディスプレイ（→P. 188）が表示可能状態のときは、ヘッドアップディスプレイにも同様に表示されます。（ヘッドアップディスプレイ装着車のみ）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

⚠ 注意

■ステアリングスイッチについての注意

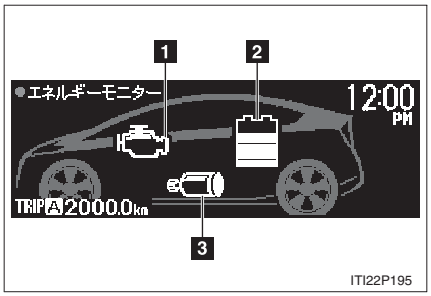
ステアリングスイッチは、精密部品です。装置の破損を防ぐため、次のことをお守りください。

- ぬれた手でさわらない
- 固いものや鋭利なものなどを押し付けたりしない
- 強い衝撃を与えない
- シンナー・ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や、酸性・アルカリ性の溶剤をスイッチの表面に付着させない

エネルギーモニター

ガソリンエンジンの作動状況や、電気エネルギーの使用・回収状況など、現在のハイブリッドシステムの作動状態を表示します。

■ 画面の見方について



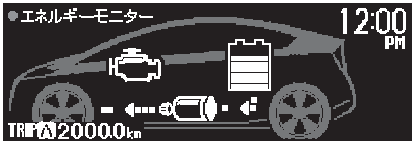
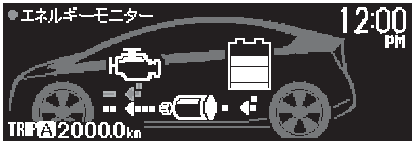
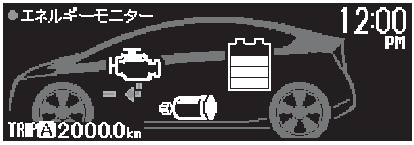
画面上のアイコン・表示は、それぞれ次の意味を表しています。

1 ガソリンエンジン

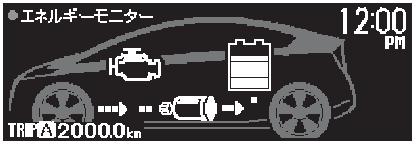
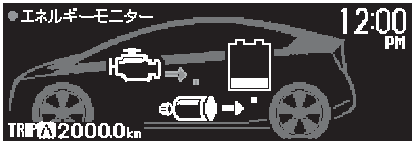
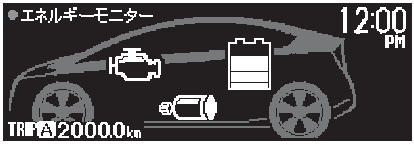
2 駆動用電池

3 電気モーター

車両の走行状況（加速中・減速中など）により、矢印の状態が変化し、現在のエネルギーの流れを視覚的に表示します。

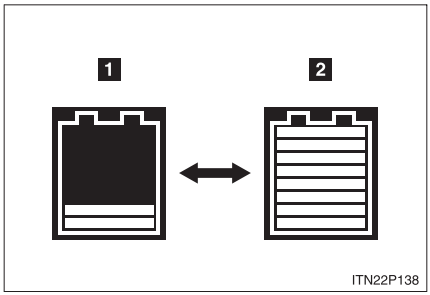
車両の状況	エネルギーモニターの表示※
電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	

※ 画面は説明のための例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

車両の状況	エネルギーモニターの表示※
駆動用電池に充電しているとき	
	
エネルギーの流れがないとき	

※ 画面は説明のための例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

■ 駆動用電池のアイコンについて



駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

1 残量が少ない

2 残量が多い

知識

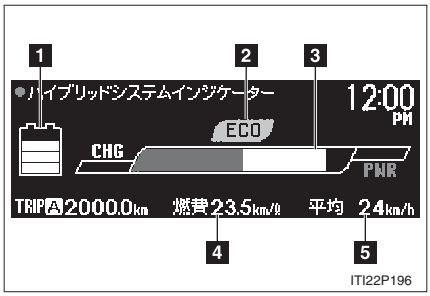
■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（ レベル8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

ハイブリッドシステムインジケーター

アクセル操作の状況や、ハイブリッドシステムの作動状況に応じて、インジケーターの表示が変化します。このインジケーターの状態を確認することで、より環境に配慮した走行が可能となります。

■ 各アイコン類の意味・名称



1 駆動用電池

現在の駆動用電池の残量に応じて、表示が変化します。(→P. 171)

2 エコドライブインジケーターランプ

現在の運転状況に応じて、点灯・消灯します。(→P. 175)

3 ハイブリッドシステムインジケーター

「ハイブリッドシステムインジケーターの見方」(→P. 173)の記載を参照してください。

4 平均燃費

リセット操作※を行って計測を開始してから現在までの、平均燃費を表示します。

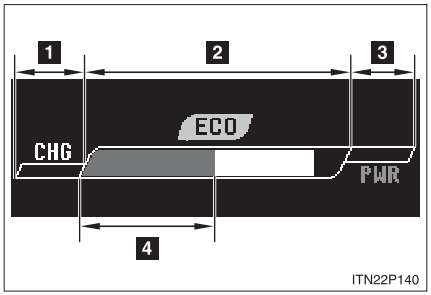
5 平均車速

リセット操作※を行って計測を開始してから現在までの、平均車速を表示します。

※ TRIP スイッチ(→P. 166)を押し続けると、リセットされます。

■ ハイブリッドシステムインジケーターの見方

インジケーター上のバー表示が、現在どのエリアにあるかを確認することで、車両の走行状況を把握できます。



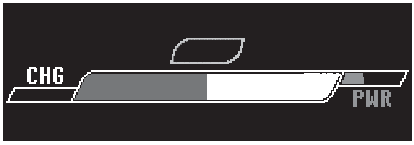
1 チャージエリア
2 エコエリア
3 パワーエリア
4 ハイブリッドエコエリア

バー表示が各エリアにあるときの走行状況は、次のとおりです。

バー表示	画面※1	エコドライブインジケーターランプの状態
チャージエリアにあるとき 回生ブレーキ機能（→P. 23）により、エネルギーを回収している状態を示しています。		 （点灯）
ハイブリッドエコエリアにあるとき ガソリンエンジンの動力を使用しない状況※2を多く含む状態を示します。		

※1 画面は説明のための例であり、実際の表示と異なる場合があります。

※2 ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

バー表示	画面※	エコドライブインジケーターランプの状態
エコエリアにあるとき 環境に配慮した走行をしている状態を示します。		 （点灯）
パワーエリアにあるとき 全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。		 （消灯）

※ 画面は説明のための例であり、実際の表示と異なる場合があります。

知識

■エコドライブインジケーターランプについて

環境に配慮した運転をしているとき、点灯します。

●次の条件を満たしているときに作動します。
・シフトポジションが D で走行中のとき
・走行モード（→P. 149）がノーマルモード、またはエコドライブモードのとき
・車速が約 100km/h 以下のとき

●5 分間燃費／ 1 分間燃費表示（→P. 176）のときにも表示されます。

●エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を変更することができます。（→P. 184）

■ヘッドアップディスプレイ装着車は

ヘッドアップディスプレイにも、ハイブリッドシステムインジケーターを表示することができます（→P. 190）。作動内容は、エコドライブモニター上の表示と同様です。

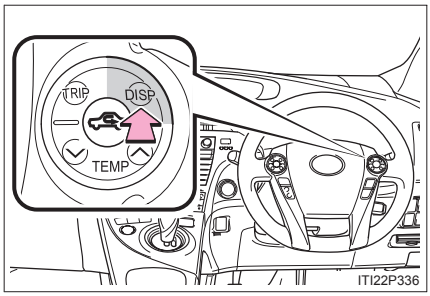
■走行モードをエコドライブモードにしたときは（→P. 149）

エコドライブモニターの表示が、自動でハイブリッドシステムインジケーターに切りかわります。
（エコドライブモニターを非表示に設定してある場合を除く：→P. 184）

5 分間燃費／ 1 分間燃費

5 分間、または 1 分間あたりの平均燃費、およびエネルギー回収量などを表示します。

■ 5 分間燃費／ 1 分間燃費の表示を切りかえるには

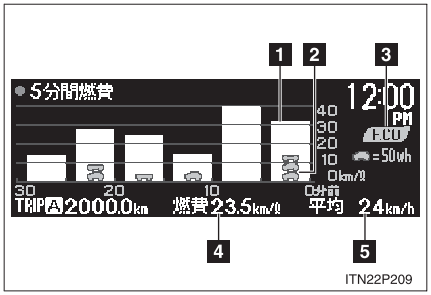


5 分間燃費、または 1 分間燃費を表示している状態で DISP スイッチを押し続ける

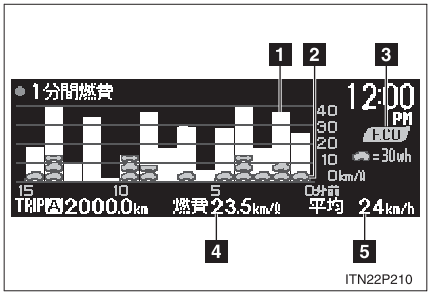
操作するごとに、5 分間燃費／ 1 分間燃費の表示が交互で切りかわります。

■ 画面の見方

▶5 分間燃費



▶1 分間燃費



1 時間あたり※1 の平均燃費

2 時間あたり※1 のエネルギー回収量

3 エコドライブインジケーターランプ（→P. 175）

4 平均燃費

リセット操作※2 を行って計測を開始してから現在までの、平均燃費を表示します。

5 平均車速

リセット操作※2 を行って計測を開始してから現在までの、平均車速を表示します。

※1 画面表示が5分間燃費のときは5分ごとの、1 分間燃費のときは 1 分ごとのデータが表示されます。

※2 TRIP スイッチ（→P. 166）を押し続けると、リセットされます。

知識

■エネルギー回収量の表示について

- 画面表示が 5 分間燃費のときは、 マークひとつが 50Wh を表し、1/2 個（25Wh）単位で表示します。
  （50Wh は、50 ワットの電球を 1 時間点灯できるエネルギーに相当します）
- 画面表示が 1 分間燃費のときは、 マークひとつが 30Wh を表し、1/2 個（15Wh）単位で表示します。
  （30Wh は、30 ワットの電球を 1 時間点灯できるエネルギーに相当します）

■平均燃費・エネルギー回収量の推移について

画面表示が 5 分間燃費のときは最大 30 分前まで、1 分間燃費のときは最大 15 分前まで、右から順に各データの推移が表示されます。

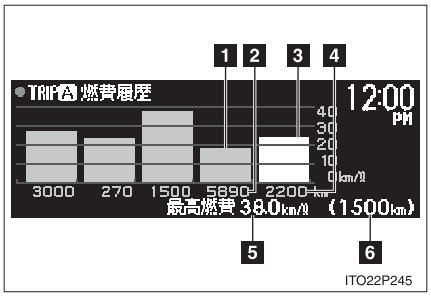
■データのリセット処理について

“パワー”スイッチを OFF にすると、時間あたりの平均燃費・エネルギー回収量の表示がリセットされます。

トリップ燃費履歴

トリップメーターA・Bそれぞれの走行記録をもとに、区間ごと（トリップメーターをリセットしてから、再度リセットするまで）の平均燃費の履歴を表示します。

■ 画面の見方



1 前回、計測を終了した時点※1での平均燃費

2 前回、計測を終了した時点※1での走行距離

3 現在の平均燃費

リセット操作※2を行って計測を開始してから現在までの、平均燃費を表示します。

4 現在の走行距離

トリップメーターの値と連動します。

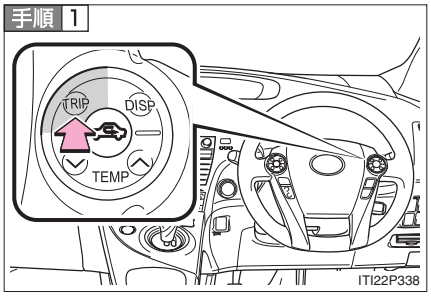
5 前回、トリップメーターリセット時までの平均燃費の最高記録（トリップメーターA・Bで共通）

6 **5** の最高燃費を記録したときの走行距離

※1 トリップメーターをリセットすると計測がはじまり、再度リセットすると終了します。

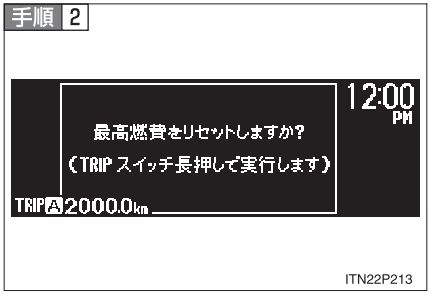
※2 TRIPスイッチ（→P. 166）を押し続けると、リセットされます。

■ 最高燃費をリセットするには



トリップ燃費履歴表示のとき TRIP スイッチを押し続ける

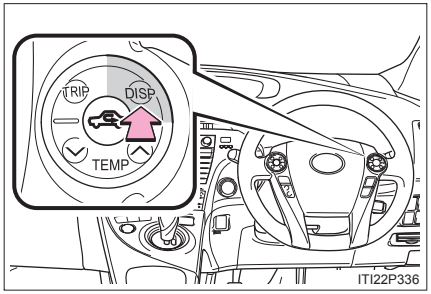
消去を確認するメッセージが表示されます。



TRIP スイッチを押し続ける

最高燃費がリセットされます。
消去を中止するときは、DISP スイッチを押して表示を切りかえます。

■ 平均燃費の履歴を消去するには



トリップ燃費履歴（A または B）を表示している状態で、DISP スイッチを押し続ける

過去の平均燃費の記録（右から 2 番目以降の列に表示されるグラフ）がすべて消去されます。

■ トリップ燃費履歴表示（A・B）を切りかえるには

トリップ燃費履歴表示のとき TRIP スイッチを押す

押すたびに表示が切りかわります。

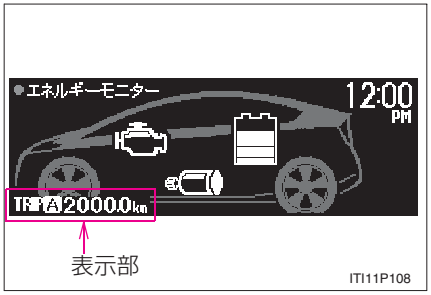
知識

■トリップ燃費履歴について

トリップメーターAまたはBをリセットすると計測が開始され、再度リセットした時点で終了します。

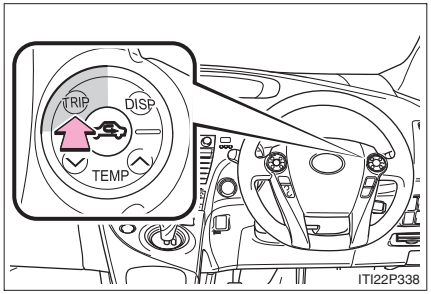
- リセット操作を行うごとに、古い履歴が左の列に移動します。
- 現在の記録を含めて、最大で5件までの記録が履歴として表示されます。5件をこえると、最も古い履歴が消去されます。

オドメーター／トリップメーター／航続可能距離



エコドライブモニターの下部に表示されます。
（トリップ燃費履歴の表示中を除く）

■表示を切りかえるには



TRIPスイッチを押すごとに、表示が次のように切りかわります。

オドメーター→トリップメーターA※→トリップメーターB※→航続可能距離→非表示

※ TRIPスイッチを押し続けると、0にもどります。

■ 各表示について

● オドメーター



走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A・トリップメーター B



リセットしてからの走行距離を表示します。

- 区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
- トリップメーターの走行距離に合わせて、トリップ燃費履歴が記録されます。（→P. 179）

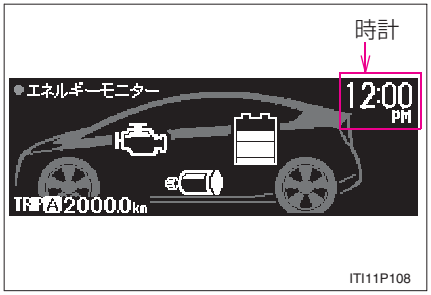
● 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

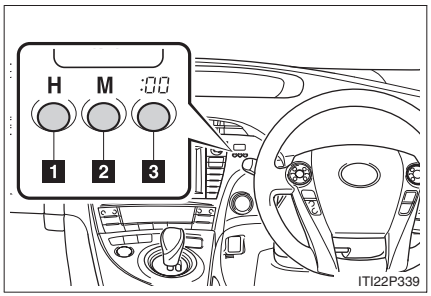
時計



現在の時刻を表示します。

時刻の表示は、12 時間表示（AM・PM）または 24 時間表示に切りかえることができます。（→P. 184）

■ 時計の調整



1 “時”を調整する（H）

2 “分”を調整する（M）

3 “分”を 00 にする※（：00）

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00

表示設定の変更

エコドライブモニターに関する、各種の設定を変更することができます。

■ 設定変更のしかた

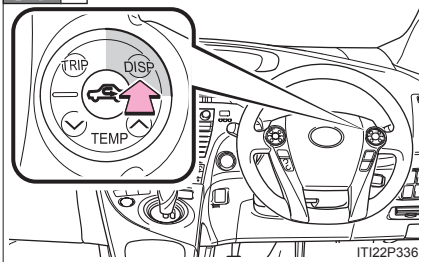
手順 1



ITN22P215

エコドライブモニターに「設定」画面を表示する（→P. 165）

手順 2



ITI22P336

DISP スイッチを押し続ける

設定項目の選択画面が表示されます。

手順 3



ITN22P218

設定変更を行う項目を選択し、DISP スイッチを押し続ける

DISP スイッチを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、その項目の設定画面が表示されます。

手順 4



ITN22P219

設定を変更する

DISPスイッチを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、設定が変更され、手順 3 の画面にもどります。

「画面 OFF」の設定で「OFF」を選択・決定した場合は、エコドライブモニターがすぐに非表示になります。（決定した時点で設定操作が終了します）

手順 5



ITN22P207

「EXIT」を選択して DISP スイッチを押し続ける

手順 1 の画面にもどります。

（「EXIT」の確定操作を行わなくても、数秒後に自動で、手順 1 の画面にもどります）

■ 設定変更のしかた

各項目の設定内容と変更後の作動内容は、それぞれ次のとおりです。

設定項目	設定内容	選択項目	設定結果
	エコドライブインジケーターランプの表示／非表示の切りかえ	ON	表示
		OFF	非表示
ステアリングスイッチ※	タッチトレーサーディスプレイ（→P. 165）の有効／無効の切りかえ	ON	有効
		OFF	無効
時計	時計を 12 時間表示、または 24 時間表示に切りかえる	12 h	12 時間表示
		24 h	24 時間表示
言語	変更不可	−	−
画面 OFF	エコドライブモニターの表示／非表示の切りかえ	ON	表示
		OFF	非表示
EXIT	設定変更の操作を終了する	−	「設定」画面（→P. 184）にもどる

※：→P. 187

知識

■制限事項について

走行中(車速が約8km/h以上のとき)は、設定変更操作を行うことはできません。

■「画面 OFF」の設定について

エコドライブモニターを非表示に設定すると、時計とオドメーター／トリップメーター／航続可能距離以外の情報は表示されません。

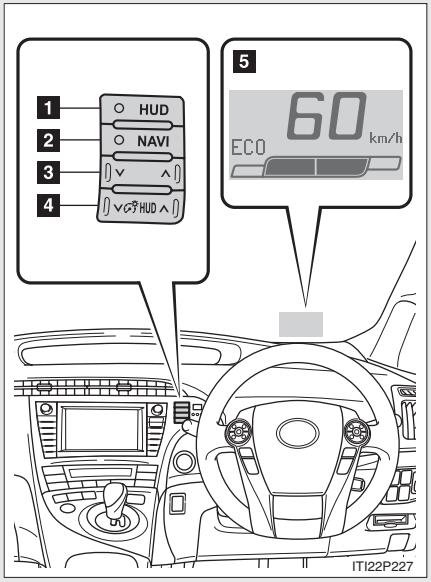
■「ステアリングスイッチ」の設定について

タッチトレーサーディスプレイ非装着車の場合、この設定項目は機能しません。(「ON」に設定しても、タッチトレーサーディスプレイは表示されません)

ヘッドアップディスプレイ*

ヘッドアップディスプレイは、現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報をフロントウインドウに投影する装置です。

メーターへ視線を移動することなく、各種情報を確認しながら走行することができます。



1 HUD※メインスイッチ

ヘッドアップディスプレイの表示を切りかえます。(→P. 190)

2 ナビ連動スイッチ

ルート案内表示の有効･無効を切りかえます。

3 表示位置調整スイッチ

ヘッドアップディスプレイの表示位置を調整します。

4 表示輝度調整スイッチ

表示の明るさを手動で調整することができます。

5 ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

※ HUD：ヘッドアップディスプレイの略

* ：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ヘッドアップディスプレイの表示内容

● 車速表示※

車速表示のみ、または車速とハイブリッドシステムインジケーターの、いずれかの表示方法を選択できます。

※車速表示が表示開始される速度を任意で設定できます。（→P. 196）

● レーン表示

交差点にさしかかったとき、自動で車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。（→P. 193）

● ルート案内表示

ナビゲーションシステムで、ルート案内を実行しているとき使用できます。（→P. 193）

交差点に近付いたとき、ヘッドアップディスプレイにルート案内（進行方向の矢印）が表示されます。

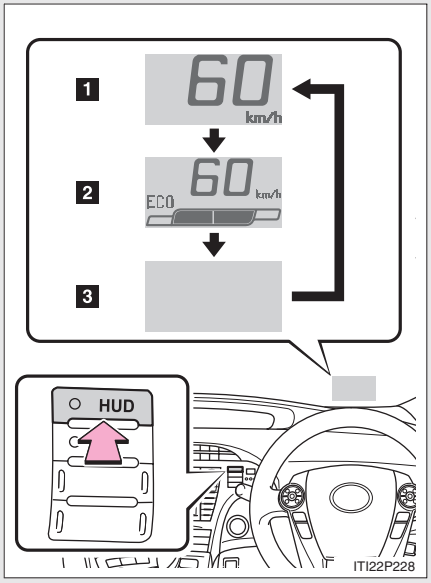
● 接近警報表示

レーダークルーズコントロールの接近警報が表示されます。（→P. 416）

● 衝突警告表示

プリクラッシュセーフティシステムの衝突警告表示が表示されます。（→P. 416）

■ ヘッドアップディスプレイの表示を切りかえるには



“パワー”スイッチが ON モードのとき、HUD を押す

押すたびに、表示が次のように切りかわります。

1 車速のみの表示

車両の走行速度を示します。

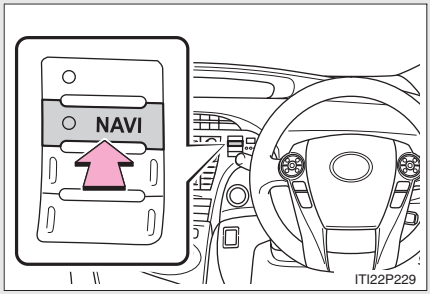
2 車速とハイブリッドシステムインジケーターの表示

速度表示の下側にハイブリッドシステムインジケーターの情報を表示します。
ハイブリッドシステムインジケーターの見方は、メーターに表示されるものと同様です。(→P. 172)

3 非表示

ヘッドアップディスプレイが OFF の状態です。
ヘッドアップディスプレイが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ ルート案内表示を表示可能にするには



“パワー”スイッチが ON モードのとき、[NAVI] を押す

押すたびに、機能の ON・OFF が切りかわります。

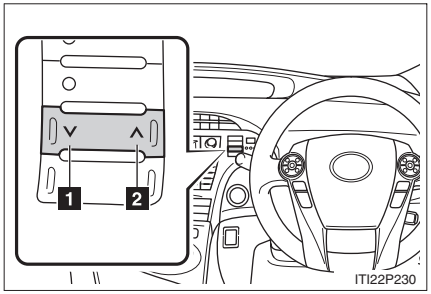
機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

表示の調整

お好みに合わせて、ヘッドアップディスプレイの表示位置・表示輝度を調整できます。

それぞれ、ヘッドアップディスプレイの表示中に調整することができます。

■ 表示位置の調整



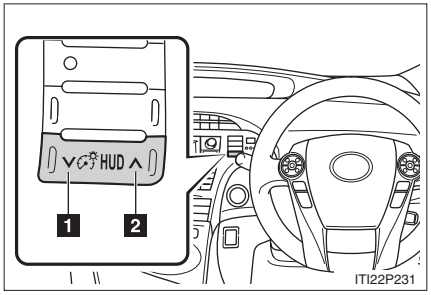
1 表示位置を下げる

2 表示位置を上げる

押し続けると、連続して位置がかわります。

■ 表示輝度の調整

輝度は、周囲の明るさに応じて自動で調整されますが、手動で調整したいときは、次の操作を行います。



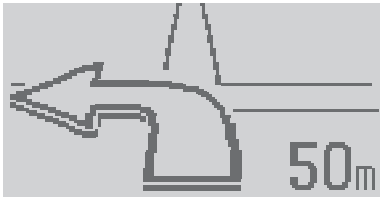
1 暗くする

2 明るくする

押し続けると、連続して表示輝度がかわります。

表示輝度は 5 段階で調整できます。

ルート案内表示



ITN22P180

交差点に接近すると、進路方向を矢印で指示します。

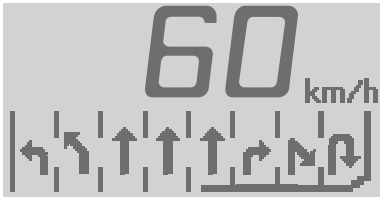
交差点から約 150 メートル※1 まで接近すると、案内表示が開始され、交差点までの残距離※2が表示されます。

車両の走行状況（走行中・停車中）に応じて、アニメーション表示が変化します。

※1 レーン表示機能が OFF のときは、約 300 メートル手前から、案内表示が開始されます。

※2 50 メートルずつ減算表示され、約 0 メートルまで接近すると表示が消えます。

レーン表示



ITN22P234

交差点にさしかかると、自動的にレーン情報が表示されます。

交差点の約 300 メートル手前から表示がはじまり、交差点を通過するとレーン表示が消え、もとの表示にもどります。

必要に応じて、レーン表示の表示／非表示を切りかえることができます。

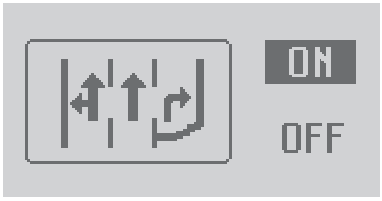
■ レーン表示の設定変更のしかた

HUD と NAVI が ON で、かつ停車中のとき、設定操作が可能です。

手順 1 NAVI を押し続ける

レーン表示設定画面が表示されます。

手順 2



ITN22P182

NAVI を押して ON・OFF を切りかえる

スイッチを押すたびにカーソルが移動します。
レーン表示を表示するときは「ON」に、非表示にするときは「OFF」にカーソルを合わせます。

手順 3 NAVI を押し続ける

表示・非表示の設定が確定し、もとの画面にもどります。
スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの ON・OFF や、ルート案内表示などの設定がリセットされます。

■ヘッドアップディスプレイの表示について

ヘッドアップディスプレイを OFF にしたときは、“パワー”スイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、ヘッドアップディスプレイは OFF のままです。

■雪道など周囲が明るいところを走行するときは

ヘッドアップディスプレイの表示輝度を最大にした状態で、  の“∧”側を押し続けると、さらに明るい表示に切りかえることができます。

解除するときは、スイッチの“∨”側を押します。また、“パワー”スイッチを OFF にしたときは設定が解除されます。

■ウェルカム表示について

ヘッドアップディスプレイが表示可能な状態のときは、“パワー”スイッチを ON モードにしたとき、ヘッドアップディスプレイにもウェルカム表示（→P. 167）が投影されます。

■ルート案内表示・レーン表示について

交差点の形状や、走行路の車線の数などにより、ヘッドアップディスプレイに表示される矢印やレーンの数などがかわります。

■表示車速設定機能について

表示車速設定で任意の速度を設定しておくことにより、設定した速度に達するまでは、車速を表示しないようにすることができます。

HUD が ON で表示が車速のみ、かつ停車中のとき、設定操作が可能です。

手順 1 HUD を押し続ける

車速表示が点滅します

手順 2 ∨ ∧ を操作して、車速表示の開始速度を設定する

速度を上げるときは “∧”側を、下げるときは “∨”側を押します。

スイッチを操作するたびに、1km ずつ車速がかわります。(押し続けると、10km 単位で連続してかわります)

手順 3 HUD を押し続けて、設定を終了する

スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。

■表示輝度について

ヘッドアップディスプレイの表示輝度は、周囲の明るさをライトセンサー (→P. 201) で感知して、自動調整されます。

■ヘッドアップディスプレイについて

サングラス (特に偏光サングラス) を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

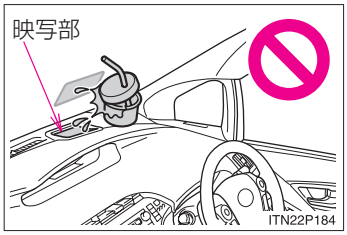
⚠ 警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

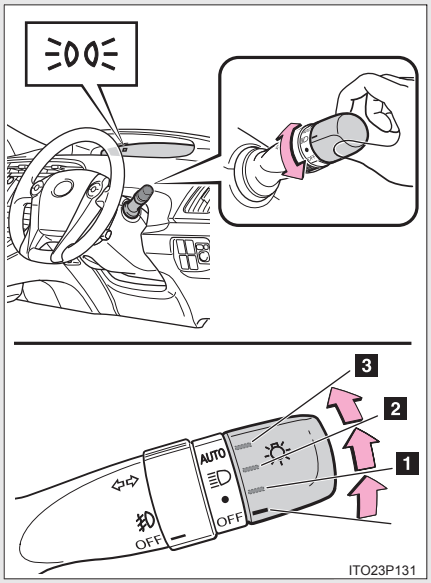
■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意



- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。
- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



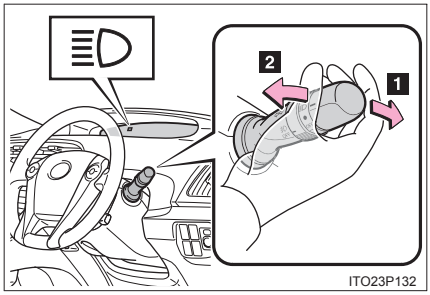
1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト・車幅灯などを自動点灯・消灯（コンライト※）

※ コンライトは“パワー”スイッチが ON モードのときに使用できます。

ハイビームにするには



1 ライト点灯時、レバーを前方に押すと、ハイビームに切りかえ

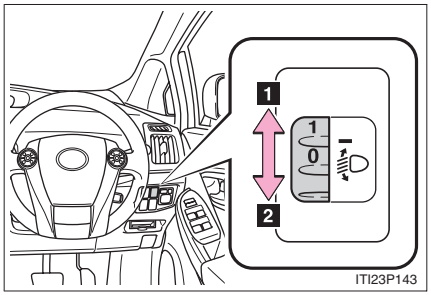
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整
2 下向きに調整

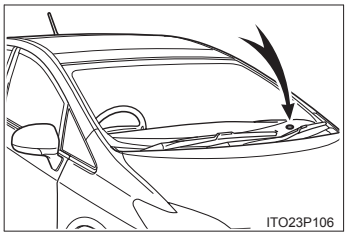
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3※
運転者	ラゲージルーム満載時	5

※ L グレードの車両は、3.5 の位置に調整してください。

知識

■ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能および、ヘッドアップディスプレイ※の表示輝度の自動調整機能が正常に働かなくなります。
また、エアコンの作動のさまたげとなります。

※ ヘッドアップディスプレイ装着車のみ

■ライト消し忘れ防止機能

“パワー”スイッチが ON モードで、ライトスイッチが OFF 以外の場合に働きます。

- ライトスイッチを OFF にしないまま、“パワー”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、点灯していた車幅灯などが自動で消灯します。
- 再びライトを点灯する場合は、“パワー”スイッチを ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 476）

⚠ 注意

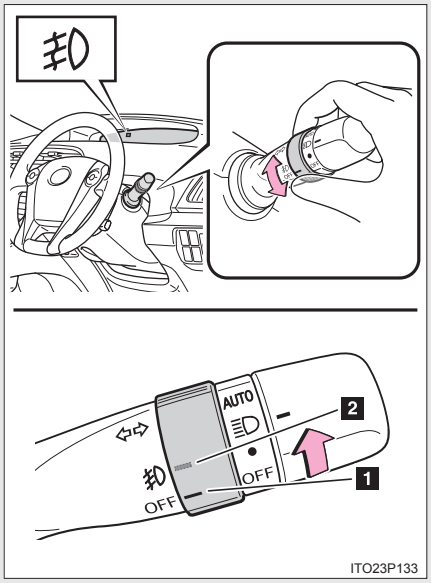
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。
ライトスイッチ（→P. 198）と同じレバーに装着されます。

▶ フロントフォグライト単独装着車

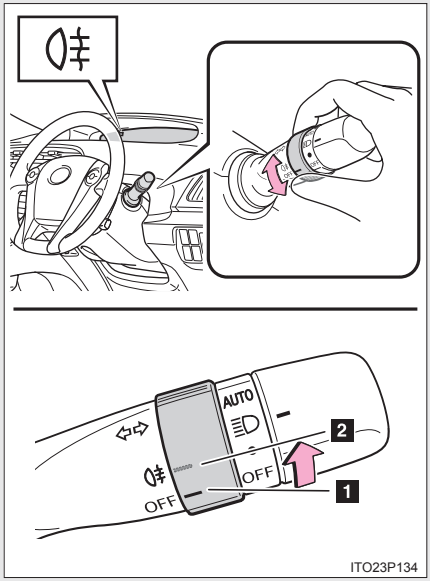


1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶リヤフォグライト単独装着車



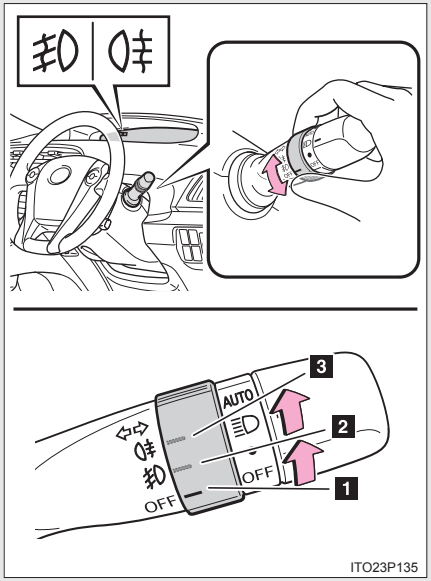
1 消灯

2 リヤフォグライト点灯

手を離すとOFFの位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。

▶フロント&リヤフォグライト装着車



1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

3 フロント&リヤフォグライト点灯

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯します。

知識

■点灯条件

●ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

●フロント&リヤフォグライト装着車のリヤフォグライトは、フロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライト*について

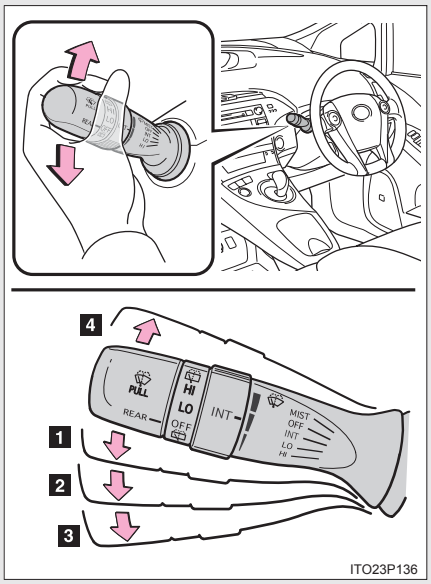
●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

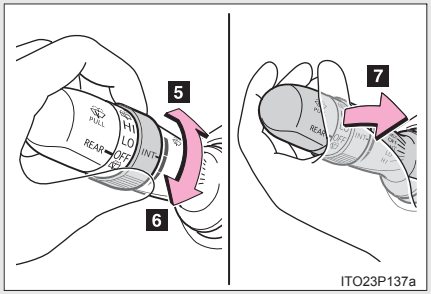
●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶フロント

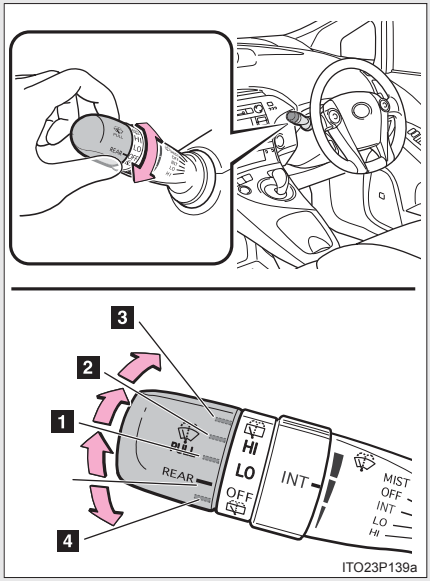
INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。





1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）
5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
7 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

▶リヤ*



1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

“パワー”スイッチがONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

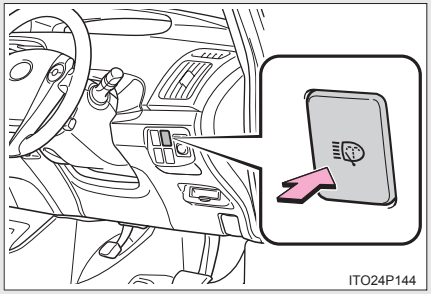
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドライトクリーナー*

ウォッシャー液を噴射して、ヘッドライトを洗浄します。



スイッチを押すとヘッドライトクリーナーが 1 回作動します。

知識

■作動条件

“パワー” スイッチが ON モードでヘッドライトロービームが点灯しているとき

⚠ 注意

■ウォッシャー液が出ないときは

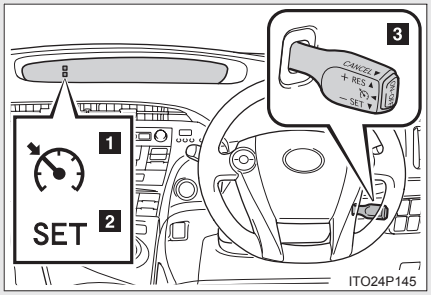
ヘッドライトクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール*

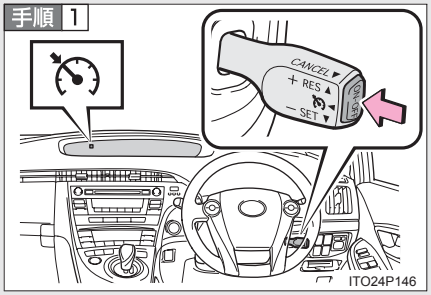
アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や、自動車専用道路などでご使用ください。



1 クルーズコントロール表示灯
2 セット表示灯
3 クルーズコントロールスイッチ

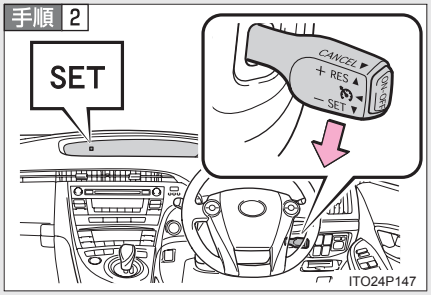
■ 速度の設定・定速走行のセット



ON-OFF スイッチを押す

スイッチが ON になり、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、表示灯が消灯します。



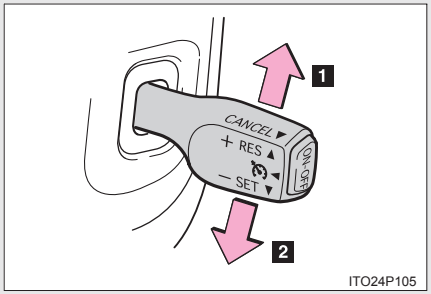
希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げる

セット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 定速走行中に設定速度を変更する



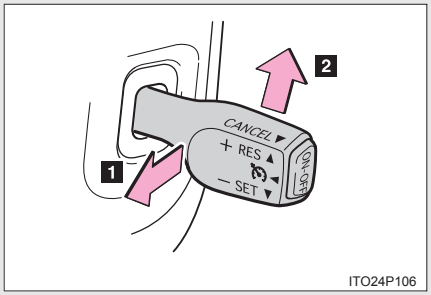
1 増速

2 減速

レバーを保持して速度を調整し、希望の速度になったらレバーを離します。

レバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.6 km/h ずつ）できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下のときは復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●速度は約 40 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●実際の速度が設定速度より約 16 km/h 以上低下したとき

●実際の速度が約 40 km/h 以下になったとき

●VSC が働いたとき

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

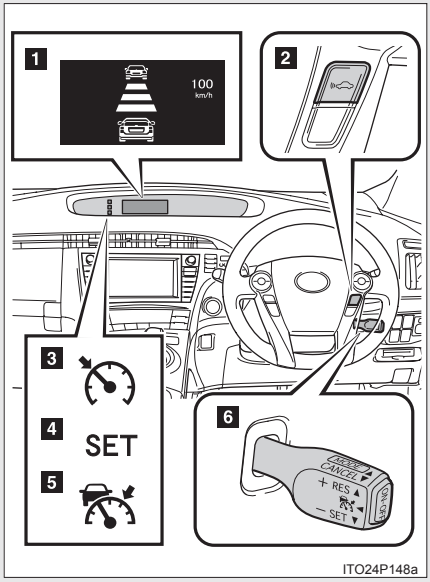
次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の速度に合わせて車間距離を保つ追従走行を行ったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

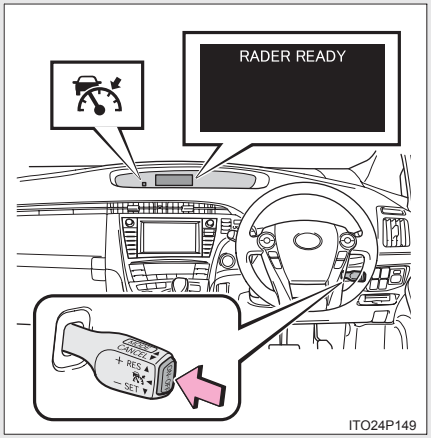
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や、自動車専用道路などでご使用ください。



1 マルチインフォメーションディスプレイ
2 車間距離切りかえスイッチ
3 定速制御モード表示灯
4 セット表示灯
5 車間制御モード表示灯
6 レーダークルーズコントロールスイッチ

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

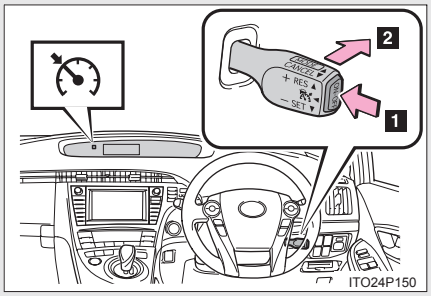
■ 車間制御モードを選択する



ON-OFF スイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

■ 定速制御モードを選択する



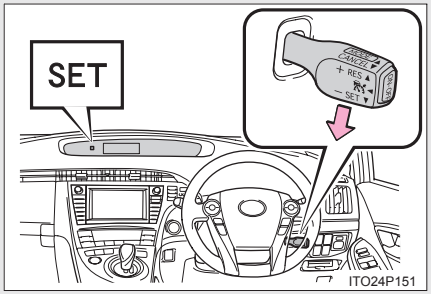
1 ON-OFF スイッチを ON にする

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間押し続ける）

OFF にするには再び ON-OFF スイッチを押します。

“パワー” スイッチが ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

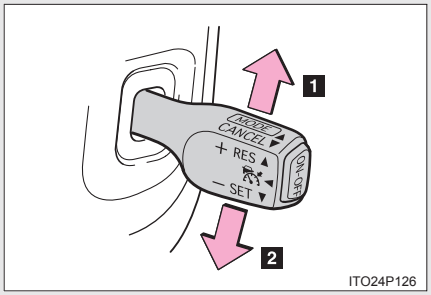
■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

セット表示灯が点灯します。

■ 設定速度をかえるには



1 増速

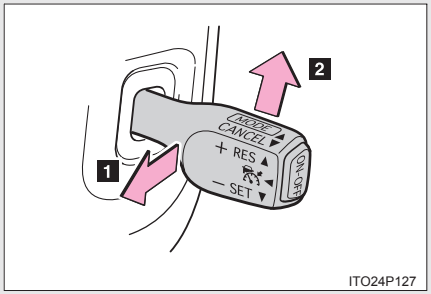
2 減速

表示が希望の速度になるまでレバーを保持します。

制御中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1km/h ※ずつ）できます。

※定速制御モード時は、約 1.6km/h ずつ調整されます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



ITO24P127

1 解除

レバーを手前に引きます。

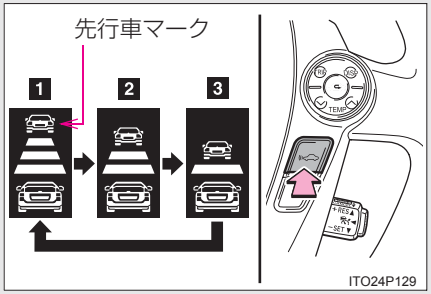
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。

ただし、実際の速度が約 40km/h 以下のときは復帰しません。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



ITO24P129

スイッチを押すごとに車間距離が切りかわる

1 長い

2 中間

3 短い

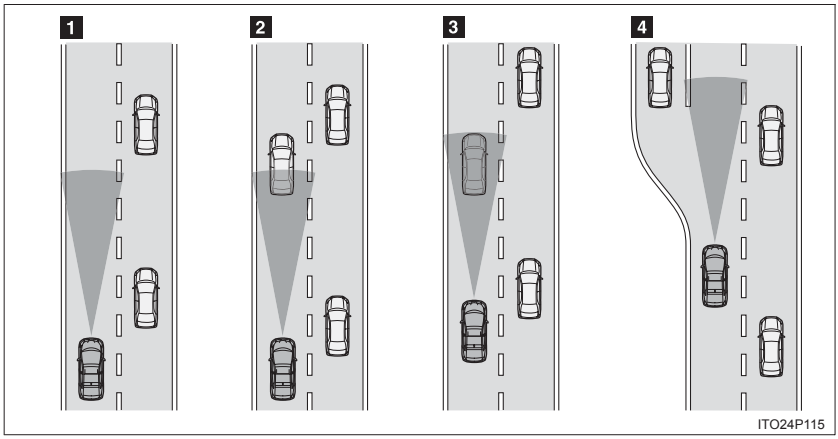
“パワー” スイッチが ON モードになるたびに **1** に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードでは、レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行（先行車がいないとき）：
100km/h に設定した場合

運転者が設定した速度で定速走行します。

2 減速走行（設定した速度より遅い先行車が現れたとき）：
100km/h で定速走行時に、80km/h の先行車がいる場合

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合は、ブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 219）を鳴らします。

3 追従走行（設定した速度より遅い先行車に追従するとき）：
100km/h に設定しているときに、80km/h の先行車がいる場合

先行車の速度変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした速度より遅い先行車がいなくなったとき）：
100km/h に設定しているときに、80km/h の先行車がいなくなった場合

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。ブレーキを踏むなど、適切な車間距離を確保してください。

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●速度は約 50km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●実際の速度が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が働いたとき

●レーダーセンサーの汚れが判定されたとき

●ワイパーが HI（高速）で作動したとき

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●実際の速度が設定速度より約 16km/h 以上低下したとき

●実際の速度が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が働いたとき

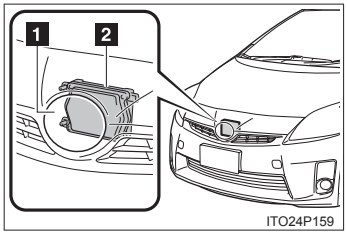
■車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 217)
(速度約 80km/h で走行している場合)
なお、速度に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50m
中	約 40m
短	約 30m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるために、センサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー
2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの表示灯・警告表示・警報

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告表示、警報で注意をうながします。(→P. 406, 412)

■車間制御モードで走行中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常にゆっくりした車のとき

●速度を設定した直後

●アクセルペダルが踏まれたとき

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは、ON-OFF スイッチを OFF にしてください。

⚠ 警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 219）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の車両のうしろ部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を 2 輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには次のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付ける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する

センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト*

ナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。
別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。
（→P. 230）

■ 緊急ブレーキシグナル

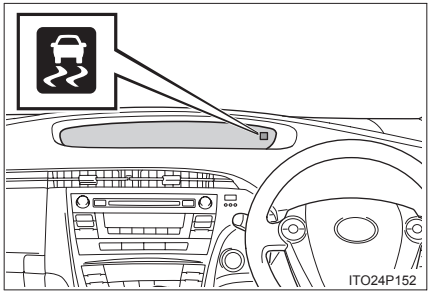
→P. 232

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*
→P. 233

VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車両が横すべりしそうになったとき、駆動輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルを強く踏んだり、くり返し踏んだりしたとき、およびハイブリッドシステム停止後 1 ～ 2 分経過時に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”または“サー”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを操作し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯について

→P. 409

⚠ 警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■タイヤを交換するときは

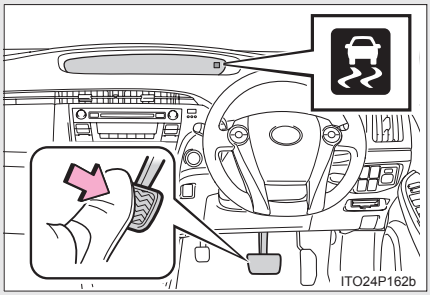
4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 473）
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。



車両が完全に停止している状態で、さらにブレーキペダルを踏み込む

“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

- シフトポジションが P 以外のとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください（車両が後退しない程度）。その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
  それでも作動しないときは上記の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトポジションを P にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき

⚠警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

知識

■システムの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速が約 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■システムの解除条件

次のいずれかのときシステムが解除されます。

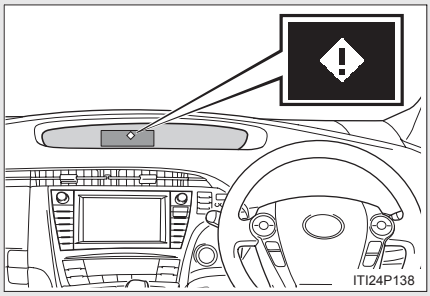
- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

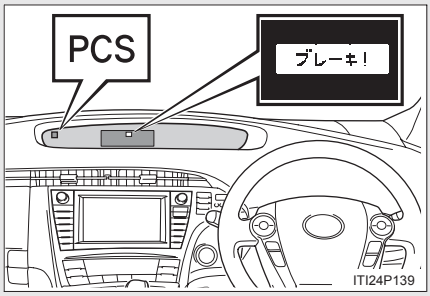
レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両損傷の低減に寄与します。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示

▶注意喚起表示



▶衝突警告表示



衝突の可能性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。
さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 73）

■ プリクラッシュブレーキアシスト

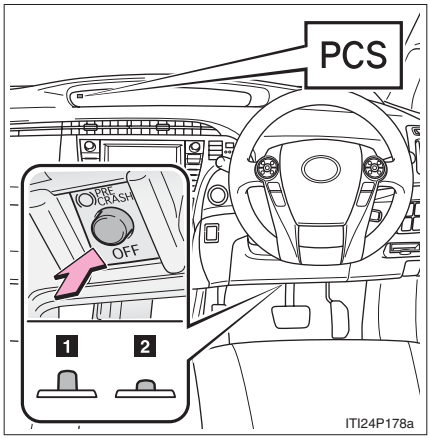
衝突が避けられないと判断したときに、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度の低減に貢献します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF の切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF 切りかえができます。

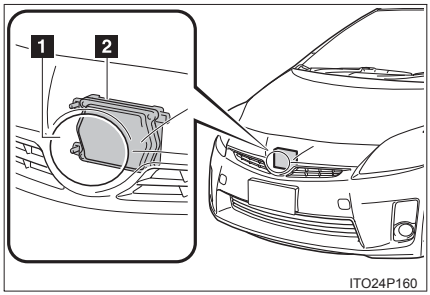


1 プリクラッシュブレーキ ON

2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFF にすると、PCS 警告灯が点灯します。

レーダーセンサー



走行中に進路上またはその付近に車やものがあるかどうかを検知し、そのものの位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

知識

■システムの作動条件（プリクラッシュシートベルトを除く）

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件

・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15km/h 以上

■プリクラッシュシートベルトの作動条件

プリクラッシュシートベルトは、次のどちらかの条件で作動します。

●作動条件 1

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 30km/h 以上
・急ブレーキ時や車両がコントロール不能となったとき

●作動条件 2

・フロント席の乗員がシートベルトを着けている
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た対向車か障害物の接近速度が約 30 ～約 40km/h 以上

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・自転車・オートバイ・木・雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐等の悪天候の状況

●車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動する場合があります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●細い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●前を走っている車に急に近付いたとき

●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき

●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき

●ETC ゲートを通過するとき

●陸橋を通過するとき

●乗員数や積載状況により、極端に車高が変化しているとき

●センサーの軸ずれが発生しているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は、車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 406, 412)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは、運転者が衝突の危険性を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 警告

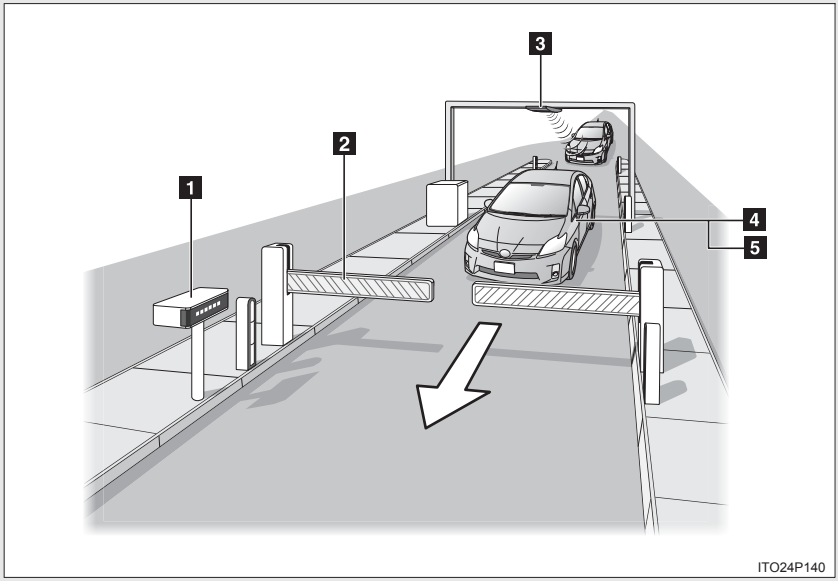
■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですので、はがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

ETC システム*

ETC（エレクトロニックトールコレクション）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。路側無線装置と車両の ETC ユニットとのあいだで通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



1 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
進入車両に対し、メッセージを表示します。

2 発進制御装置（開閉バー）

料金所の ETC レーンに、必要に応じて設置されています。
通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

3 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。
料金精算のため、車両の ETC ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

4 ETC ユニット

車両に装着されています。
ETC カードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

5 ETC カード

ETC ユニットに装着する、IC チップを搭載した ETC ユニット用カードです。
IC チップに、料金精算に必要なデータを保持します。

知識

■メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では

タッチパネルでの各種設定操作や、ディスプレイ表示によるインフォメーションなど、ナビゲーションシステムと連動した機能を利用できます。
詳しくは別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

⚠ 警告

■ご利用の前に

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き挿し、および ETC ユニットの操作を極力しないでください。
走行中の操作は、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⚠ 注意

■その他のサービス（スマート IC など）ご利用時は

その他、ETC ユニットを用いたサービス（スマート IC など）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

⚠ 注意

■ETC カードを挿入する前に

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの ETC カードに記載された、有効期限をあらかじめ確認してください。

■ETC カードを挿入したあとに

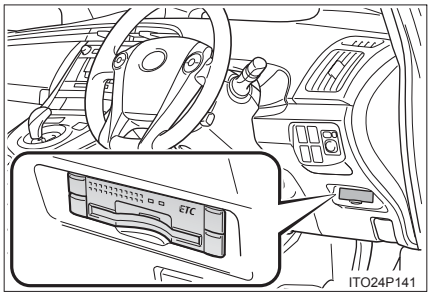
- ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC ユニットに挿入されていることと、ETC ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因になる場合があります。

■料金所を通過するときは

- ETC レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。
- ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC ユニットと路側無線装置のあいだの通信、あるいは ETC ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますのでご注意ください。
- ETC レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ETC ユニットについて

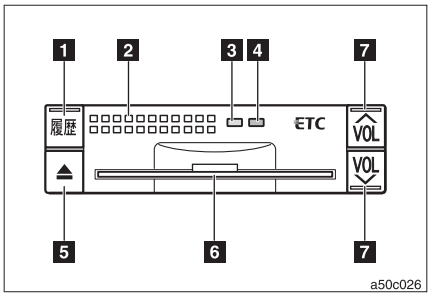
■ 取り付け位置



運転席インストルメントパネル右下にあります。

“ パワー ” スイッチをアクセサリーモード、または ON モード にすると、ETC ユニットの電源が入ります。

■ 各部の名称



1 利用履歴確認スイッチ
2 スピーカー部
3 緑ランプ
4 橙ランプ
5 イジェクトスイッチ
6 ETC カード挿入口
7 音量調整スイッチ

知識

■ETC を利用する前に

はじめて ETC システムを利用するときは、あらかじめ ETC ユニットのセットアップ手続きが必要です。

●詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●セットアップ手続きには、別途費用が必要です。

■適合シールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。
また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■フロントガラスの汚れや積雪がひどい場合は

それらを取り除いてください。

■お車のナンバープレートが変更になった場合は

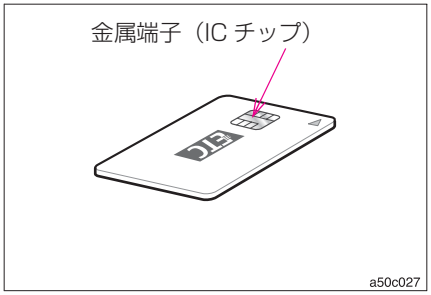
再度 ETC ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■取り扱い上の注意

- 路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETC ユニットのアンテナ（インストルメントパネルの運転席付近に内蔵されています）上方にはものを置かないでください。
- ETC ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC ユニットに衝撃を与えないでください。ETC ユニットが故障・破損するおそれがあります。
- ぬれた手で ETC ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- 汚れたときは、やわらかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETC ユニットが変形・故障する場合があります。
- 車両1台に対して複数のETCユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

ETC カードについて



ETC カードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。

⚠ 注意

■取り扱い上の注意

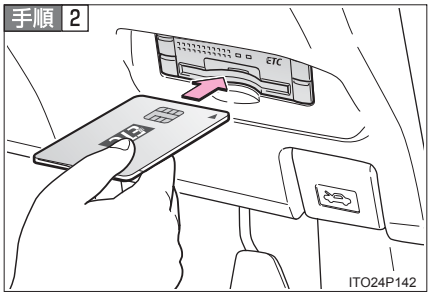
- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- ETC カードには有効期限があります。
  有効期限内の ETC カードをご利用ください。有効期限切れ ETC カードでは、開閉バーが開きません。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。
  ETC ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、故障の原因になるおそれがあります。

ETC カードを挿入する

手順 1 “ パワー ” スイッチをアクセサリーモード、または ON モードにする

ETC ユニットの緑ランプと橙ランプが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。

手順 2



ETC カードを挿入する

図のように正しい向きでしっかりと挿し込みます。

「**ピッ**」とブザーが鳴り、緑ランプが点滅します。

手順 3 ETC カードが認証される

正しく認証された場合：

音声案内※	「**ポーン ETC カードが挿入されました**」
ETC ユニット	緑ランプが点灯したまま

ETC システムは、この状態でご利用ください。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、ハイブリッドシステム始動後、すぐに ETC カードを挿入すると音声案内、表示案内されないことがあります。

正しく認証されなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→P. 257）を音声でお知らせします。

知識

■橙ランプが点灯しているときは

ETC ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。

■有効期限切れ・解約済みの ETC カードを挿入したときは

●エラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

●ETC と連動するナビゲーションシステム※を装着されている場合、有効期限切れ通知機能が働きます。（→P. 250）

※ 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

注意

■緑ランプが点滅しているときは

ETC カードを抜かないでください。
ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

■エラーが発生したときは

ETC ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（→P. 257）の記載に従って対処してください。

■ハイブリッドシステム始動時にエラーが発生したときは

いったんハイブリッドシステムを停止させ、再度始動してみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ETC カード挿入時にエラーが発生したときは

いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して、再度挿し込んでみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ETC カードを抜き取る

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 ハイブリッドシステムを停止する前に ⏏ を押す

ETC カードを抜き取る前にハイブリッドシステムを停止すると、「カード抜き忘れ警告」でお知らせします。

手順 3 ETC ユニットから ETC カードを抜き取る

有効期限切れ通知

ETC と連動するナビゲーションシステム※ 1 を装着されている場合、ETC カードを挿入したとき、または ETC カード挿入状態で“パワー”スイッチをアクセサリーモードか ON モードにしたとき、下表のように有効期限切れ通知が行われます。

ETC カードの状態	音声案内※ 2	画面表示※ 2
有効期限まで 1ヶ月以内の場合	「**ポーン ETC カードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください**」	「**ETC カードの有効期限は今月末です　カードをお確かめください**」
有効期限切れの場合	「**ポーン ETC カードの有効期限が切れています**」	「**ETC カードの有効期限が切れています**」

※ 1 装着されたナビゲーションシステムの機種によっては、通知が行われない場合があります。

※ 2 ハイブリッドシステム始動後、すぐに ETC カードを挿入すると、音声案内および画面表示がされないことがあります。

知識

■ETC カードの盗難を防ぐために

ETC カードを残したまま、お車から離れないでください。

■カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前にハイブリッドシステムを停止すると、「**ピー カードが残っています**」という音声でお知らせします。

- 音量を 0 に設定した場合は、「**ピー**」というブザー音のみでお知らせします。
- この機能を働かないようにする（OFF にする）ことができます。

■カード抜き忘れ警告の設定変更

ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯している状態で 履歴 と VOL を同時に押し続けます。（約 2 秒間）

- 操作をするごとに「**ピッピッ**」と音がし、機能のON／OFFが切りかわります。
- 操作は、安全な場所に停車した上で行ってください。

注意

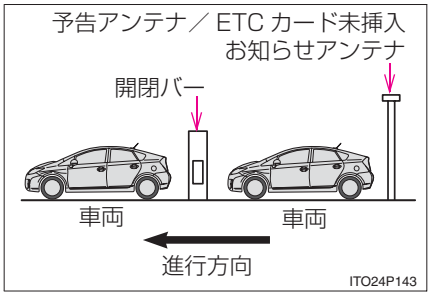
■お車から離れるときは

ETC カードを車内に残したままにしないでください。車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

ETC 利用中のランプ表示と通知音について

車両走行中は、状況に応じて ETC ユニットのランプ表示がかわり、併せて音声で通知されます。

■ ETC ゲート（入口）・検札所・予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したとき



通信が正常に行われた場合：

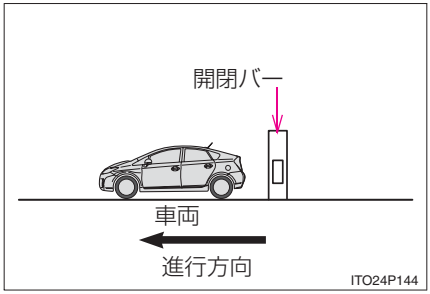
ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「**ピンポン**」

※ ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（→P. 257）の記載に従って対処してください。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過したとき



通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑色ランプが点灯したまま
通知音	「**ピンポン**」
音声案内	通行料金を通知

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（→P. 257）の記載に従って対処してください。

知識

■通知音について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1 つの ETC ゲートで 2 回通知されることがあります。

■道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ゲートを利用できるかどうかを ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前などに設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ユニットに正しく ETC カードが挿入されていない場合に、ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ETC カードを挿入しないまま走行したときは

ETC カードが未挿入の状態で、予告アンテナや ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「**ピー ETC をご利用できません**※1」という音声でお知らせします。これは、ETC システムが利用できないことを通知するもので、ETC ユニットの故障ではありません。

※1 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、「**ポーン ETC ゲートを通過できません**」または「**ポーン ETC カードが挿入されていません**」という音声になります。

■通行料金の通知について

- 通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- 他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。※2

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

⚠ 注意

■走行時の注意

- 走行中、運転者は ETC ユニットのランプ表示を見ないでください。
- ETC ゲート進入時は、十分減速してください。
- ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。
- ETCゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示に従ってください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法に従ってください。
- 必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ETC カード未挿入お知らせアンテナ・ETC ゲート・検札所・予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

利用履歴の確認

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。
停車中で、ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯しているときに利用できます。

手順 1 履歴 を押す

最新の利用履歴が案内されます。

手順 2 履歴をさかのぼるときは再度 履歴 を押す

押すごとに古い利用履歴に切りかわります。

最も過去の履歴の次は、最新の履歴にもどります。

案内終了後、約 1 秒以上たってから 履歴 を押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

知識

■利用履歴について

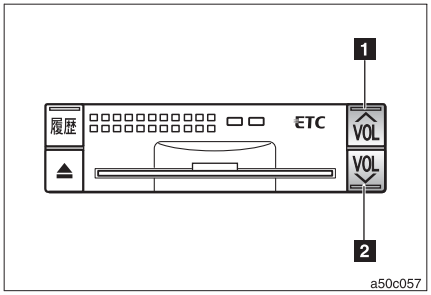
- 利用履歴はETCカードに記録されるため、記録件数は使用するETCカードにより異なります。（最大 100 件）
- 利用履歴の最大記録件数をこえた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

注意

■使用時の注意

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

音量調整



1 音量 大

2 音量 小

調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「**音量○○です**」
0	「**音声案内を中止します**」

知識

■音量調整について

●音量調整は、次のような案内に有効です。

・未セットアップ状態の通知
・エラー発生時のブザー音
・カード抜き忘れ警告
・利用履歴の確認
・音量調整時の案内

●音声案内を中止（音量 0）に設定してあっても、エラー発生時には音量 1 で出力されます。

●ETCユニットが未セットアップ状態(セットアップ手続きをしていない状態)の通知は、ETC ユニットを消音（音量 0）にすると出力されません。

記録された統一エラーコードの確認

ETC ユニットは、最後に発生した統一エラーコード（→P. 257）を記録しています。次の手順で確認できます。

手順 1 ETC カードを抜く（カードが挿入されている場合のみ）

手順 2 履歴 を押し続ける（約 2 秒以上）

最後に発生した統一エラーコードを音声でお知らせします。

統一エラーコード一覧

ETC の利用中にエラーが発生したときは、問題の概要と共に、統一エラーコード（エラー 01 ～ 07）を音声でお知らせします。
次の表に従って、それぞれ対処してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
01	ETC カード挿入異常	・通信時に ETC カードが挿入されていない ・ETC カードの挿入状態が悪い	ETC カードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
02	データ処理異常	・ETC カードへの読み出し、書き込みエラー ・ETC カードと ETC ユニットの接点不良（ETC カードアクセス中の瞬断） ・読み出し中、書き込み中カードのイジェクト	**ETC カード挿入時：** 挿入されたETCカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ETC ゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示に従ってください。 **ETC ゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
03	ETC カード異常	・ETC カードが故障している ・ICカード以外のカードが挿入され、通信しない ・ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
04	ETCユニット故障	自己診断の結果、ETC ユニットの故障と判断された	再度ハイブリッドシステムを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ETC カード情報の異常	・ETCカードとの認証エラー ・ETCカード以外のICカードが挿入 ・認証中 ETC カードのイジェクト ・未セットアップ状態での ETC カードの挿入	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ETCユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ETC ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示に従ってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了した	

知識

■この場合は異常ありません

- ETC カード未挿入お知らせアンテナ等と通信した際、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。
- ETC ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムなどが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。

■ETC ゲート通過後にエラーが発生した場合

ETC カードを抜くと、エラー音が停止します。再度、ETC カードを挿入すると、「**ポーン ETC カードが挿入されました**」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - トノカバー*
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
  - ・ タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを用意してください。（→P. 473）
  - ・ タイヤチェーンは、必ずプリウス指定のトヨタ純正品を使用してください。（→P. 265）

■ 運転する前に

状況に応じて、次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
・ 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■補機バッテリーについて

この車の補機バッテリーは、メンテナンスフリーです。一般的な 12V バッテリーのように、冬に備えてバッテリー液量や比重を点検する必要はありません。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や、制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について

●必ずプリウス指定のトヨタ純正合金鋼チェーンスペシャルを使用してください。上記以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■フロントガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方
- オートエアコン 268
- ステアリングスイッチでの操作 277
- ソーラーベンチレーションシステム 279
- リモートエアコンシステム 282
- リヤウインドウデフォッガー（曇り取り） 286
- フロントワイパーデアイサー 287

3-2. オーディオの使い方
- オーディオインデックス 288
- ラジオの使い方 290
- CD プレーヤーの使い方 293
- MP3 ／ WMA ディスクの聞き方 299
- 快適に聞くために 306
- AUX 端子の使い方 308
- ステアリングスイッチでの操作 310
- アンテナ 313

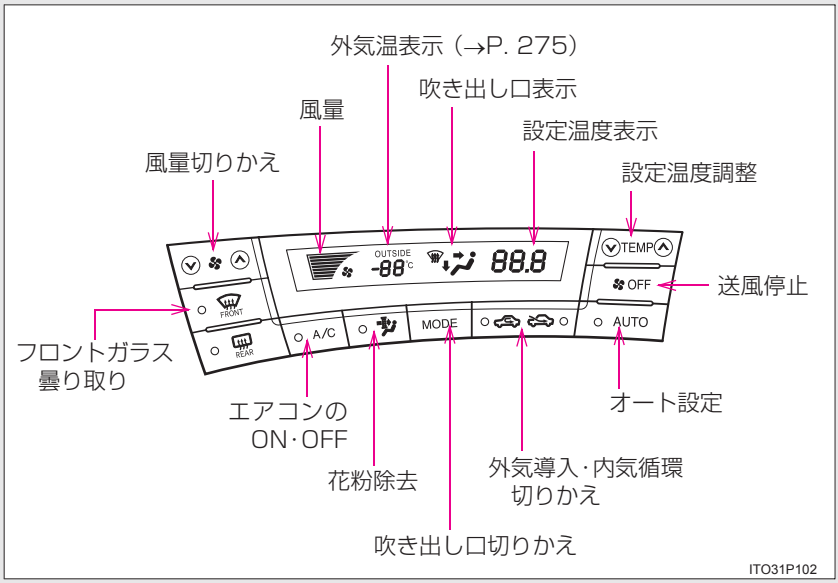
3-3. 室内灯のつけ方
- 室内灯一覧 314
- ・フロントパーソナルライト 316, 317
- ・ルームライト 318
- ・ドアカーテシライト 318

3-4. 収納装備の使い方
- 収納装備一覧 319
- ・グローブボックス 321
- ・コンソールボックス ... 322, 323
- ・オーバーヘッドコンソールボックス 324
- ・カップホルダー 325
- ・ボトルホルダー 327
- ・オープントレイ 328
- ・カードホルダー 329

3-5. その他の室内装備の使い方
- サンバイザー 330
- バニティミラー 331
- アクセサリーソケット 332
- シートヒーター 334
- アシストグリップ&コートフック 336
- リヤセンターアームレスト 337
- フロアマット 338
- ラゲージルーム内装備 340

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

手順 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

手順 3 A/C を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

A/C を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは TEMP の “∧” 側 を、下げるときは “∨” 側 を押す

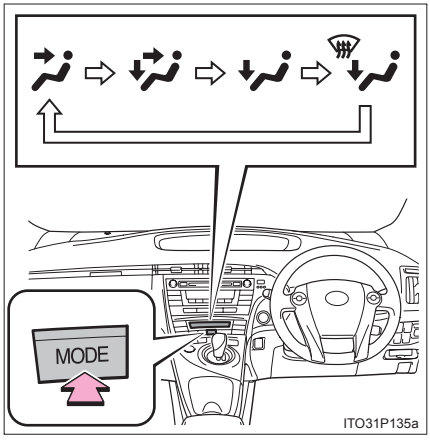
■ 風量をかえるには

の “∧”（増）側か “∨”（減）側 を押す

風量は7段階に調整できます。

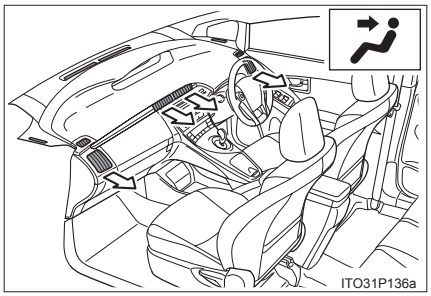
送風を止めるときは OFF を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

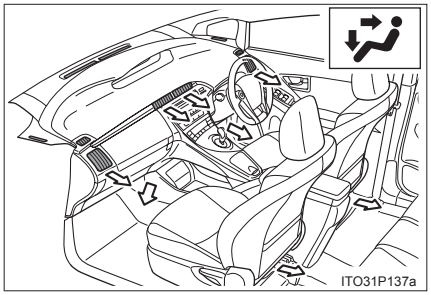


MODE を押す

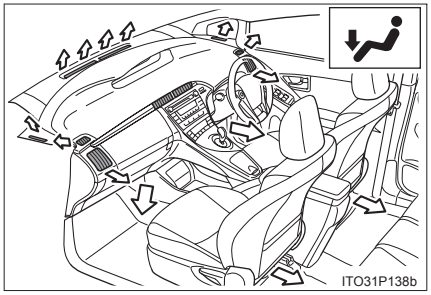
スイッチを押すたびに吹き出し口が切りかわります。吹き出し口表示は次ページの状態を示しています。



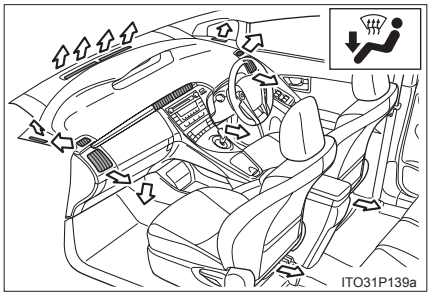
上半身に送風



上半身と足元に送風

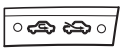


足元に送風



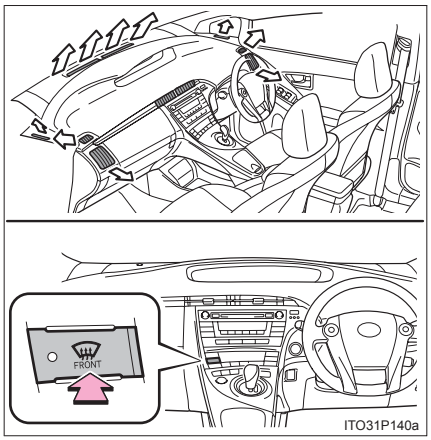
足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。
選択されている方の作動表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには



 を押す

エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度  を押すと、前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

 を押す

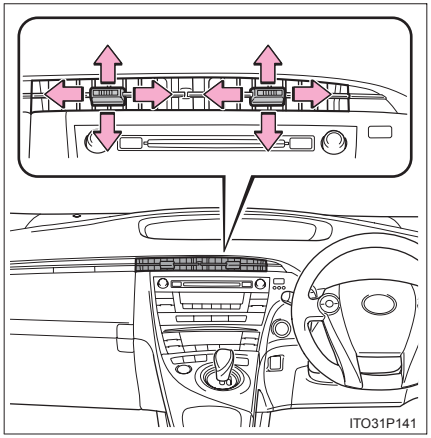
内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に）  を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度  を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

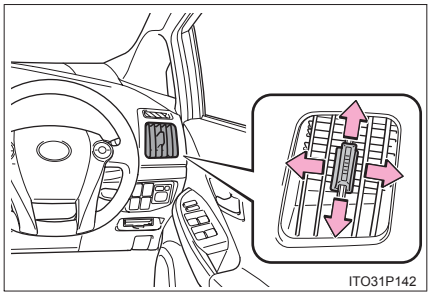
■ 風向きの調整

▶ センター吹出口



ノブを上下左右に動かして調整します。

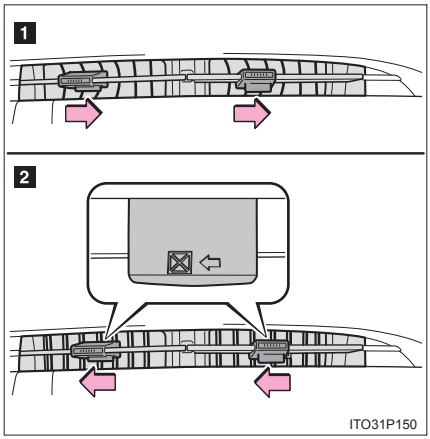
▶ サイド吹出口



ノブを上下左右に動かして調整します。

■ 吹き出し口の開閉

▶ センター吹出口

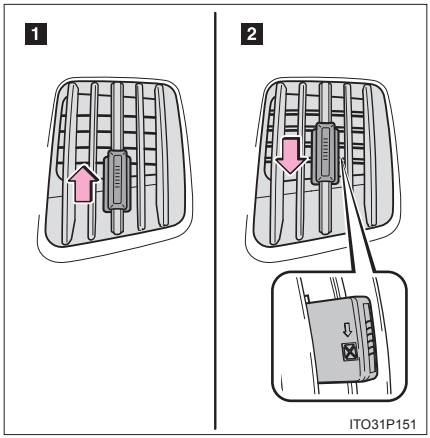


1 開ける

2 閉める

ノブに刻印されている矢印の方向へ“カチッ”と音がする位置まで動かします。

▶ サイド吹出口



1 開ける

2 閉める

ノブに刻印されている矢印の方向へ“カチッ”と音がする位置まで動かします。

知識

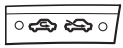
■オート設定の作動について

次のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

- 

を押した直後しばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

- トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温が高いときの冷房効果を高めたいときに、 
を内気循環にすると効果的です。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

外気温によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃近くに下がったとき



を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去モードについて

- 外気温が低いときは、ガラス窓曇り防止のために次のような作動をする場合があります。
  - ・内気循環に切りかわらない
  - ・エアコンの電源が自動的に入る
- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去モードが OFF のときも、花粉はフィルターで取り除かれています。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■外気温表示について

- 現在の外気温が表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行のとき
  - ・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入口付近など）

■エコドライブモード（→P. 149）を使用しているときは

燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- A/C が ON のとき、内気循環に切りかわる場合がある
- 空調の使用時にガソリンエンジンを始動する頻度を抑制する
- オート設定での使用時、ファンの風量を抑える

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費向上を図るため、エアコンの風量や暖房／冷房の作動を抑制しており、暖房／冷房の効きが弱いと感じられることがあります。
効きを強くしたいときは、エコドライブモードを解除してください。
（→P. 152）

■  について

外気温が低いときは、フロントガラスの曇りが取れるまでに時間がかかる場合があります。

■補助ヒーター（PTC ヒーター）について*

ハイブリッドシステム始動直後からガソリンエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加え暖房を補います。

⚠ 警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、  を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⚠ 注意

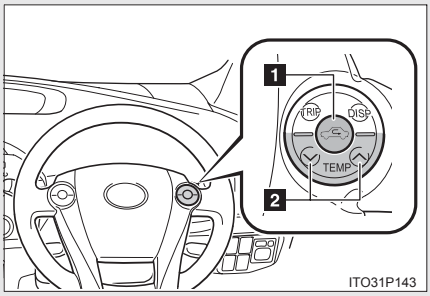
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中はエアコンを使用しないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ステアリングスイッチでの操作

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。



1 外気導入・内気循環切りかえ

2 温度調節

設定温度をかえるには

温度を上げるときは 

の“∧”側を、下げるときは“∨”側を押す

外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

知識

■タッチトレーサーディスプレイ*について

→P. 159

■タッチセンサー内蔵ステアリングスイッチについて（タッチトレーサーディスプレイ装着車）

→P. 167

警告

■事故を防ぐために

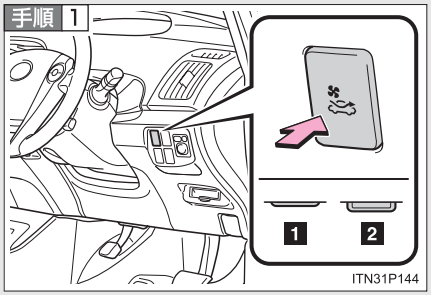
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ソーラーベンチレーションシステム*

ルーフに搭載されたソーラーパネルの発電力を使用してファンを作動させ、炎天下駐車場時の車室内を換気します。

手順 1



換気スイッチを押す

1 ON

2 OFF

“パワー”スイッチが ON モードのときに操作してください。

手順 2 “パワー”スイッチを OFF にする

約 1 分後に自動で、内外気切りかえの設定が外気導入、吹き出し口が上半身への送風に切りかわり、約 10 分後に換気を開始します。

“パワー”スイッチを ON モード、または換気スイッチを OFF にすると換気作動が停止します。

知識

■作動条件

ソーラーパネルの電力のみを使用しているため、次のような場合は換気作動しない場合があります。

- 日射量が少ないとき
- ソーラーパネルの一部分でも、ビル・電柱などの影になっているとき
- ソーラーパネルの一部分でも、落ち葉の貼り付きや汚れがあるとき
- ソーラーパネルの温度が低いとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ソーラーベンチレーションシステム使用中の音について

十分な日射量がない場合は“ググッ、ググッ”と音がすることがありますが、これはファンを保護する制御作動音であり異常ではありません。

■ソーラーベンチレーションシステムを使用する前に

ソーラーパネルの発電量を保つため、落ち葉や汚れなどを取り除いてください。

■ソーラーベンチレーションシステムを効果的に使用するために

●必ず“パワー”スイッチがONモードのときに、換気スイッチをONにして使用してください。
“パワー”スイッチがOFFのときに換気スイッチをONにすると、内外気切りかえ・吹き出し口の設定が自動で切りかわらないため、換気作動できなくなります。

●リモートエアコンシステム（→P. 282）と併用すると、より効果的です。

⚠警告

■使用上の警告

●本システムは、乗車時の不快感を低減するシステムです。他の目的に使用しないでください。

●車室内に人がいるときは使用しないでください。
ソーラーベンチレーションシステムは冷房を保証するものではないため、お子さまやペットなどを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ソーラーパネル付ムーンルーフについての警告

→P. 88

⚠ 注意

■使用上の注意

ソーラーベンチレーションシステムが不要なときは、換気スイッチを OFF にしてください。

- 換気スイッチが ON のときは、他の車の排気ガスなどが車室内に入ることがあります。
- 日射状況により、外気温が低いときでも作動することがあり、車室内の暖められた空気が車外に排出され、室温が低下することがあります。

リモートエアコンシステム*

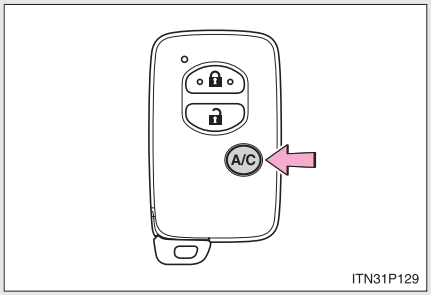
駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房（エアコン）を作動させ、炎天下駐車後の車室内の温度を下げます。

■ 車を降りる前に

エアコンの設定温度を確認してください。（→P. 269）

リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。

■ 使用するときは



A/C を押し続ける※

リモートエアコンが作動します。

・ドアを開くと停止します。

・ A/C を2回押して停止することもできます。

※約0.8秒以上押し続けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしていないと、A/C を操作しても、冷房（エアコン）は作動しません。

- シフトポジションが P になっていること
- “ パワー ” スイッチが OFF になっていること
- すべてのドアが閉じていること（バックドアを含む）
- ボンネットが閉じていること
- ブレーキペダルが踏まれていないこと
- エアコンの設定温度が最大暖房（HI）以外になっていること

■セキュリティ機能

リモートエアコンシステムを作動するとき、安全のため自動的にドアロックが作動し、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。（→P. 55）

■リモートエアコンシステムの自動停止について

次のとき、自動的に停止します。

- リモートエアコンシステムの作動開始から約 3 分後
- 作動条件（→P. 283）がひとつでも満たされなくなったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停止する場合があります。（→P. 171）

■リモートエアコンシステムの作動について

次のような場合は、A/C を操作しても作動しないことがあります。

- 駆動用電池の充電量が少ないとき（→P. 171）
- 室温の設定が高いとき、または外気温度が低いとき
- 数日間、駐車したまま放置していたとき
- ハイブリッドシステムが低温のとき（低外気温下に長時間放置したあとなど）

■リモートエアコンシステム作動時の設定温度について

リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。
車を降りる前にエアコンの設定温度を確認してください。

■リモートエアコンシステムを効果的に使用するために

ソーラーベンチレーションシステム（→P. 279）と併用すると、より効果的です。

■電池の消耗について

→P. 48

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 385

■販売店で設定可能な機能

リモートエアコンシステムの作動開始・停止時の、ワイヤレスリモコンの操作方法を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P. 476）

⚠ 警告

■使用上の警告

車室内に人がいるときは使用しないでください。

- リモートエアコンシステムを使用していても、システムの自動停止等により車室内が高温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 作動中はワイパーなどが使用できる状態になるため、特にお子さまやペットが車室内にいるときは、誤操作による事故につながるおそれがあり危険です。

■思わぬ事故を防ぐために

リモートエアコンシステムを使用するときは、次のことをお守りください。

- 降車時はすべての窓を閉める
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用する
- ワイパースイッチを OFF・ライトスイッチを OFF または AUTO にする
  スイッチが ON になっていると、リモートエアコンと連動して作動してしまうため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットが開いているときは、A/C を操作しない
  意図せず冷房が作動して、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■誤操作による駆動用電池の消費を防ぐために

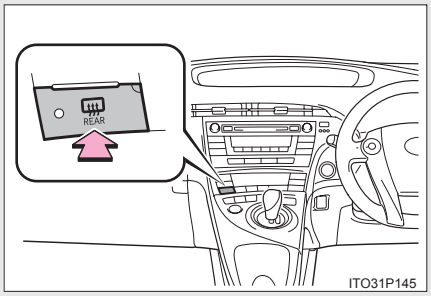
必要なとき以外、 A/C を操作しないでください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 54

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。



ON ／ OFF

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき使用できます。

■ミラーヒーターについて（寒冷地仕様車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターも同時に作動します。

⚠ 警告

■ミラーヒーター作動中の警告（寒冷地仕様車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

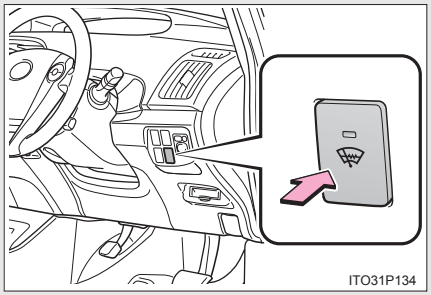
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、補機バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。



ON ／ OFF

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

⚠ 警告

■作動中の警告

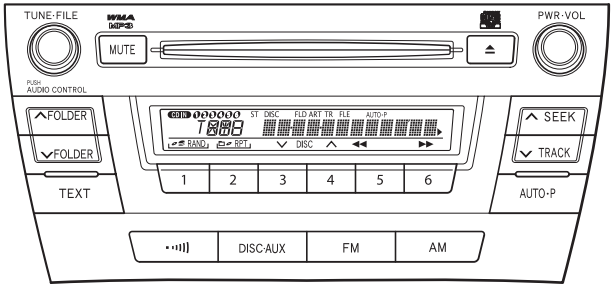
フロントガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオインデックス

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

▶CD プレーヤー・AM ／ FM ラジオ*



タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 290
CD プレーヤーの使い方	P. 293
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方	P. 299
快適に聞くために	P. 306
AUX 端子の使い方	P. 308
ステアリングスイッチでの操作	P. 310

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

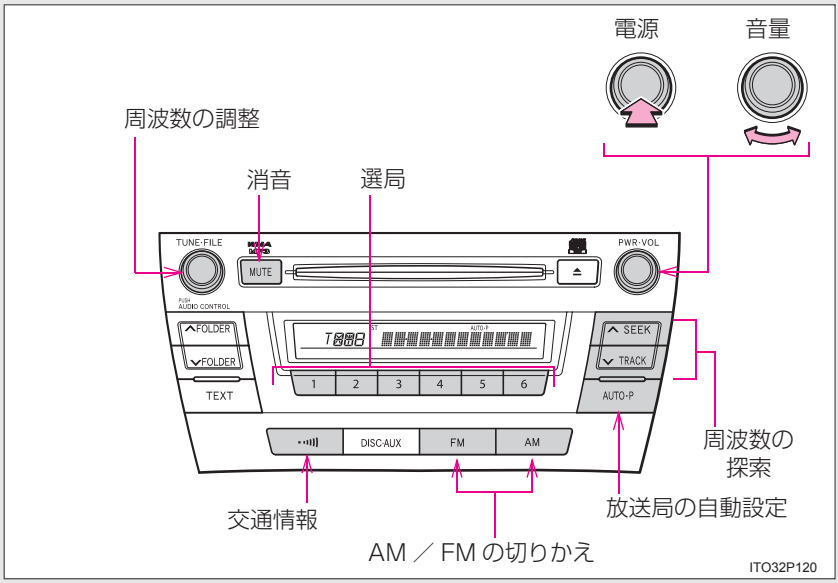
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。



放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 TUNE·FILE をまわして、または SEEK （高い周波数）、または TRACK （低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を“ピッ”と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

AUTO·P を“ピッ”と音が鳴るまで押す

受信感度のよい順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると“ピッピッ”と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ıllı] を押す

もう一度押すと解除されます。

一時的に音を消す

[MUTE] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ıllı] について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき [·ıllı] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ıllı] に記憶させることができます。ただし、補機バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

● [·ıllı] を押して、ラジオを受信しているときは、



を操作しても、周波数は切りかわりません。

■補機バッテリーとの接続が断たれたときは

[1] ～ [6] に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

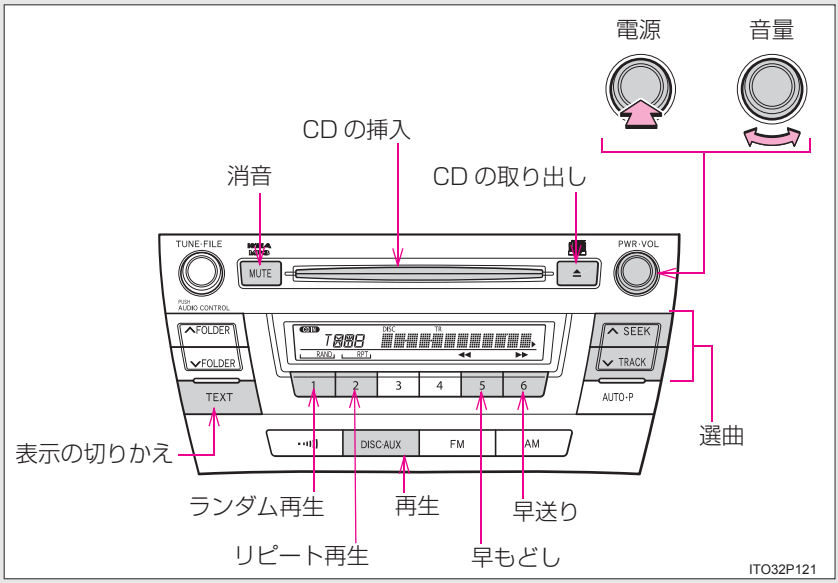
●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

● 

を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。（→P. 313）

CD プレーヤーの使い方



CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

[⏏] を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

[SEEK ^] （次曲）、または [TRACK v] （前曲）を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどしするときは [5]（◀◀）を、早送りするときは、[6]（▶▶）を押し続ける

リピート（RPT）再生する

2 （RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

1 （RAND）を押す

もう一度押すまで、無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

一時的に音を消す

→P. 291

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 1 (RAND) または 2 (RPT) を押します。

■エラー表示

“ERROR 1”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。



コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に入れたまま、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

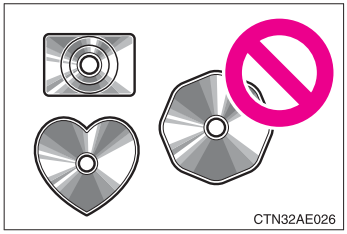
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

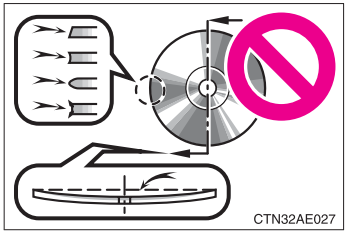
⚠ 注意

■使用できない CD・アダプター

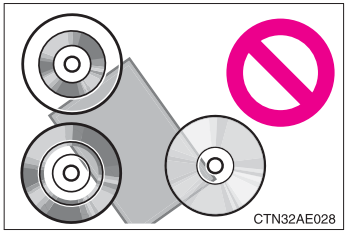
次のような CD・8cmCD アダプター・DualDisc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



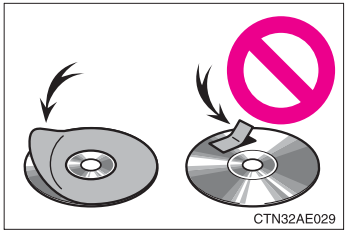
●直径12cm または8cmの円形以外のCD



●低品質または変形している CD



●記録部分が透明または半透明の CD



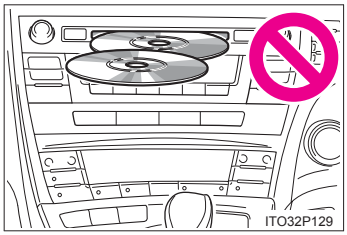
●セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

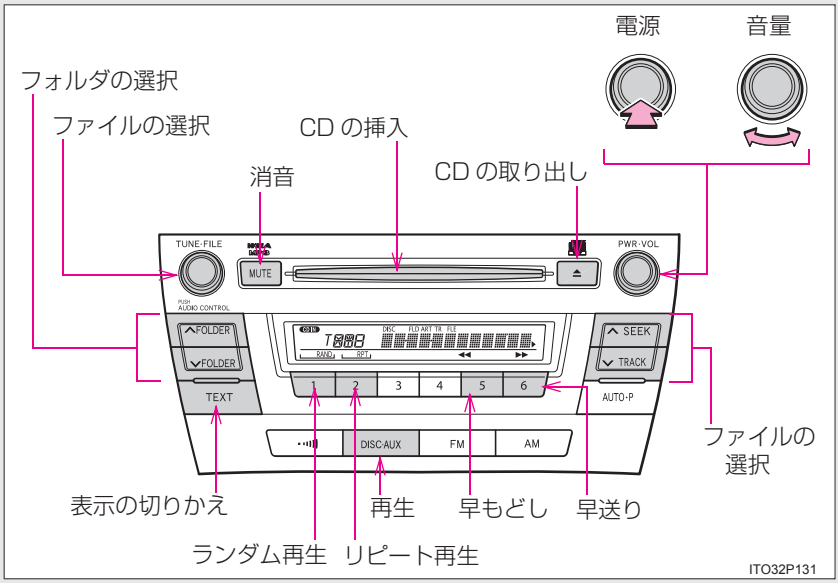
次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない



- 一度に２枚以上の CD を挿入しない

MP3 ／ WMA ディスクの聞き方



MP3 ／ WMA ディスクを挿入する、または取り出す

→P. 293

早もどし・早送りする

→P. 293

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

■ 次フォルダを選ぶ



を押す

■ 前フォルダを選ぶ



を押す

最初のフォルダにもどるには、 

を“ピッ”と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する



をまわして、または 

（次ファイル）、または



（前ファイル）を押して、聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ ファイルをくり返して再生する



（RPT）を押す

■ フォルダをくり返して再生する



（RPT）を“ピッ”と音が鳴るまで押す

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する



（RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する



（RAND）を“ピッ”と音が鳴るまで押す

一時的に音を消す

→P. 291

表示を切りかえる



を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
フォルダ番号・フォルダタイトル・ファイル名などが 13 文字以上の場合は、

TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

“ERROR 1”： ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3 ／ WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に入れたまま、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■MP3 ／ WMA ファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

・対応規格
MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
・対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・対応ビットレート
MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
・対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・対応規格
WMA Ver.7、8、9
・対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
・対応ビットレート
Ver.7、8： CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3 ／ WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。

・ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3 ／ WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

・最大ディレクトリ階層：8 階層
・最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）
・最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3／WMA と認識し再生するファイルは、MP3／WMA の拡張子 ".mp3" または ".wma" が付いたものだけです。

●マルチセッションについて
マルチセッションに対応しており、MP3 ／ WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ／ WMA タグについて
MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します）
WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について
MP3 ／ WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について
MP3 ／ WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子が付いていると、MP3 ／ WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

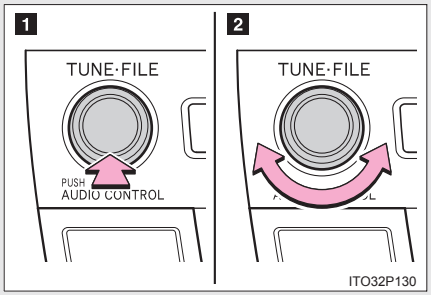
・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3 ／ WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3 ／ WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

⚠ 注意

■**使用できない CD・アダプター（→P. 297）**
■**CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 298）**

快適に聞くために

お好みに合わせて、音質や音量バランスなどの設定を変更することができます。



1 ツマミを押して、調整したいモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして、音質と音量バランスの設定を変更する（→P. 307）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには

■ 調整モードの切りかえ

TUNE·FILE



を押すごとに、次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質・音量バランスの調整



をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

調整モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量バランス	FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
低音※1	BAS	－ 5 ～ 5	弱	強
高音※1	TRE	－ 5 ～ 5		
左右音量バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大
音量補正	ASL	OFF	右へまわす OFF → LOW → MID → HIGH 左へまわす	
		LOW		
		MID		
		HIGH		

※1 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

■ASL※2（音量補正）について

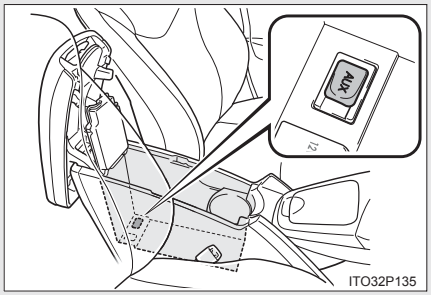
車速に応じて音量・周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

HIGH・MID・LOW の順に補正量が小さくなります。

※2 ASL は Automatic Sound Levelizer の略です。

AUX 端子の使い方*

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

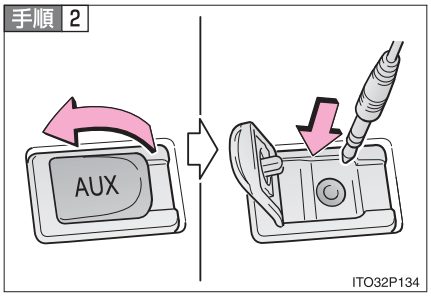


この AUX 端子はメーカーオプションのオーディオ、またはメーカーオプションのナビゲーションシステム装着時のみ使用できます。

車両にAUX端子が装着されていても、メーカーオプションのオーディオ、またはメーカーオプションのナビゲーションシステム以外では使用できません。

ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続

手順 1 コンソールボックスのフタを開ける（→P. 322）



フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子と AUX 端子とを接続します。

接続する機器の電源が OFF の状態で接続してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

使用するときは※

手順 1 DISC·AUX を押す

手順 2 接続した機器の電源を ON にし、再生を開始する

操作方法は、接続する機器の取り扱い説明書を参照してください。

・音量は、接続した機器および車両の PWR·VOL を操作して調整します。

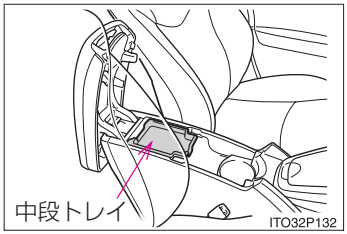
・音質は、接続した機器側で調整します。

使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源を OFF にします。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■ポータブルオーディオプレーヤーの収納について



●コンソールボックスの中段トレイにポータブルオーディオプレーヤーなどを置くと、コードの経路が確保できます。

●コンソールボックス内のアクセサリーソケットは、ポータブルオーディオプレーヤーの電源として使用できます。
(→P. 332)

注意

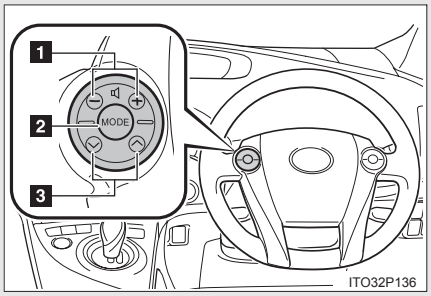
■故障を防ぐために

端子に異物が入ったり飲料水などがかかったりするのを防ぐため、ポータブルオーディオプレーヤーを接続していないときは、AUX 端子のフタを閉めておいてください。

ステアリングスイッチでの操作

次の機能はステアリングスイッチで操作することができます。

メーカーオプションおよび、この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。装着されたオーディオ・ナビゲーションシステムにより操作が異なる場合があります。



1 音量

2 電源・モード切りかえ

3 現在のオーディオモードにより、機能がかわります。

- 周波数の探索（ラジオ使用時）
- 選曲（CD 再生時）
- ファイル／フォルダの選択（MP3 ／ WMA 再生時）

電源を入れる

MODE を押す

電源が ON のときは、スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると電源が OFF になります。

モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき、MODE を押すごとに、次の順にモードが切りかわります。

AM → FM → CD ※1 → AUX ※2

※1 CD はディスクが挿入されていないときは選択できません。

※2 AUX は AUX 端子が車両に装着されていないとき、またはポータブルオーディオプレーヤーなどの機器が接続されていないときは選択できません。

音量を調整する

音量を大きくするときは  の “+” 側を、小さくするときは “−” 側を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

手順 1  を押して、AM または FM を選択する

手順 2  の “∧” 側、または “∨” 側を押す

スイッチを押すごとに、記憶されている周波数を選択します。
“ピッ” と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

手順 1  を押して、CD を選択する

手順 2  の “∧” 側、または “∨” 側を押して、希望の曲を選択する

MP3 ／ WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1 (MODE) を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

手順 2  の“∧”側、または“∨”側を押して、希望の曲を選択する

■ フォルダを選択するには

手順 1 (MODE) を押して、CD（MP3 ／ WMA）を選択する

手順 2  の“∧”側、または“∨”側を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する

知識

■タッチトレーサーディスプレイ*について

→P. 159

■タッチセンサー内蔵ステアリングスイッチについて（タッチトレーサーディスプレイ装着車）

→P. 167

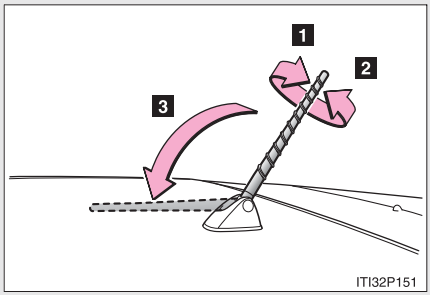
⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アンテナ



1 取りはずす
2 取り付ける
3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

⚠ 注意

■自動洗車機にかけるときは

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

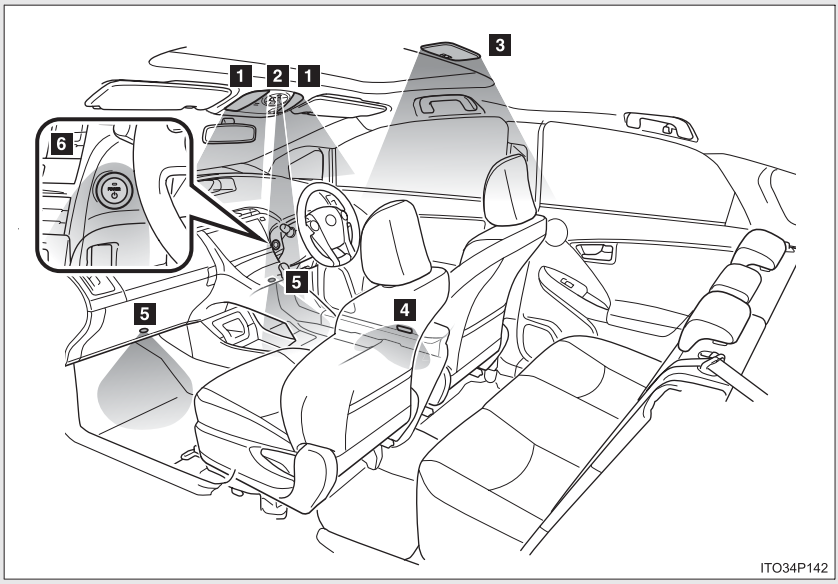
- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■洗車時などアンテナを取りはずしたときは

アンテナを紛失しないように注意してください。またアンテナは、洗車時以外は取り付けておいてください。

室内灯一覧

スイッチの操作やドアの開閉操作などに連動して、またはイルミネーテッドエントリーシステム（→P. 315）の制御に従って、各部の照明が点灯・消灯します。



1 フロントパーソナルライト（→P. 316, 317）
2 シフトレバー照明
3 ルームライト（→P. 318)
4 ドアカーテシライト（→P. 318）
5 足元照明*
6 “ パワー ” スイッチ照明

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■自動消灯機能について

フロントパーソナルライト／ルームライトのスイッチがドアポジションのときに、ドア開状態で各部照明が点灯したままの場合、約20 分後に自動消灯します。

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“パワー”スイッチの状態により、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※フロントパーソナルライトとルームライトは、スイッチの位置がドアポジションのときに作動します。

■シフトレバー照明について

車幅灯を点灯すると、シフトレバー照明が連動して点灯します。

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 476）

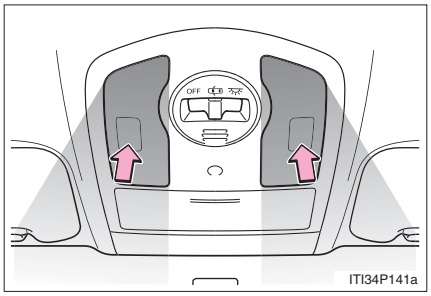
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ライト類を長時間点灯しないでください。

フロントパーソナルライト（ソーラーパネル付ムーンルーフ非装着車）

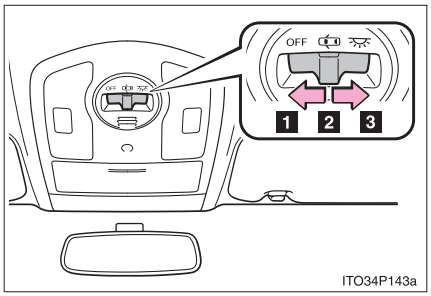
■ 独立スイッチでの操作



点灯／消灯

■ ドア連動スイッチでの操作

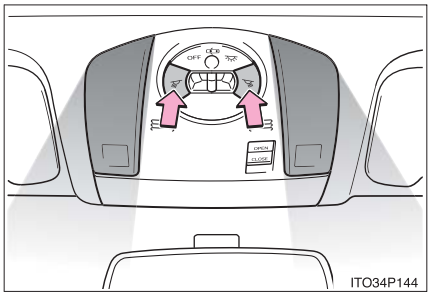
ルームライト（→P. 318）のスイッチがドアポジションのとき、フロントパーソナルライトのスイッチを操作すると、連動してルームライトも作動します。



1 OFF
2 ドア連動（ドアポジション）
3 常時点灯

フロントパーソナルライト（ソーラーパネル付ムーンルーフ装着車）

■ 独立スイッチでの操作

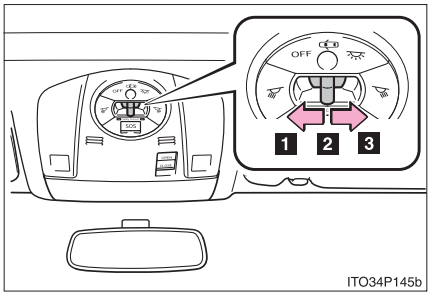


点灯／消灯

スイッチを押した側のフロントパーソナルライトが作動します。

■ ドア連動スイッチでの操作

ルームライト（→P. 318）のスイッチがドアポジションのとき、フロントパーソナルライトのスイッチを操作すると、連動してルームライトも作動します。

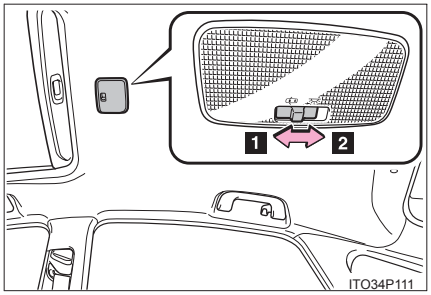


1 OFF

2 ドア連動（ドアポジション）

3 常時点灯

ルームライト

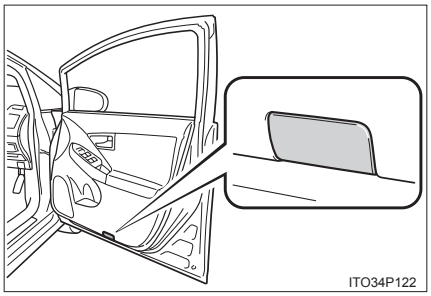


1 ドアポジション（ドア連動）※

2 常時点灯

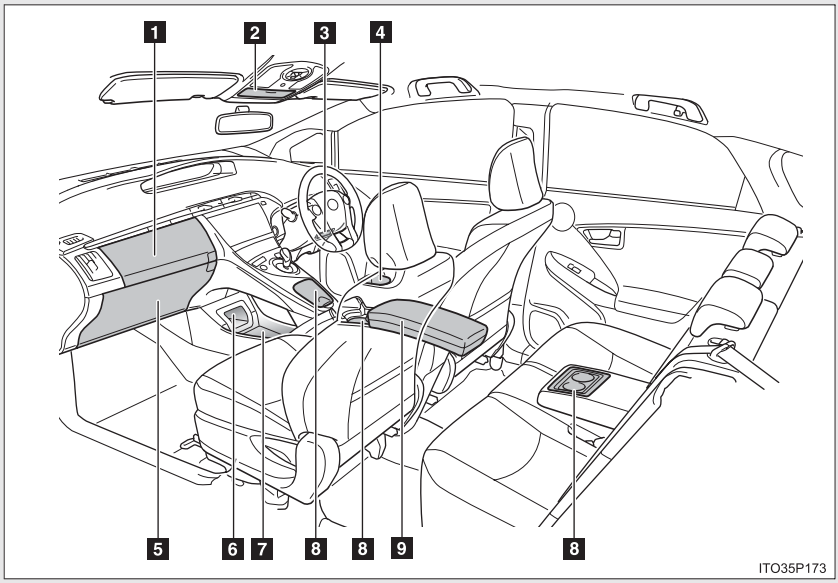
※フロントパーソナルライトのスイッチに連動して作動します。（→P. 316, 317）

ドアカーテシライト（フロントドアのみ）



ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

収納装備一覧



1 アッパーグローブボックス
2 オーバーヘッドコンソールボックス*
3 カードホルダー*
4 ボトルホルダー
5 ロアグローブボックス
6 フロントコンソール前ポケット*
7 フロントコンソールトレイ
8 カップホルダー*
9 コンソールボックス※

※コンソールボックスは、グレードにより形状が異なります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

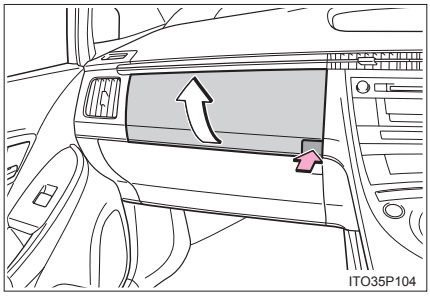
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

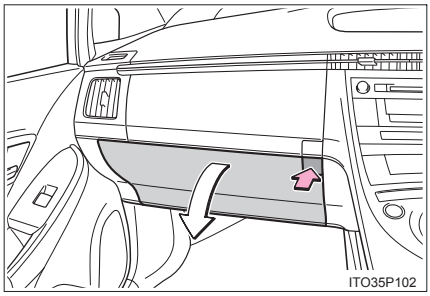
グローブボックス

▶ アッパーグローブボックス



ボタンを押す

▶ ロアグローブボックス



ボタンを押す

知識

■グローブボックスライトについて（ロアグローブボックス）

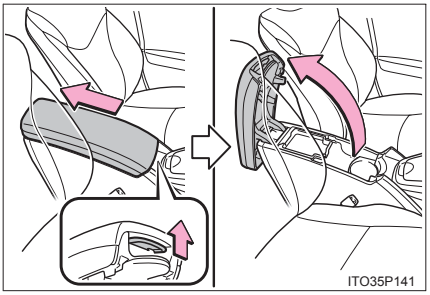
車幅灯が点灯しているとき、グローブボックス内のライトが点灯します。

⚠ 警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

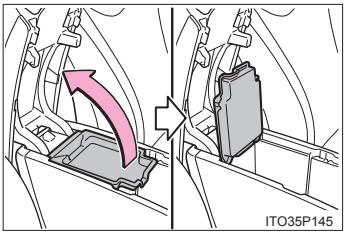
コンソールボックス（A タイプ）



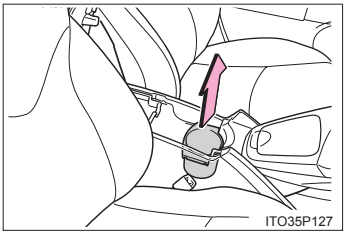
ノブを引き上げながら、フタを後方にいっぱいまでスライドさせ、フタを持ち上げる

知識

■ボックス内の中段トレイと前方トレイについて



●中段トレイは、携帯電話やポータブルオーディオプレーヤーなどを収納できます。（→P. 309）
また、持ち上げて開くことができます。



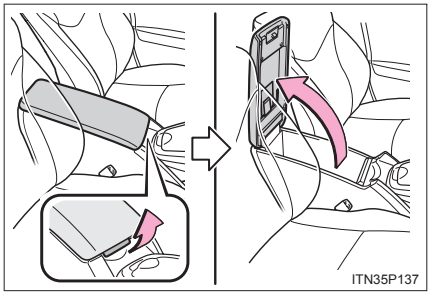
●前方トレイは、カップホルダーとして使用できます。（→P. 325）
また、取りはずすことができます。

⚠ 警告

■走行中の警告

走行前にフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

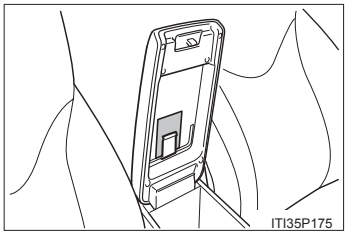
コンソールボックス（B タイプ）



ノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げる

知識

■カードホルダーについて



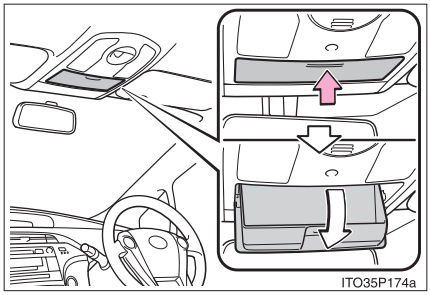
フタの裏面にカードホルダーがあります。

警告

■走行中の警告

走行前にフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オーバーヘッドコンソールボックス*



フタを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

⚠警告

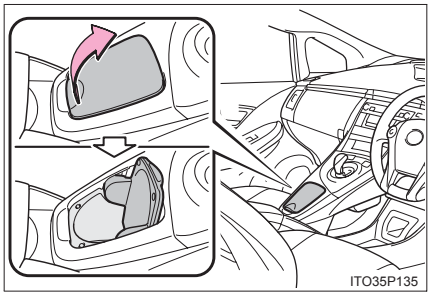
■走行中の警告

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

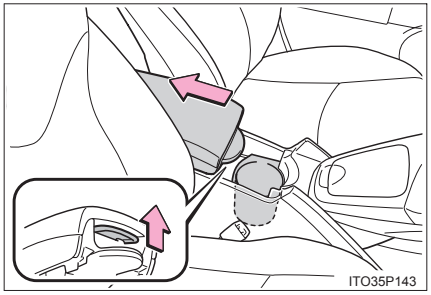
カップホルダー

▶ フロント



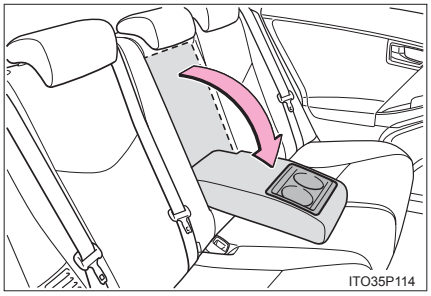
フタを持ち上げる

▶ コンソールボックス内*



ノブを引き上げながら、コンソールボックスのフタを後方いっぱいまでスライドさせる

▶ リヤ*



リヤセンターアームレストを引き出す

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■カップホルダーを使わないときは（リヤカップホルダー*を除く）

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに開いたフタが体にあたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

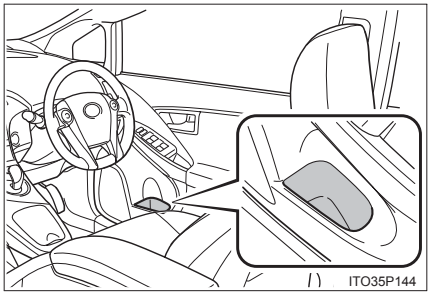
⚠ 注意

■フロントカップホルダーの破損を防ぐために

カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー（フロントドア）



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

警告

■走行中の警告

ボトルホルダーには、ペットボトルなどのボトル類以外のものを置かないでください。急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

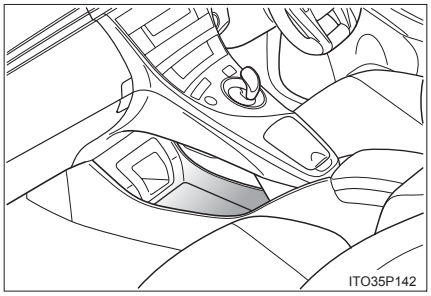
注意

■収納してはいけないもの

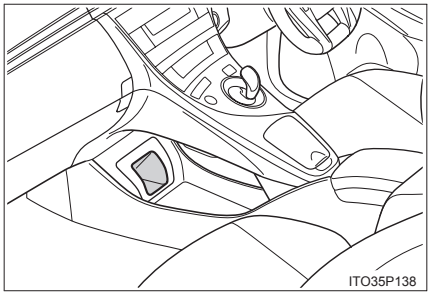
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

オープントレイ

▶ フロントコンソールトレイ



▶ フロントコンソール前ポケット*



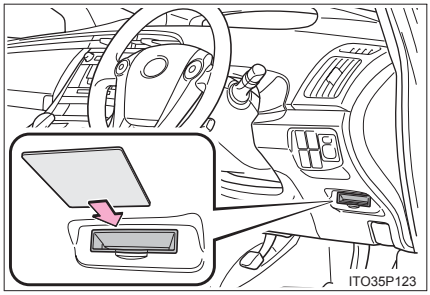
⚠ 警告

■走行中の警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

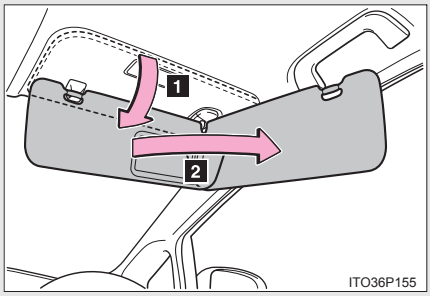
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

カードホルダー*



*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

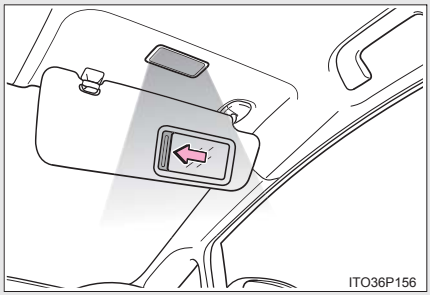
サンバイザー



1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー



カバーを開けると、バニティミラー天井照明が点灯します。

⚠ 注意

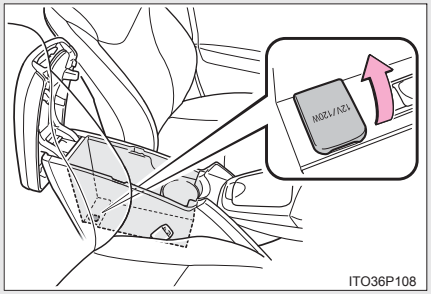
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、バニティミラー天井照明を長時間点灯しないでください。

アクセサリーソケット

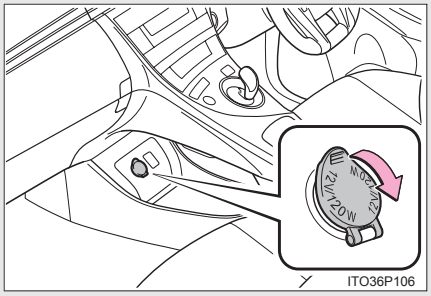
12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶L グレードを除く



フタの先端を引き上げて開ける

▶L グレード



フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

“ パワー ” スイッチがアクセサリーモード、または ON モード のとき

■アクセサリーソケットについて

タイヤパンク応急修理キット装着車は、応急修理時の電源としても使用します。(→P. 435)

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

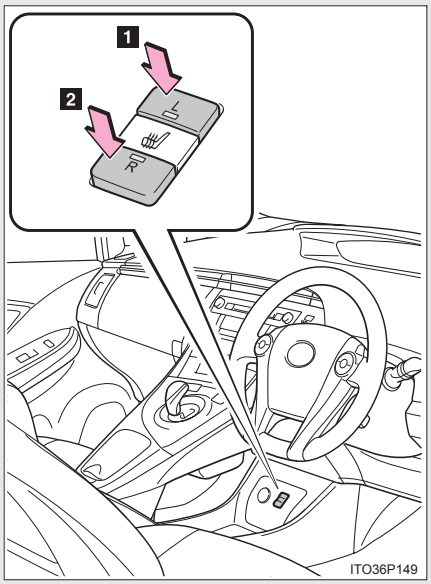
■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A をこえないようにしてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター*



1 助手席シートヒータースイッチ

2 運転席シートヒータースイッチ

スイッチを押すと ON になり、作動表示灯が点灯します。
再度押すと OFF になり、作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

“パワー”スイッチが ON モードのとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ やけどについて

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特にご注意ください。

・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
シートヒーターの使用により、保温性が高まり異常過熱の原因となります。

●仮眠するときは使用しないでください。
シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ シートヒーターの故障を防ぐために

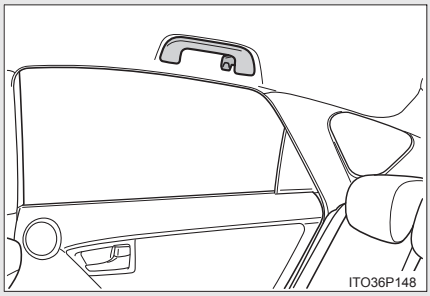
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止しているときは、スイッチを OFF にし、作動表示灯が消灯したことを確認してください。

アシストグリップ&コートフック

リヤのアシストグリップには、コートフックが付いています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

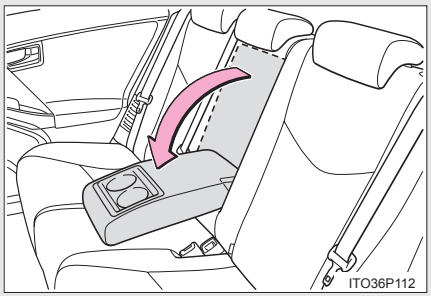
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、それらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

リヤセンターアームレスト*



引き出して使用します。

⚠ 注意

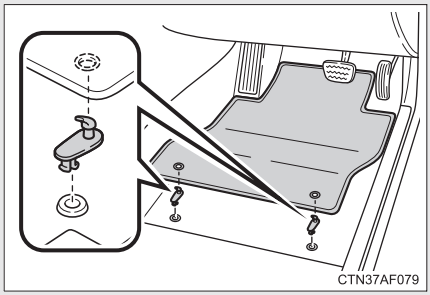
■ リヤセンターアームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
詳しい固定方法はフロアマット付属の取り扱い説明書をご確認ください。

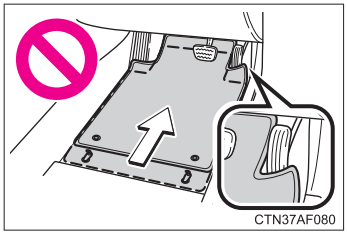
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

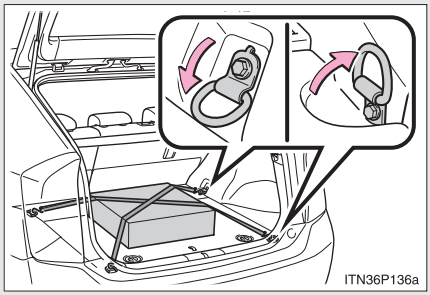
- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に



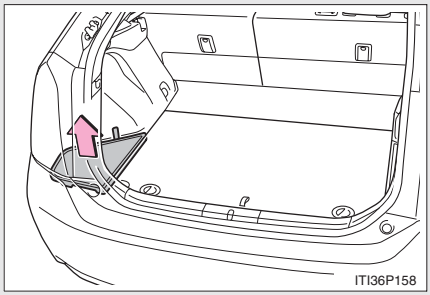
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

■ デッキフック



フックを使って、荷物を固定することができます。

■ デッキサイドボックス

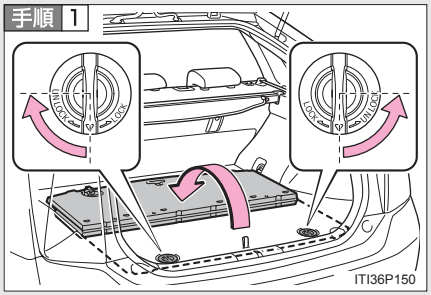


ストラップを持ってフタを取りはずす

■ デッキボード

►A タイプ

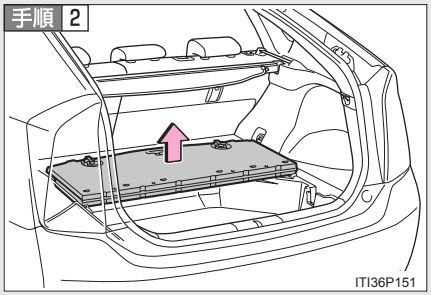
手順 1



ダイヤルを UNLOCK 側にまわしてデッキボードのロックをはずし、ストラップを持ってデッキボードを折りたたむ

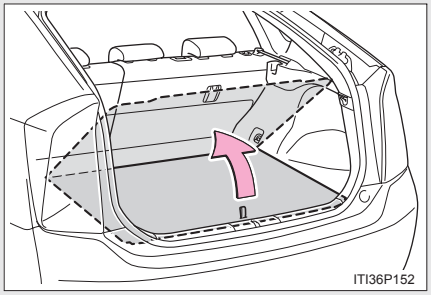
折りたたむだけで、デッキアンダートレイ内の荷物を出し入れできます。

手順 2



取りはずすときは、デッキボードを持ち上げる

►B タイプ

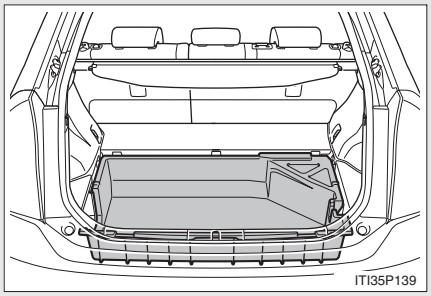


開くときは、ストラップを持ってデッキボードの先端を持ち上げる

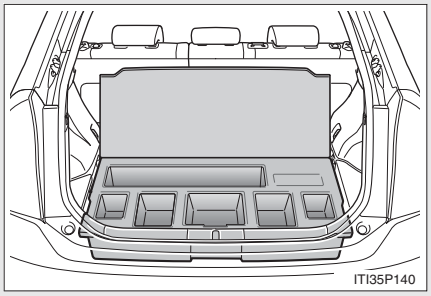
■ デッキアンダートレイ

デッキボードの下にあります。

►A タイプ

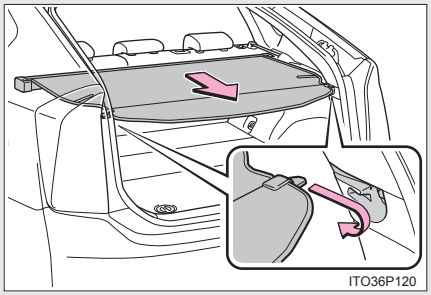


►B タイプ



Bタイプのデッキアンダートレイは、デッキボードと一体構造になっています。

■ トノカバー*



トノカバーを引き出して、ツメを左右のホルダーにかける

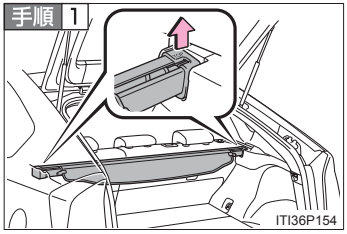
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ トノカバーの取りはずし・収納について（トノカバー装着車※）

必要に応じてトノカバーを取りはずし、デッキアンダートレイ内に格納することができます。

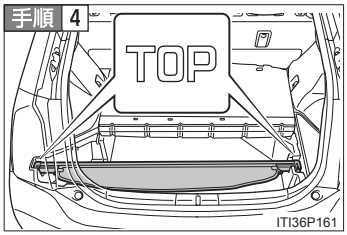
※ A タイプのデッキアンダートレイのみ。B タイプのデッキアンダートレイには、トノカバー（販売店オプション）を収納することはできません。



手順 1 トノカバーを巻き取らせ、トノカバー本体を持って上に持ち上げて取りはずす

手順 2 デッキボードを折りたたむ（→P. 341）

手順 3 デッキサイドボックスのフタを取りはずす（→P. 340）



手順 4 TOP マークを上にして収納する

手順 5 デッキサイドボックスのカバーを取り付け、デッキボードをもとにもどす

手順 6 トノカバーを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠ 警告

■デッキフックについて

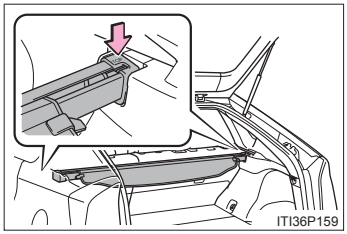
使用しないときは、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■走行中の警告

デッキボードやデッキサイドボックスのフタを開けたり取りはずしたりしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けておいてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トノカバーを使用するときは（トノカバー装着車）

- トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないでください。トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- トノカバーを取り付けるときは、TOPマーク（→P. 343）を上にして取り付け、確実に固定されたことを確認してください。トノカバーが確実に固定されていないと、走行中にトノカバーがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■トノカバーを装着するときは

- トノカバー後端部を水平にしてください。後端部が起きた状態で装着すると、後方視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトが挟み込まれていないか確認してください。トノカバーに挟み込まれていると、シートベルトの正常な作動のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

■デッキボードの破損を防ぐために

デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた
外装の手入れ..... 348
内装の手入れ..... 352
タイヤについて..... 355

4-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 360
ガレージジャッキ..... 363
電球（バルブ）の交換..... 366
ヒューズの点検・交換..... 378
キーの電池交換..... 385
ウォッシャー液の補給..... 388
エアコンフィルターの
清掃・交換..... 389

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり、洗車できない場合や、傷付いたりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に、給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車等で車に水をかけたとき

キーを携帯している、または車室内にキーがある状態で、スマートドアロック装着のドアハンドルに水がかかると、施錠／解錠動作をくり返したり、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示されたりする場合があります。
（→P. 412）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・ 研磨剤が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・ 金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、ハイブリッドシステムの停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

⚠ 注意

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アルミ部品の清掃について

ボンネット・バックドアを清掃するときは、強く押したり、体重をかけたりしないでください。アルミ部分がへこむおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などで、大まかな汚れを取る
- スポンジや、やわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは極力、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
（→P. 72）

⚠警告

■車両への水の浸入

- 車室内やラゲージルーム内、駆動用電池冷却用吸入口（→P. 27）などに水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  ラゲージルーム下部にある駆動用電池や電気部品などに水や液体がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。（→P. 99）
  電気的不具合により、SRS エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付いたほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

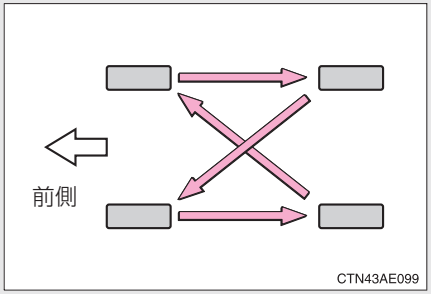
タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

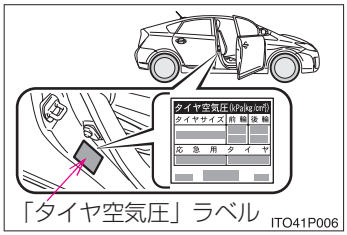


図で示すとおりにタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値



「タイヤ空気圧」ラベル ITO41P006

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm²)]	
	前輪	後輪
185/65R15 88S	250 (2.5)	240 (2.4)
195/65R15 91S	230 (2.3)	220 (2.2)
215/45R17 87W		

応急用タイヤ*：420kPa（4.2kg/cm²）※

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R17 87W 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

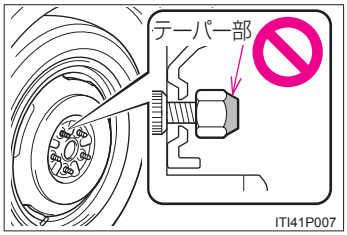
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意



●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。
ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下するおそれがあります。
また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■低偏平タイヤについて（215/45R17 87W 装着車）

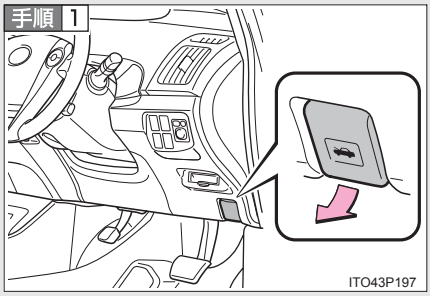
低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
  空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
  タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

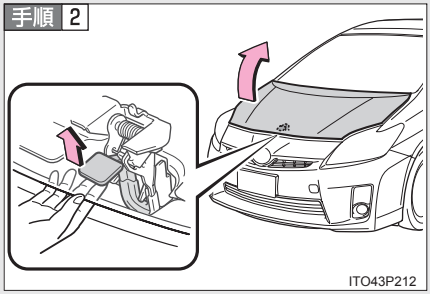
手順 1



ボンネットオープナーを引く

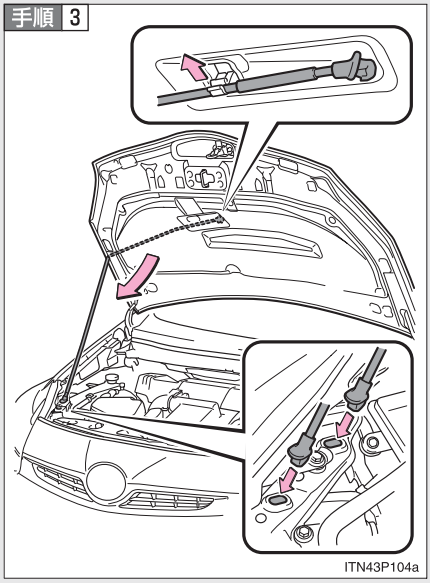
ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネットを開ける

手順 3

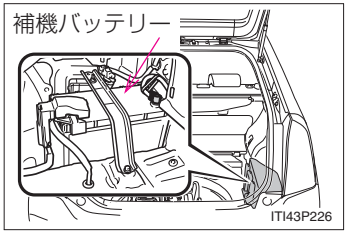


ボンネットステーをステー穴に挿し込む

通常は手前の穴を使用し、ボンネットを大きく開けたい場合は、奥側の穴に挿し込みます。

知識

■補機バッテリーについて



- この車の補機バッテリーは、ラゲージルーム下部（運転席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはメンテナンスフリータイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）
- 補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 456）

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

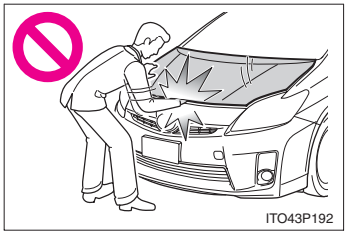
■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ボンネットの損傷を防ぐために

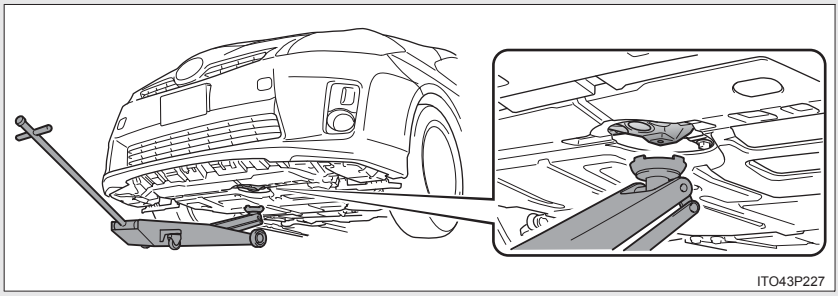
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

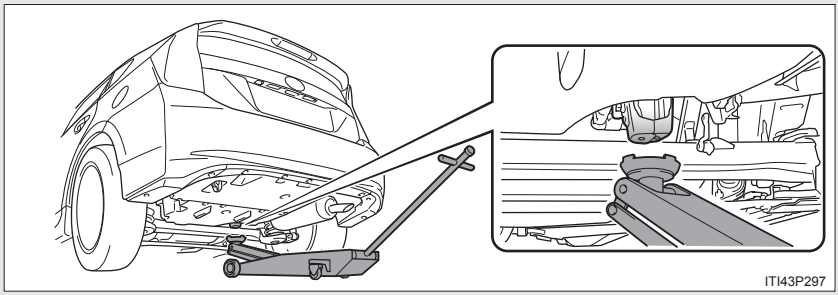
■ ジャッキセット位置

▶ フロント側



ITO43P227

▶ リヤ側

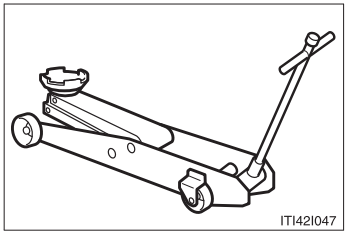


ITI43P297

⚠ 警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにする

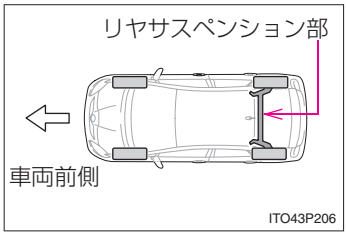
●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

⚠ 警告

■車両を持ち上げるときは



リヤサスペンション部などでジャッキアップしないでください。
車両が損傷します。

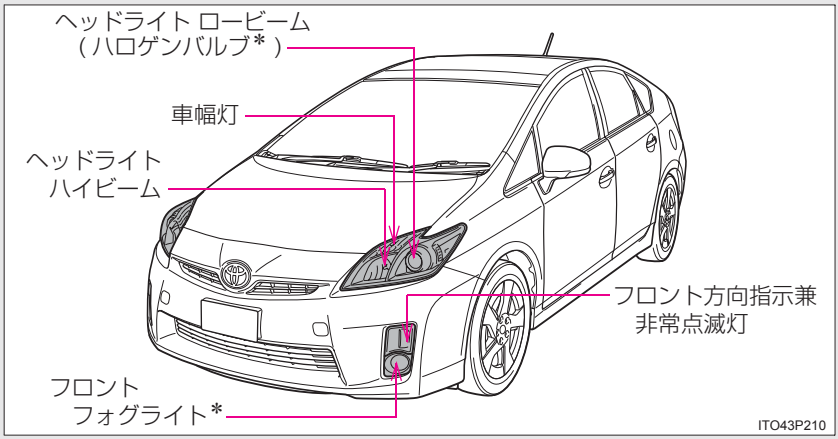
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合や、その他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

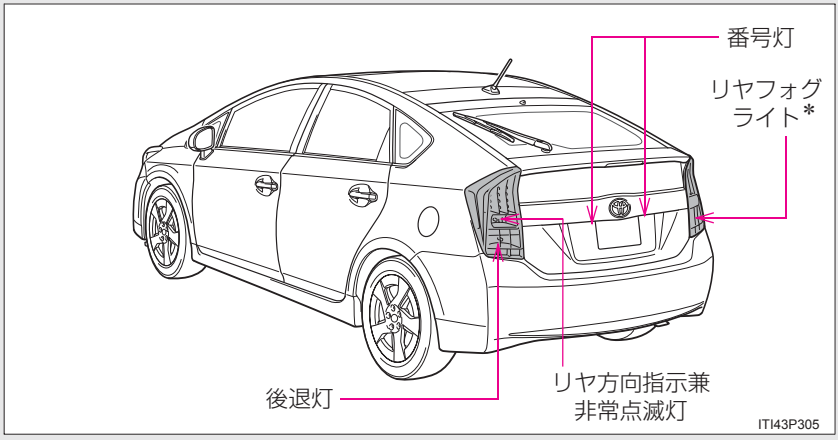
■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確かめてください。（→P. 474）

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置

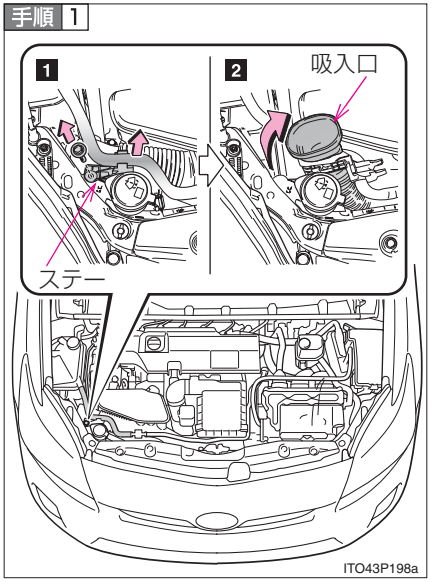


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト ロービーム（ハロゲンバルブ*）

手順 1

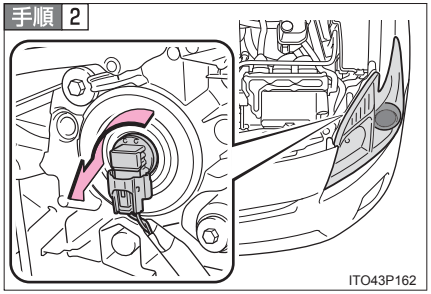


エアクリーナーの吸入口をずらす（運転席側のバルブ交換時のみ）

1 ネジ（1 本）を取りはずして、ラジエーターリザーバータンクのホースのステーをはずす

2 エアクリーナーの吸入口を引き出す

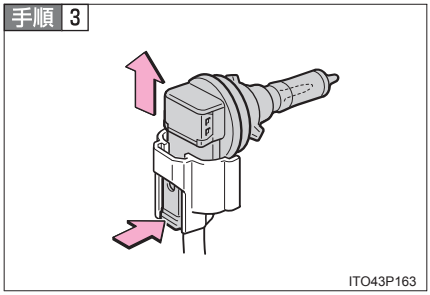
手順 2



ソケットを取りはずす

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3



電球を取りはずす

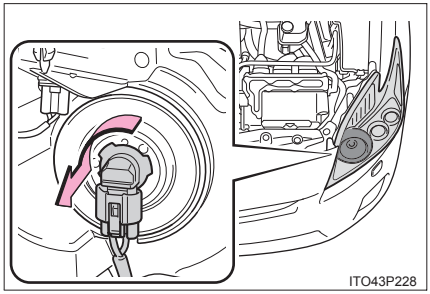
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ ヘッドライト ハイビーム

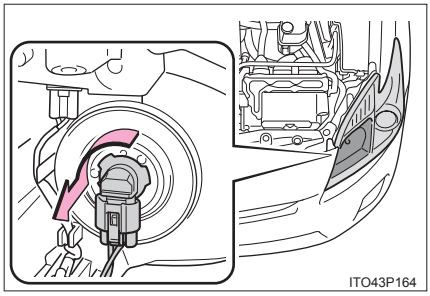
手順 1 エアクリーナーの吸入口をずらす
（運転席側のバルブ交換時のみ：→P. 367）

手順 2 ソケットを取りはずす

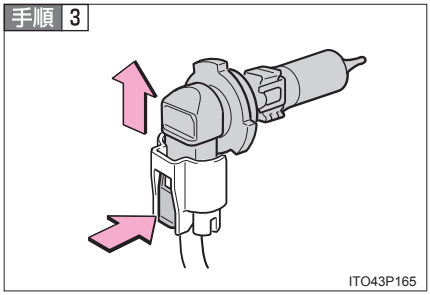
▶ LED ヘッドライト装着車



▶ ハロゲンヘッドライト装着車



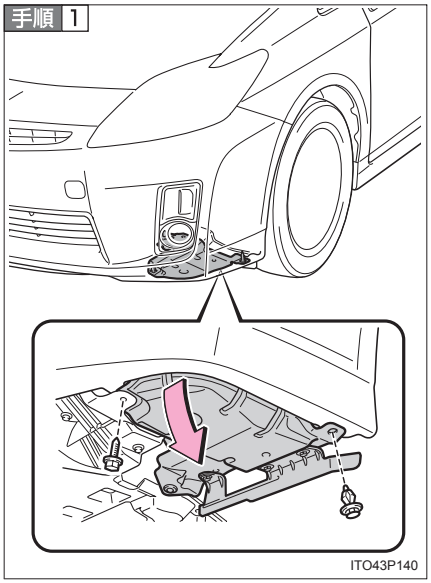
手順 3



電球を取りはずす

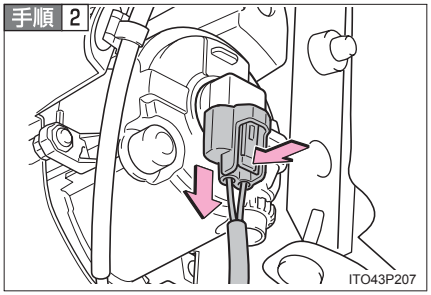
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグライト*



ネジ（1 本）とクリップ（1 本）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる

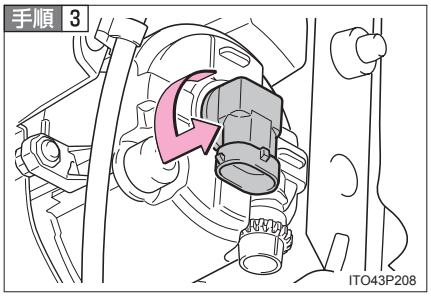
クリップは、中央部を引き出してから本体を引き抜くと、はずれます。



コネクターを取りはずす

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 3



電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

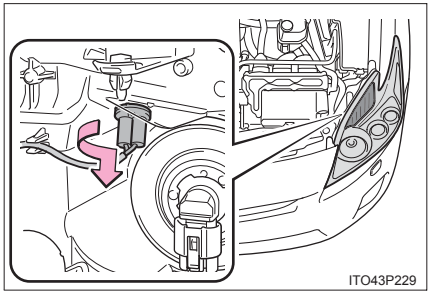
フェンダーライナーのクリップの取り付け方は、P. 376 を参照してください。

■ 車幅灯

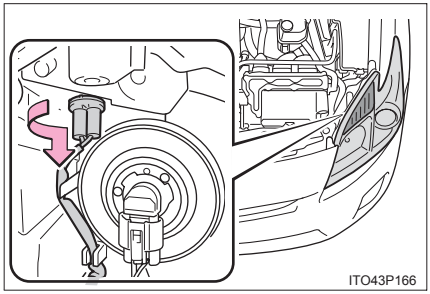
手順 1 エアクリーナーの吸入口をずらす
（運転席側のバルブ交換のみ：→P. 367）

手順 2 ソケットを取りはずす

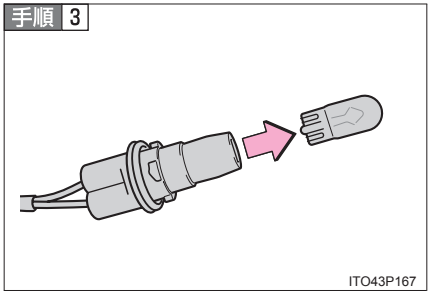
▶ LED ヘッドライト装着車



▶ ハロゲンヘッドライト装着車



手順 3



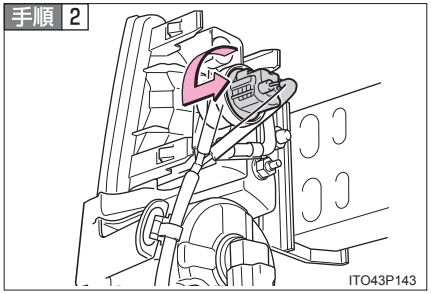
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

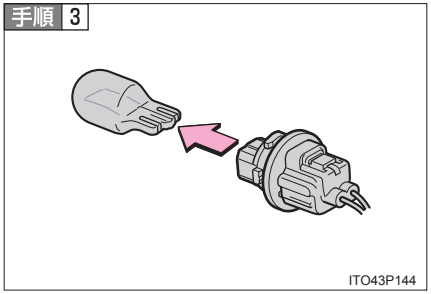
手順 1 フェンダーライナーをめくる（→P. 370）

手順 2



ソケットを取りはずす

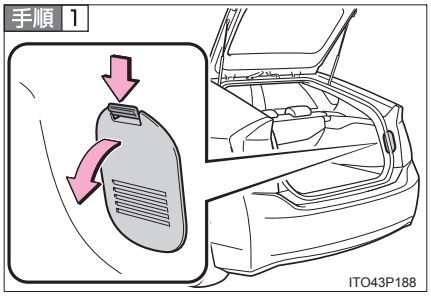
手順 3



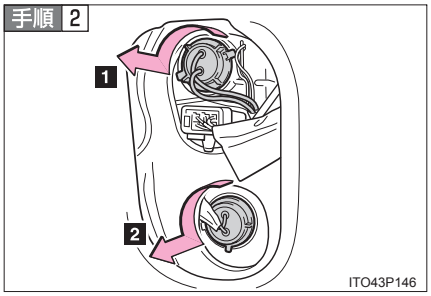
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯／リヤフォグライト*



バックドアを開けて、カバーのツメを手前に引いてカバーを取りはずす



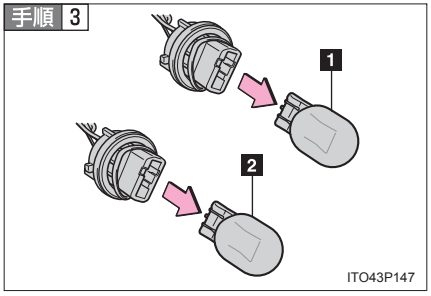
ソケットを取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 後退灯／リヤフォグライト※

コードを引き出しておいてから、ソケットをまわします。

※ 運転席側のみに装着されます。



電球を取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

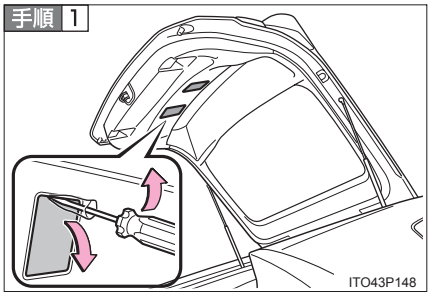
2 後退灯／リヤフォグライト

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

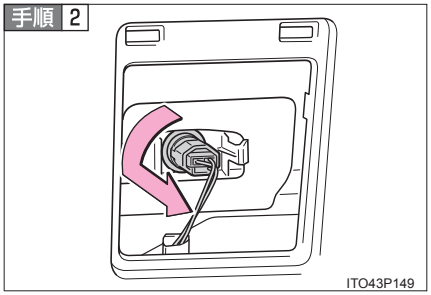
手順 1



バックドアを開けて、図の位置にある切り欠きにマイナスドライバーを挿し込んで、カバーをはずす

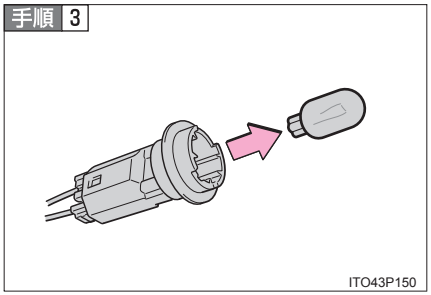
傷付きを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 2



ソケットを取りはずす

手順 3



電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

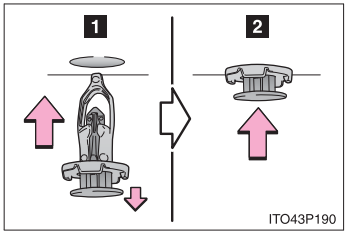
- ヘッドライトロービーム（LED ヘッドライト装着車）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 尾灯／制動灯
- ハイマウントストップライト

知識

■運転席側のヘッドライト・車幅灯を交換したときは

エアクリーナーの吸入口をもとにもどし、ラジエーターリザーバータンクのホースのステーを確実に取り付けてください。

■フェンダーライナーのクリップを取り付けるときは



1 クリップの中央部をいっぱいまで引き出して、取り付け穴に挿し込む

2 中央部を押し込んでロックする

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ライトを消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

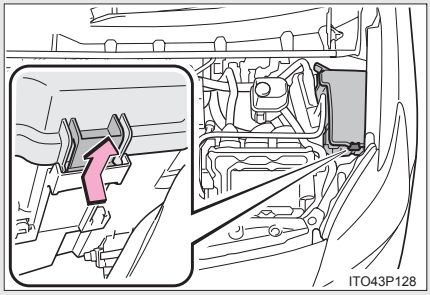
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “ パワー ” スイッチを OFF にする

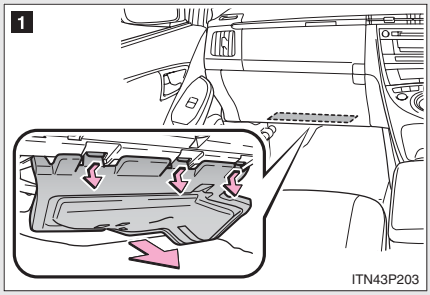
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

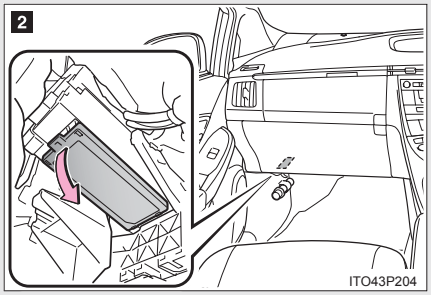


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元

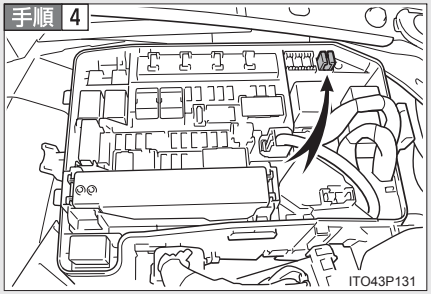


1 グローブボックス下のカバーを取りはずす（装着車のみ）



2 ヒューズボックスカバーを手前に引いて取りはずす

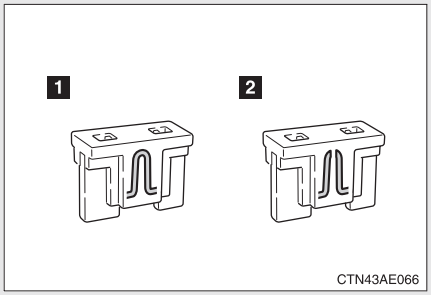
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 380）で確認する



ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしはエンジンルームのヒューズボックス内にあります。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する



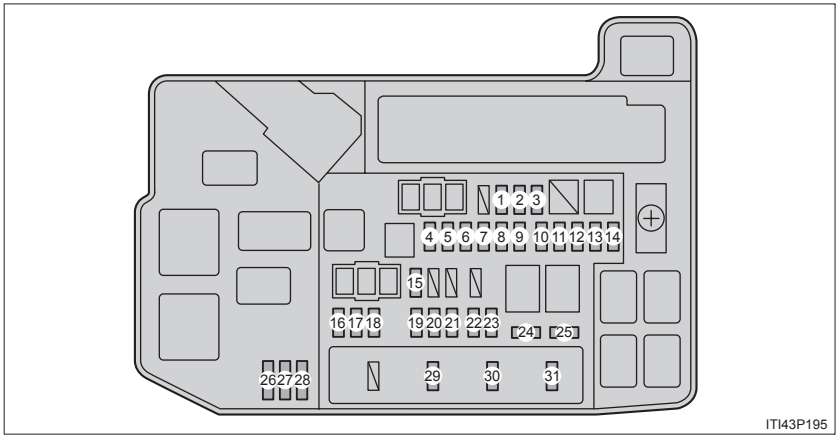
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

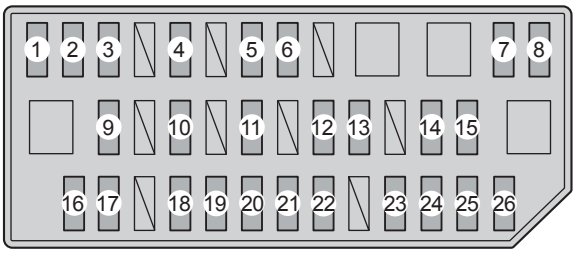
■ エンジンルーム



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	S-HORN	10 A	S-HORN
2	ENG W ／ P	30 A	冷却システム
3	ABS MAIN NO.2	7.5 A	ABS
4	AMP	30 A	オーディオ
5	IGCT	30 A	パワーコントロールユニット、始動系
6	DC ／ DC-S	5 A	インバーター＆コンバーター
7	P CON MAIN	7.5 A	P ポジション制御システム、トランスミッション
8	AM2	7.5 A	始動系
9	ECU-B2	7.5 A	スマートエントリー＆スタートシステム
10	MAYDAY	10 A	未使用
11	ECU-B3	10 A	エアコン
12	TURN & HAZ	10 A	方向指示灯
13	ETCS	10 A	燃料噴射システム
14	ABS MAIN NO.1	20 A	ABS

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	H-LP HI MAIN	20 A	ヘッドライトハイビーム
16	PCU	10 A	インバーター＆コンバーター
17	IGCT NO.2	10 A	ハイブリッドシステム、P 制御システム、インバーター＆コンバーター
18	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
19	RAD NO.1	15 A	オーディオ、ナビゲーションシステム
20	DOME	10 A	ドアカーテシライト、パーソナルライト、インテリアライト、足元照明、バニティライト、メーター
21	ECU-B	7.5 A	スマートエントリー＆スタートシステム、メインボデー ECU
22	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
23	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
24	EFI NO.2	10 A	燃料噴射システム
25	IGCT NO.3	10 A	冷却システム
26	SPARE	30 A	予備ヒューズ
27	SPARE	10 A	予備ヒューズ
28	SPARE	7.5 A	予備ヒューズ
29	EFI MAIN	20 A	燃料噴射システム
30	BATT FAN	10 A	冷却ファン
31	IG2	20 A	始動系、燃料噴射システム

■ 助手席足元



ITO43P196

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	CIG	15 A	アクセサリーソケット
2	ECU-ACC	10 A	メインボデー ECU、電動ミラー、オーディオ、ナビゲーションシステム
3	PWR OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
4	SEAT HTR FR	10 A	シートヒーター（運転席）
5	SEAT HTR FL	10 A	シートヒーター（助手席）
6	DOOR NO.1	25 A	パワードアロックシステム
7	DBL LOCK	25 A	未使用
8	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
9	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
10	RR FOG	7.5 A	リヤフォグライト
11	STOP	10 A	制動灯、非常点滅灯
12	P FR DOOR	25 A	パワーウインドウ（助手席）
13	D FR DOOR	25 A	パワーウインドウ（運転席）
14	DOOR RR	25 A	パワーウインドウ（リヤ席運転席側）
15	DOOR RL	25 A	パワーウインドウ（リヤ席助手席側）
16	ECU-IG NO.1	10 A	メインボデー ECU
17	ECU-IG NO.2	10 A	PCS、電動パワーステアリング、オーディオ、ナビゲーションシステム、ムーンルーフ、方向指示灯、非常点滅灯、ワイパー、ヘッドライトクリーナー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
18	GAUGE	10 A	自動光軸調整システム、助手席シートベルト非着用警告灯、メーター
19	A／C	10 A	エアコン、ソーラーベンチレーションシステム、リモートエアコンシステム
20	WASHER	15 A	ウォッシャー
21	RR WIP	20 A	リヤワイパー&ウォッシャー
22	WIP	30 A	ワイパー
23	MET	7.5 A	メーター
24	IGN	10 A	スマートエントリー&スタートシステム、SRSエアバッグ、燃料噴射システム
25	PANEL	10 A	エアコン、非常点滅灯、シートヒーター、P ポジションスイッチ、ナビゲーションシステム、ソーラーベンチレーションシステム、インテリジェントパーキングアシスト、ヘッドライトクリーナー、助手席シートベルト非着用警告灯、自動光軸調整システム、グローブボックスライト、時計、オーディオ
26	TAIL	10 A	自動光軸調整システム、車幅灯、尾灯、番号灯、リヤフォグライト、フロントフォグライト

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 366）

●取りかえても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

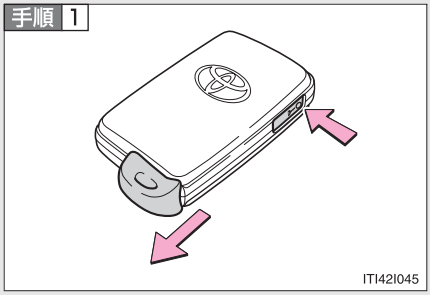
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池 CR1632

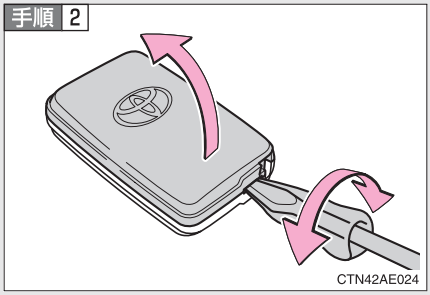
■ 電池交換のしかた

手順 1



メカニカルキーを抜く

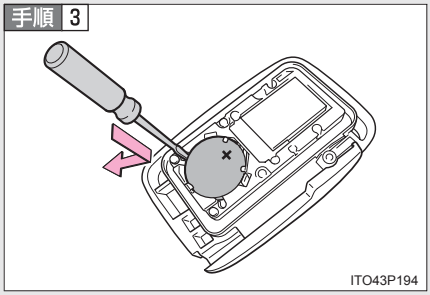
手順 2



カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3



消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、リモートエアコンシステム（装着車のみ）などが作動しない
- 作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

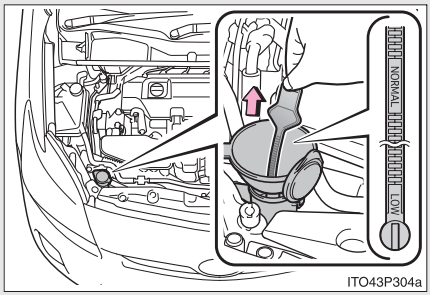
⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり、布きれをあててからはずしてください。
  カバーに傷が付くおそれがあります。

ウォッシャー液の補給



液面が LOW の位置に近付いたら、ウォッシャー液を補給してください

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが始動しているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

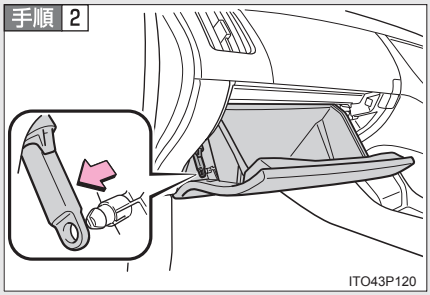
エアコンフィルターの清掃・交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

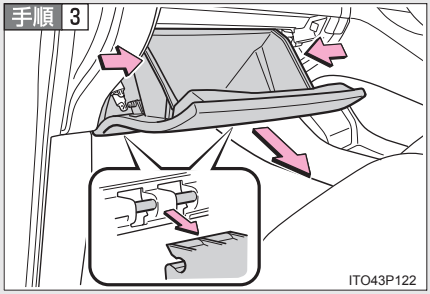
手順 1 “パワー”スイッチを OFF にする

手順 2



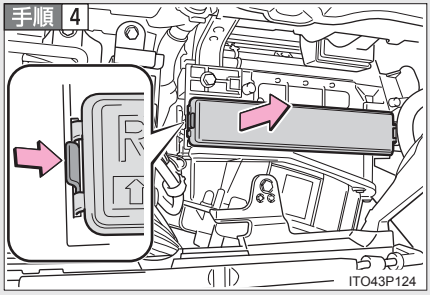
グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

手順 3



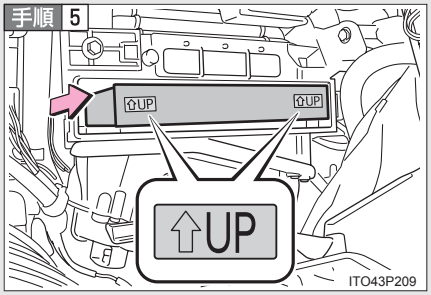
グローブボックスの側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

手順 4



フィルターカバーを取りはずす

手順 5



フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃、または交換してください。

▶ ソーラーベンチレーションシステム非装着車

清掃：15,000km [7,500km ※] ごと
交換：30,000km [15,000km ※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

▶ ソーラーベンチレーションシステム装着車

清掃：7,500km ごと
交換：15,000km ごと

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ ソーラーベンチレーションシステム装着車は

エアコンフィルターの清掃・交換作業前に、換気スイッチが OFF になっていることを確認してください。
換気スイッチが ON の状態で清掃・交換作業を行うと、作業中にエアコンが自動で作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら 5

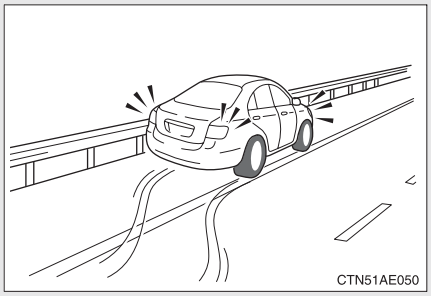
5-1. まず初めに

故障したときは 394
非常点滅灯 395
発炎筒 396
けん引について 398
イベントデータレコーダー 404

5-2. 緊急時の対処法

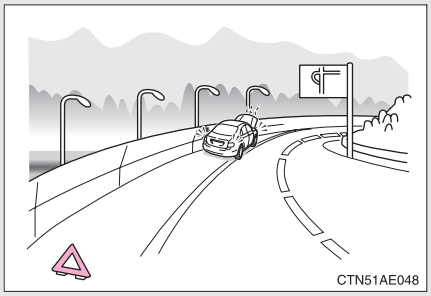
警告灯がついたときは 406
警告メッセージが表示されたときは 412
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 424
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 435
ハイブリッドシステムが始動できないときは 451
キーをなくしたときは 453
電子キーが正常に働かないときは 454
補機バッテリーがあがったときは 456
オーバーヒートしたときは 462
スタックしたときは 466
車両を緊急停止するには 467

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

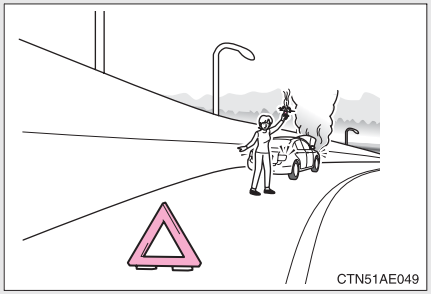


非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 395)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



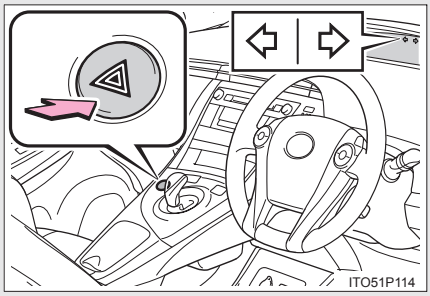
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)



緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 396)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

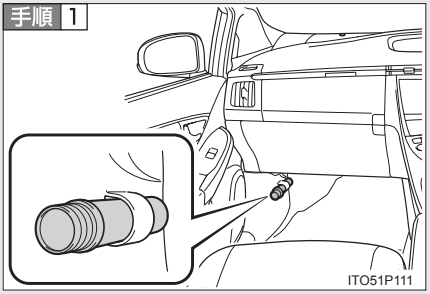
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムの停止中に、非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

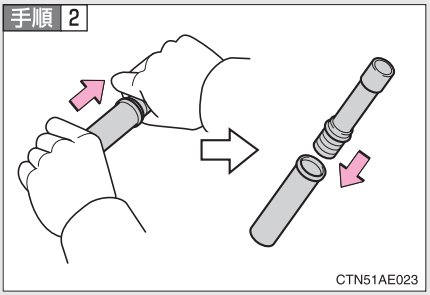
事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

手順 1



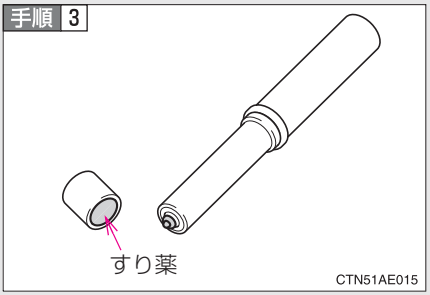
助手席足元の発炎筒を取り出す

手順 2



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

手順 3



先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

⚠ 警告

■発炎筒が使用できない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引する前に

次の場合は、けん引を行う前に、トヨタ販売店へご連絡ください。

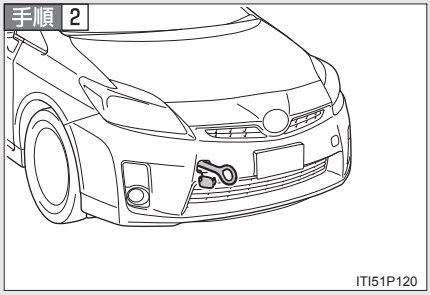
- ハイブリッドシステムは始動するが、車が動かない
- 異常な音がする
- P ポジション制御システムに異常があるとき
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき
- 補機バッテリーがあがったとき

Pポジション制御システム、および照合システムに異常があるとき、補機バッテリーがあがったときは、車両をけん引することはできません。（→P. 401）

■ けん引されるときは

手順 1 けん引フックを取り付ける（→P. 400）

手順 2

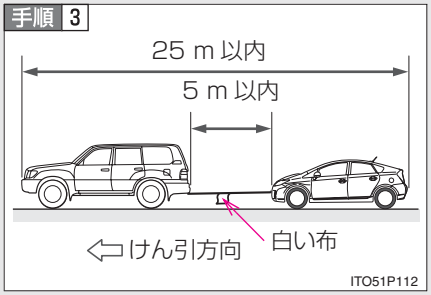


ITI51P120

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 3



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方(30 cm×30 cm)以上

手順 4 けん引される車両のハイブリッドシステムを始動する

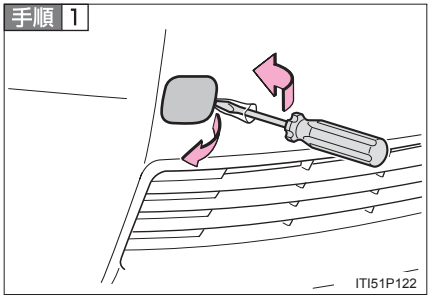
ハイブリッドシステムが始動しないときは、“ パワー ” スイッチを ON モードにしてください。

手順 5 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付け方

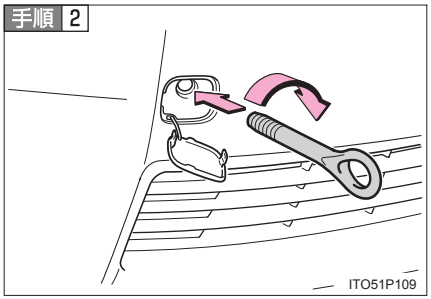
手順 1



マイナスドライバーを使ってフタをはずす

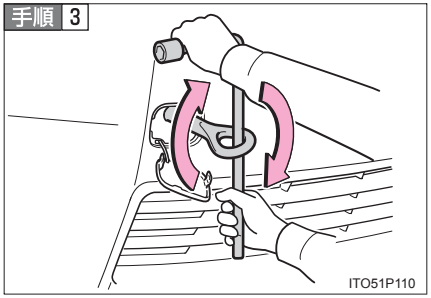
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

手順 2



けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

手順 3



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■P ポジション制御システム・照合システムに異常があるとき、補機バッテリーがあがったときは

パーキングロックにより、前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。その場合は、前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げて運搬してください。

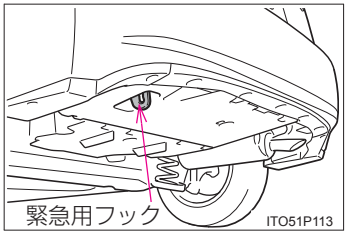
■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 424, 435

■緊急用フックについて



スタックして走行できなくなったときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうために使用します。
この車で他車をけん引することはできません。

⚠ 警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■事故などで車両を運搬するときは

車両前部の衝突などにより、エンジンルーム内で配線類が破損している可能性があります。けん引時は必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
前輪が接地した状態でけん引すると、モーターから電気が発電され、破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックがかかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  ハイブリッドシステムが停止していると、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下でけん引する
・けん引はレッカー車までの移動など、できるだけ短い距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- ガソリンエンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- ハイブリッド用トランスミッションのシフトポジション
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
 （赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1※2）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※1 **ブレーキ警告ブザー：**

ブレーキ油圧系統や電気系統などに異常が発生すると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	**充電警告灯** 充電系統の異常
	**高水温警告灯** ガソリンエンジン冷却水温の異常（→P. 462）

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	**エンジン警告灯** ・エンジン電子制御システムの異常 ・ハイブリッドシステムの異常 ・電子制御スロットルの異常
	**SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯** ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
 （黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・回生ブレーキシステムの異常
	**パワーステアリング警告灯** EPS の異常
 （点灯）	**スリップ表示灯** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。（→P. 226）
 （点滅）	**PCS 警告灯*** プリクラッシュセーフティシステムの異常 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→P. 233） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。（→P. 235） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。（→P. 415）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	**ヘッドライトオートレベリング警告灯*** 自動光軸調整システムの異常
 （点滅）	**クルーズコントロール表示灯*／定速制御モード表示灯*** クルーズコントロールシステム／レーダークルーズコントロールシステムの異常
 （点滅）	**車間制御モード表示灯*** レーダークルーズコントロールシステムの異常

知識

■パワーステアリング警告灯について

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

⚠警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。ハンドルを操作して通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	**半ドア警告灯（警告ブザー※1）** いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
 （点滅）	**燃料残量警告灯** 燃料の残量減 約６Ｌ以下になるとブザーが鳴り、燃料計の残量表示（いちばん下）が点滅します。	燃料を補給する
	**運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2）** 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2）** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	**マスターウォーニング** システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。	→P. 412

※1 **半ドア走行時警告ブザー：**

いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**

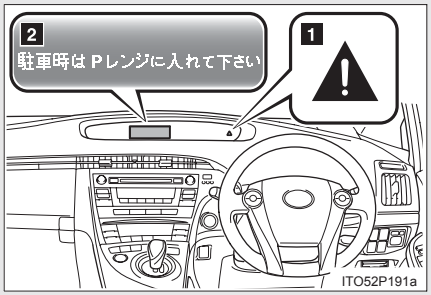
運転席・助手席シートベルトを非着用のまま、車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

警告内容が表示されます。
警告内容によっては対処方法が表示される場合があります。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

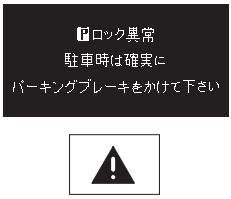
次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと、警告ブザーと共に表示されます。

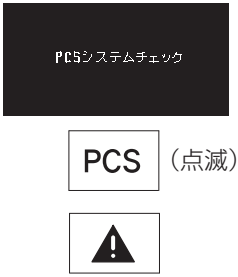
警告メッセージ	警告内容
	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
	**P ポジション制御システムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 ・この場合は、パーキングロック機構が働かない可能性があります。 駐車時は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。 ・P ポジション制御システムが故障すると、“パワー”スイッチを OFF にできなくなることがあります。 その場合は、パーキングブレーキをかけるとスイッチを OFF にすることができます。
 （点滅）	**LED ヘッドライトの異常※**

※ 装着車のみ

警告メッセージ	警告内容
	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）の異常※** 警告ブザーが鳴ります。
	**レーダークルーズコントロールシステムの異常※** 警告ブザーが鳴ります。 ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。
	**ナビ・ブレーキアシストの異常※** 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

※ 装着車のみ

知識

■P ポジション制御システムについて

→P. 142

ただちに処置してください。

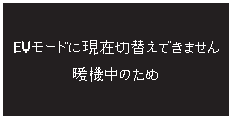
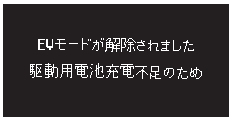
次の警告は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 	**センサー部の汚れ、またはシステムの過熱により、PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が現在機能していない※**	・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・プリクラッシュセーフティシステムが過熱している場合は、通常温度になるまで待つ
  （点滅） 	**レーダークルーズコントロールのセンサー部の汚れ、氷などの付着※** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
  （点滅） 	**レーダークルーズコントロールの車間制御の測定不可※** 警告ブザーが鳴ります。	システムが悪天候と判断したため、使用できません

※ 装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 （点滅）	**衝突の危険性がある（レーダークルーズコントロールの車間制御モード中）※** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
 PCS （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキが作動していることを示す※** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速するなどの回避操作を行う
	**ハイブリッドシステムの過熱** 警告ブザーが鳴ります。	車両を停車して点検する（→P. 462）
 （点滅）	**長時間シフトポジションがNになっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが断続して鳴り、途中から連続音にかわります。	シフトポジションがNの状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトポジションをPにする

※ 装着車のみ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
  （点滅）	**シフトポジションがP以外で運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	シフトポジションをＰにする
  （点滅）	**シフトポジションがNの状態でアクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。	アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをＤまたはＲにする
	**EV ドライブモードに切りかえできない状況にいる※** 警告ブザーが鳴ります。 2行目にEV ドライブモードを使用できない理由が表示されます。（表示されない場合もあります）	EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する
  （3 回点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された※** 警告ブザーが鳴ります。 2行目にEV ドライブモードを使用できない理由が表示されます。（表示されない場合もあります）	しばらく通常走行する

※ EV ドライブモードの作動条件については、P. 145 を参照してください。

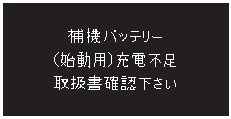
知識

■車間制御モード中の警告表示について（レーダークルーズコントロール装着車）

→P. 221

ただちに処置してください。

ハイブリッドシステム始動操作を行ったとき、次の警告が表示された場合は、警告メッセージの表示状態に従ってそれぞれ処置してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	**補機バッテリーが充電不足**	数秒後※に表示が消えたときは 約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
		表示が消えないときは 「補機バッテリーがあがったときは」(→P. 456) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

⚠ 注意

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんぱんに表示されるときは

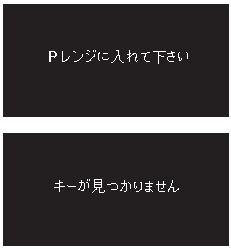
補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	  （点滅）	電子キーを携帯していない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした	電子キーを携帯する
1回	3回	  （点滅）	“パワー”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉され、同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトポジションがPの状態で“パワー”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“パワー”スイッチをOFFにするまたは電子キーを車内にもどす

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	連続音	  （交互に表示）  （点滅）	“パワー”スイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“パワー”スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1回	なし	  （点滅）	正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	  （点滅）	シフトポジションがP以外の状態で“パワー”スイッチをOFFにせずに運転席ドアを開いた	シフトポジションをPにする

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	連続音	 （交互に表示） （点滅）	シフトポジションがP以外の状態で、“パワー”スイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトポジションをPにする ・電子キーを車内に入れる
1回	連続音	 （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
			車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし	ブレーキを踏みながらキーでパワースイッチに触れて下さい （点滅）	メカニカルキーで解錠して“パワー”スイッチを押した際、車室内で電子キーを検出できなかった	ブレーキを踏みながら電子キーで“パワー”スイッチにふれる
			“パワー”スイッチを押したときに車室内で電子キーを検出できないことが2回連続で続いた	
1回	なし	始動時はPレンジに入れて下さい （点滅）	シフトポジションがNの状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている	シフトポジションをPにしてからハイブリッドシステムを始動させる
なし	なし	バッテリー保護の為、自動電源OFFしました	自動電源OFF機能が作動した	次回始動時に「補機バッテリー（始動用）充電不足」というメッセージが表示された場合はP. 418の記載に従って対処してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1回	なし		電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する (→P. 385)
1回	なし	 （点滅）	“パワー”スイッチがOFFの状態で運転席ドアを開閉してから、ハイブリッドシステムを始動せずに“パワー”スイッチをアクセサリーモードに2回以上した	始動時はブレーキペダルを踏んで“パワー”スイッチを押す
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法(→P. 454)によって、電子キーで“パワー”スイッチにふれた	ブザーが鳴ってから10秒以内に“パワー”スイッチを押す

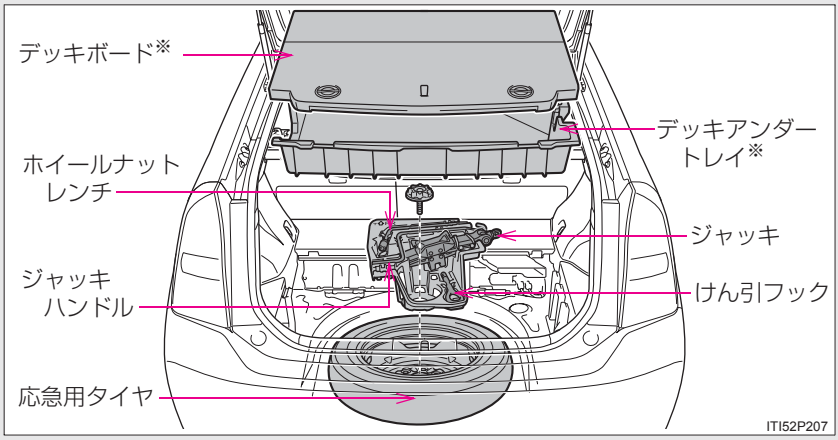
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 355 を参照してください）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキの搭載位置

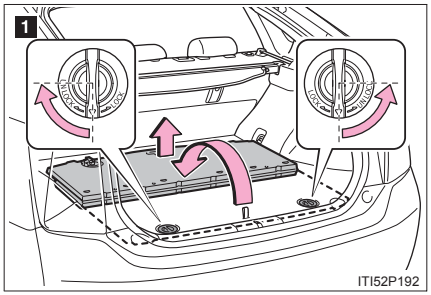


※車種により形状が異なります。

工具とジャッキの取り出し方

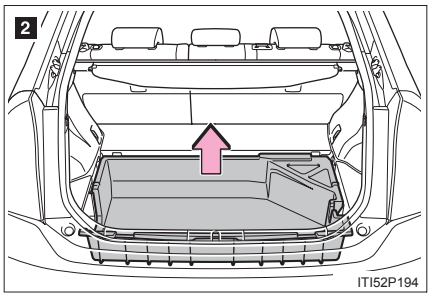
手順 1 デッキボードとデッキアンダートレイを車両から降ろす

▶ A タイプ



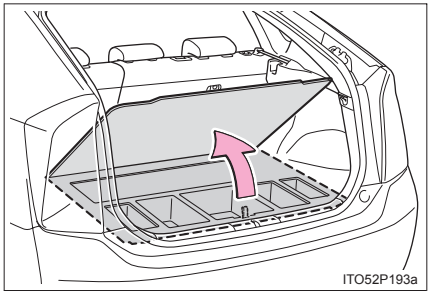
1 ダイヤルを UNLOCK 側にまわしてロックをはずし、デッキボードを取りはずす

車両前方に向かって折りたたみ、車両から降ろします



2 デッキアンダートレイを車両から降ろす

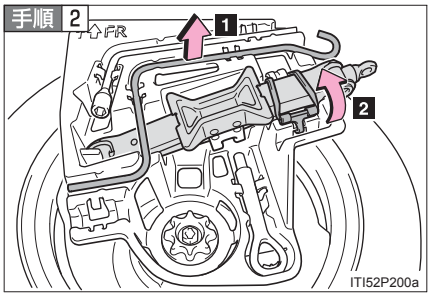
▶ B タイプ



デッキボードとデッキアンダートレイを取りはずす

ストラップを引き上げてデッキボードを開き、デッキアンダートレイを持ち上げて、デッキボードごと車両から降ろします。

（デッキボードとデッキアンダートレイは一体構造です）

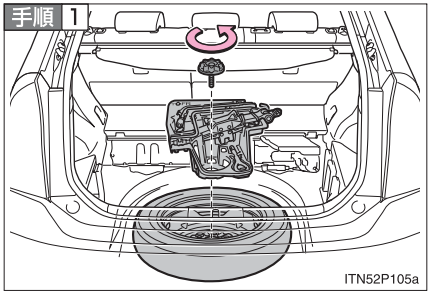


1 ジャッキハンドルを取りはずす

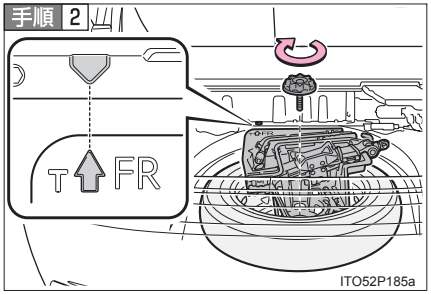
2 ゴムバンドをフックからはずし、ジャッキを取り出す

使用後はもとの位置にもどします。
また、ジャッキはゴムバンドで確実に固定してください。

応急用タイヤの取り出し方



留め具を取りはずし、ツールホルダーと応急用タイヤを取り出す



取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ツールホルダーの矢印と、車両側の三角マークを合わせて取り付けます。

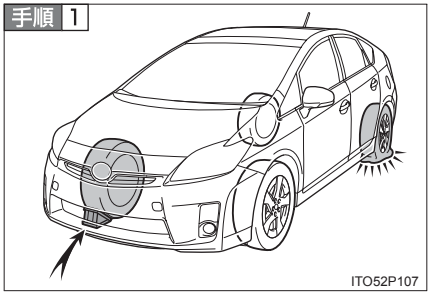
⚠ 警告

■ サービスプラグについて

ツールホルダーや応急用タイヤを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。（→P. 31）

パンクしたタイヤの交換

手順 1

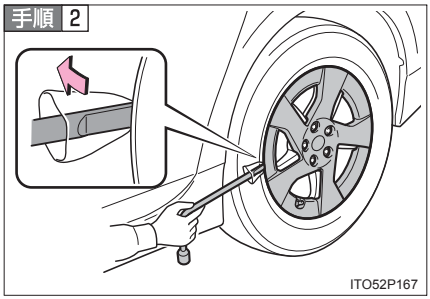


輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

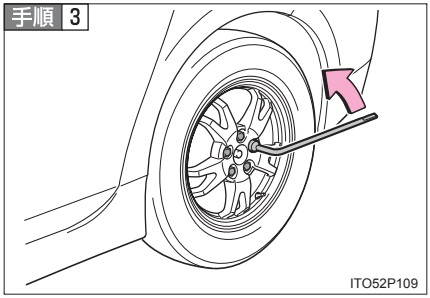
手順 2



ホイールキャップをはずす（装着車のみ）

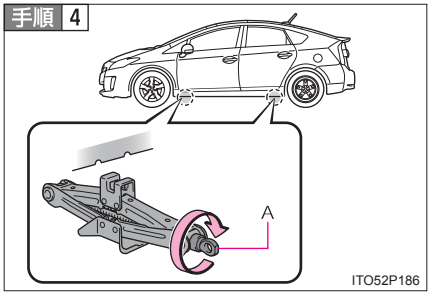
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

手順 3



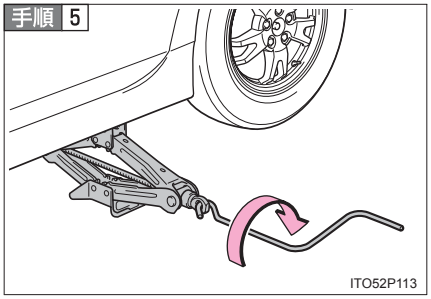
ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

手順 4



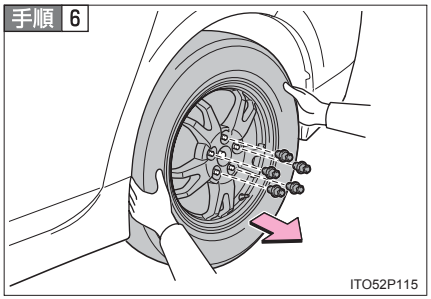
ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

手順 5



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

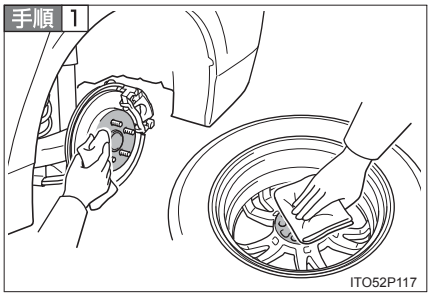
手順 6



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

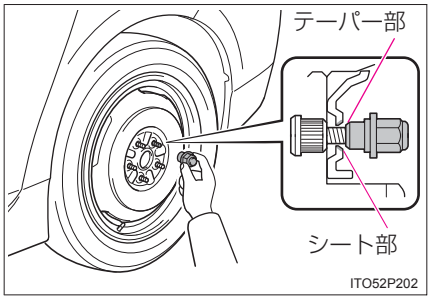


ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

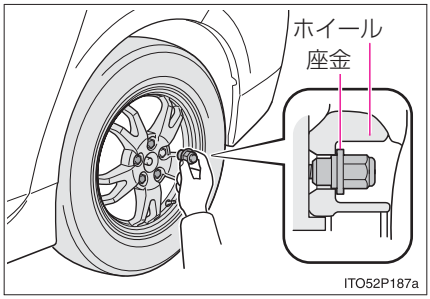
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき



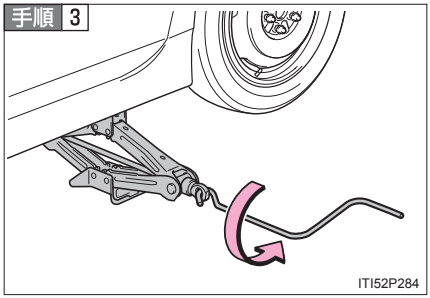
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき



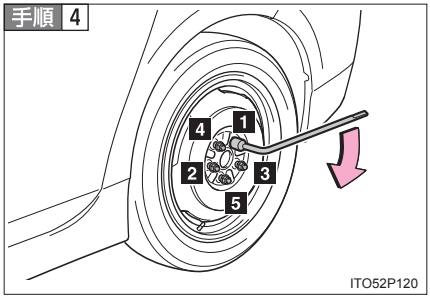
ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする

手順 3



車体を下げる

手順 4

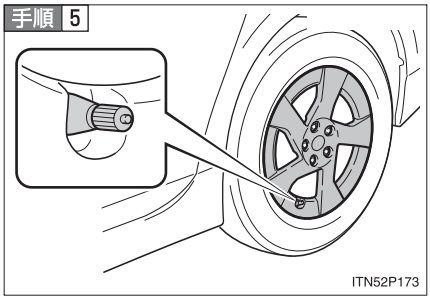


図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5



ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ (空気口) に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ 装着車のみ (応急用タイヤに取り付けることはできません)

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
  応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P. 473）

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
  （→P. 358）

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

⚠ 警告

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS &ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- クルーズコントロール*
- レーダークルーズコントロール*
- PCS *
- ナビゲーションシステム*
- バックガイドモニター*
- インテリジェントパーキングアシスト*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道・凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

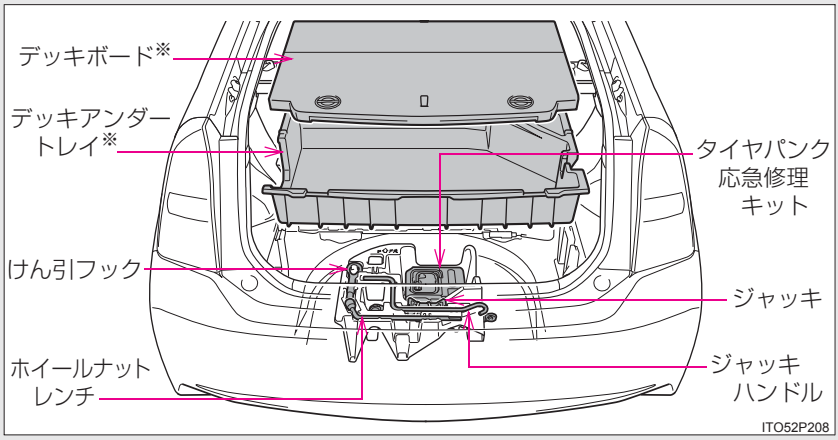
タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 応急修理する前に

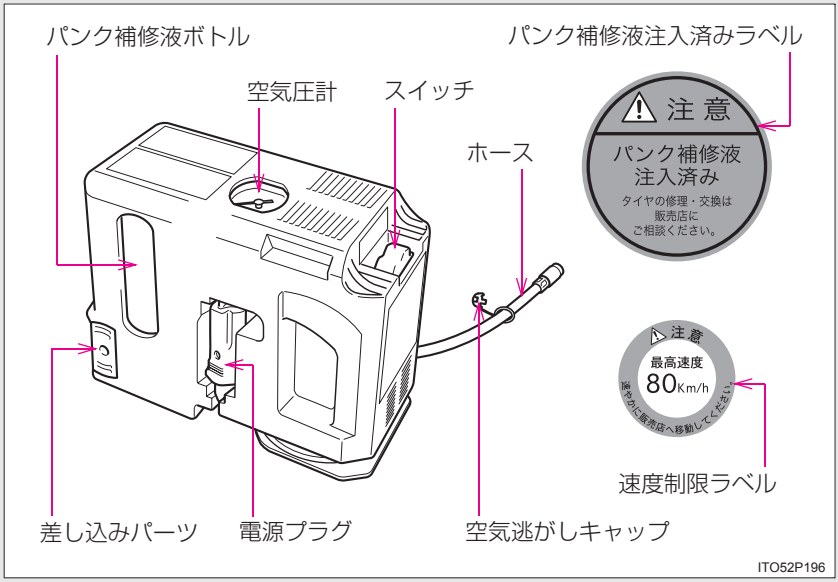
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



※ 車種により形状が異なります。

■ タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



知識

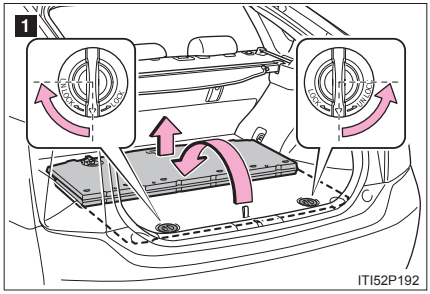
■ジャッキ・工具について

取り出し方や使用方法などは、応急用タイヤ装着車と同様です。（→P. 425）

応急修理キットの取り出し方

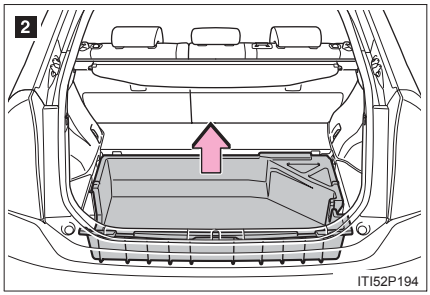
応急修理キットを取り出すときは、デッキボードとデッキアンダートレイを車両から降ろします。

▶ A タイプ



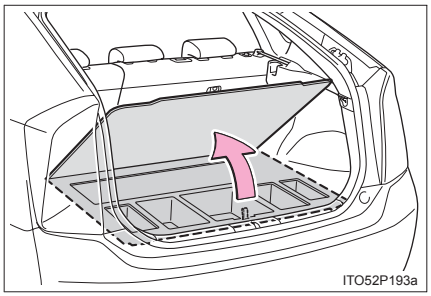
1 ダイヤルを UNLOCK 側にまわしてロックをはずし、デッキボードを取りはずす

車両前方に向かって折りたたみ、車両から降ろします。



2 デッキアンダートレイを車両から降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出す

▶ B タイプ



デッキボードとデッキアンダートレイを取りはずし、タイヤパンク応急修理キットを取り出す

ストラップを引き上げてデッキボードを開き、デッキアンダートレイを持ち上げて、デッキボードごと車両から降ろします。

（デッキボードとデッキアンダートレイは一体構造です）

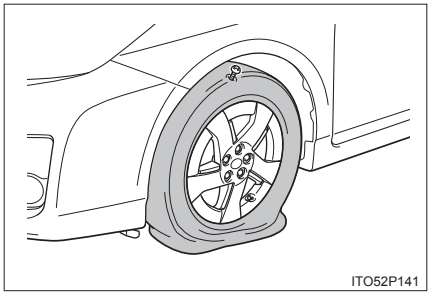
⚠ 警告

■ サービスプラグについて

タイヤパンク応急修理キットを車両から降ろすとき、または搭載するときは、サービスプラグにあたらないよう、ご注意ください。（→P. 31）

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤの損傷程度を確認してください。



釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

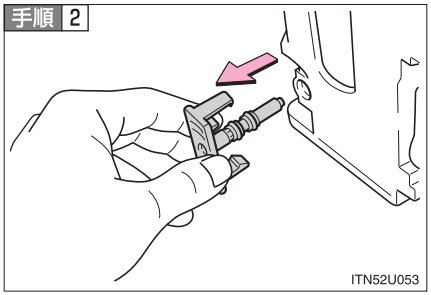
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

応急修理するときは

手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

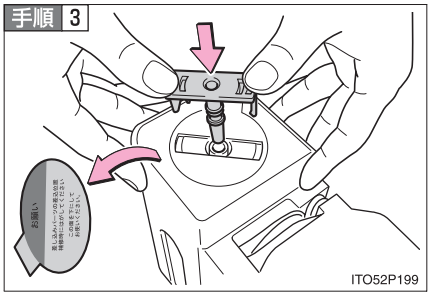
使用後もビニール袋に入れて収納します。

手順 2



応急修理キットから差し込みパーツを引き抜く

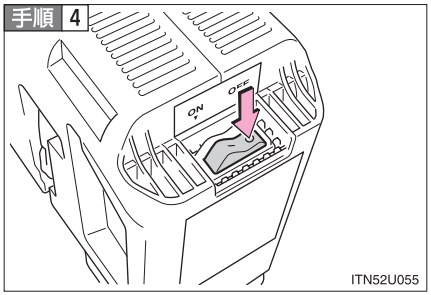
手順 3



応急修理キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込む

“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

手順 4

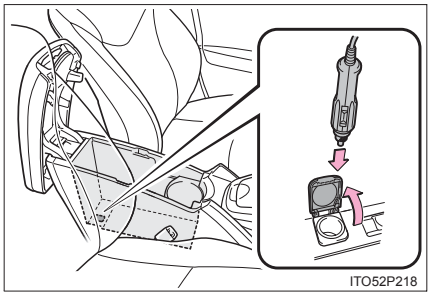


応急修理キットの向きをもとにもどし、スイッチが OFF であることを確認する

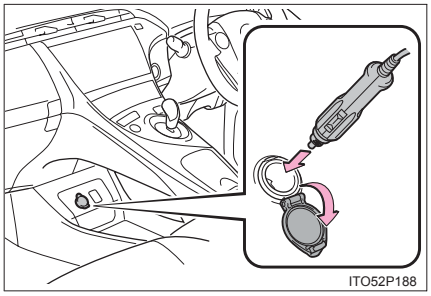
応急修理キットは、必ず立てて（スイッチがある面を上にして）ご使用ください。

手順 5 応急修理キットの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む

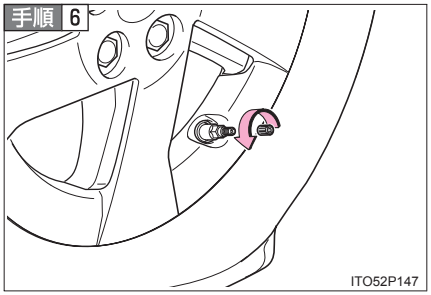
▶L グレードを除く



▶L グレード

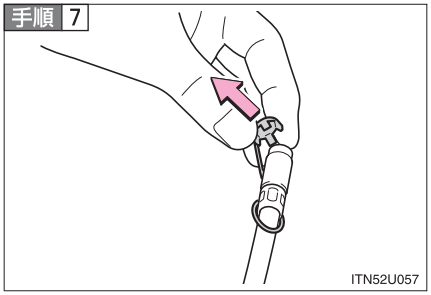


手順 6



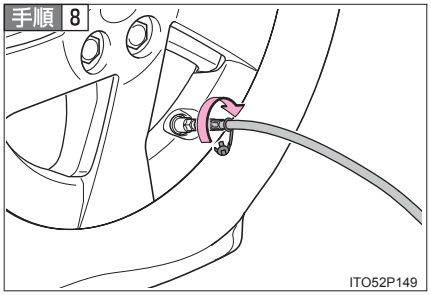
パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

手順 7



ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

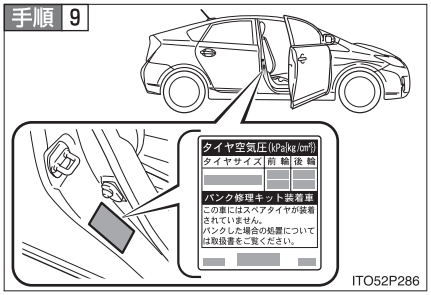
手順 8



ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

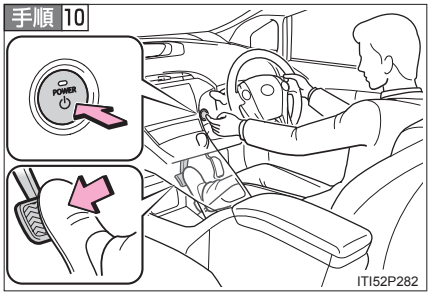
手順 9



タイヤの指定空気圧を確認する

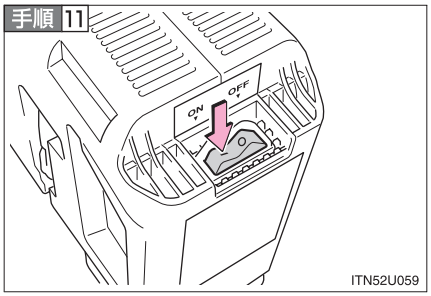
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 356)

手順 10



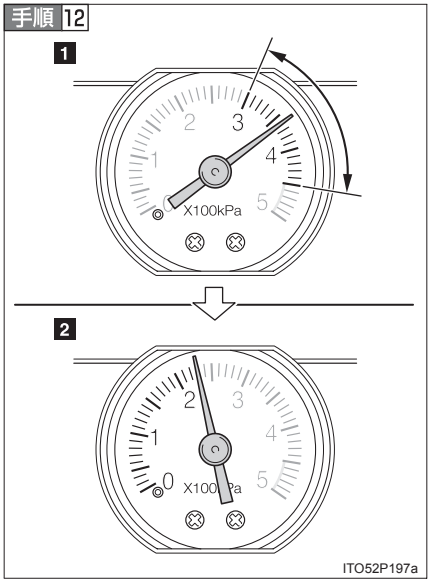
ハイブリッドシステムを始動する(→P. 138)

手順 11



応急修理キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

手順 12



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

1 スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300～450kPa まで上昇します。

2 1 分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填します。

- 空気圧は、応急修理キットのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。
- 空気圧計の針が赤いゾーン（450kPa 以上）に達した場合、タイヤまたは応急修理キットに異常がある可能性があります。ただちに修理を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
- 10分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 356, 446）

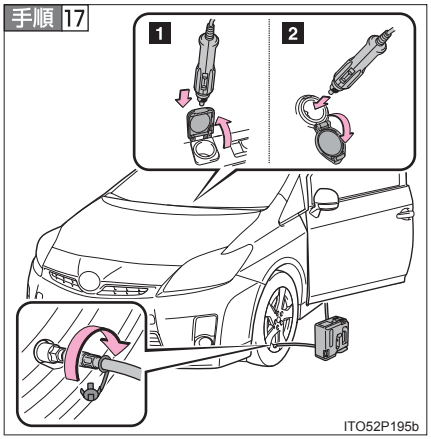
手順 13 応急修理キットのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブから応急修理キットのホースを取りはずす

手順 14 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

手順 15 いったん応急修理キットを収納する

手順 16 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

手順 17



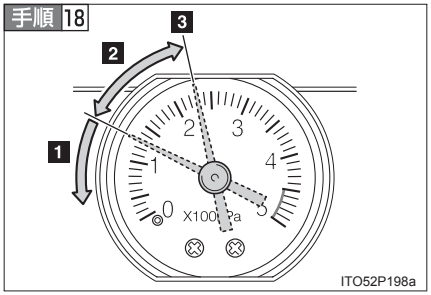
走行後、再度応急修理キットを接続する

1 L グレードを除く

2 L グレード

作業開始時と同様に、安全な場所に停車した上で行ってください。
(→P. 435)

手順 18



応急修理キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

1 空気圧が 130kPa 未満の場合:

応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

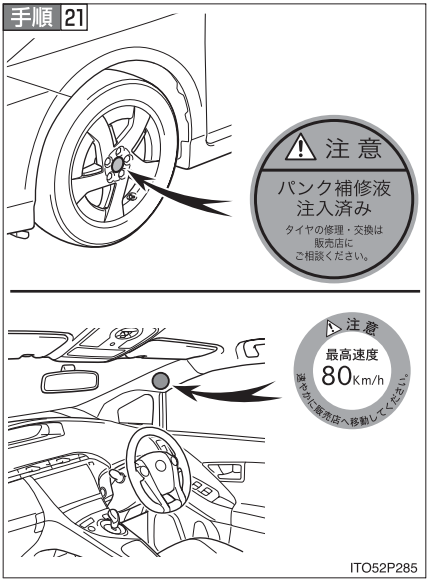
2 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合: 手順 19 へ

3 空気圧が指定空気圧の場合: 手順 20 へ

手順 19 応急修理キットのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて 手順 17 から実施する

手順 20 応急修理キットをビニール袋に入れて収納する

手順 21



付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h以下で慎重に運転してトヨタ販売店へ行きます。タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

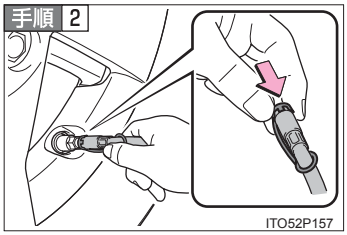
■応急修理キットについて

- ●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- ●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●タイヤ 1 本を 1 回、応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●外気温度が－30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。
- ●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- ●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- ●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- ●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす

手順 2



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 応急修理キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後の処置について

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し、修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっているため、手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液の注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ、大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを切り、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・再度、空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

⚠ 注意

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて、砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

正しいハイブリッドシステムの始動のしかた（→P. 138）に従っても、ハイブリッドシステムが始動できないときは、次のことをご確認ください。

■ 正規のキーを携帯しているのに、ハイブリッドシステムが始動できない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→P. 454）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→P. 93）
- P ポジション制御システムに異常がある可能性があります。※

※これらの場合は、シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 456）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 456）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “ パワー ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上 “ パワー ” スイッチを押し続ける

上記の手順に従い、ハイブリッドシステムが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

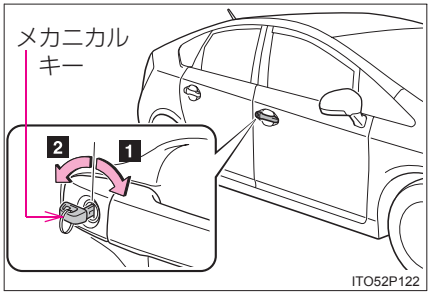
キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 39)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 54）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

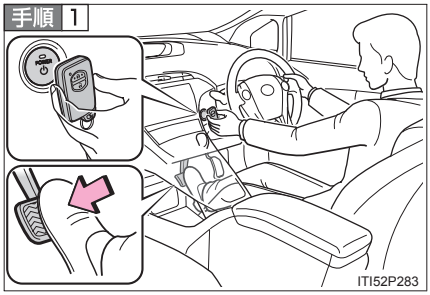


メカニカルキー（→P. 39）を使って操作します。

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切りかえ／ハイブリッドシステム始動の方法



ブレーキペダルを踏みながら電子キーのトヨタエンブレム面で“パワー”スイッチにふれる

ブザーが鳴ります。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが“パワー”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 2 次の操作を行う

モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“ パワー ”スイッチを押します。

“ パワー ”スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 139）

ハイブリッドシステム始動：

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで“ パワー ”スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にして“ パワー ”スイッチを押します。（→P. 140）

■電池交換について

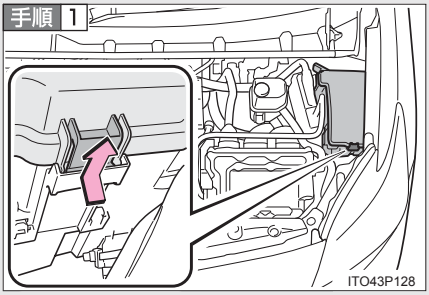
ここで説明しているハイブリッドシステム始動の方法は、一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 385）

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

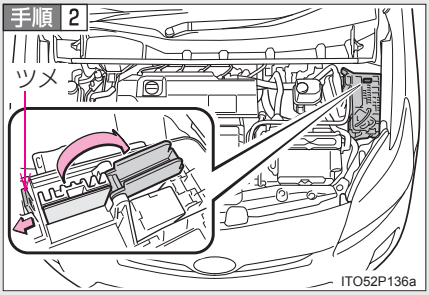
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

エンジンルーム内の救援用端子を使用して、応急的に補機バッテリーを充電します。補機バッテリーの端子に直接接続する必要はありません。



ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす

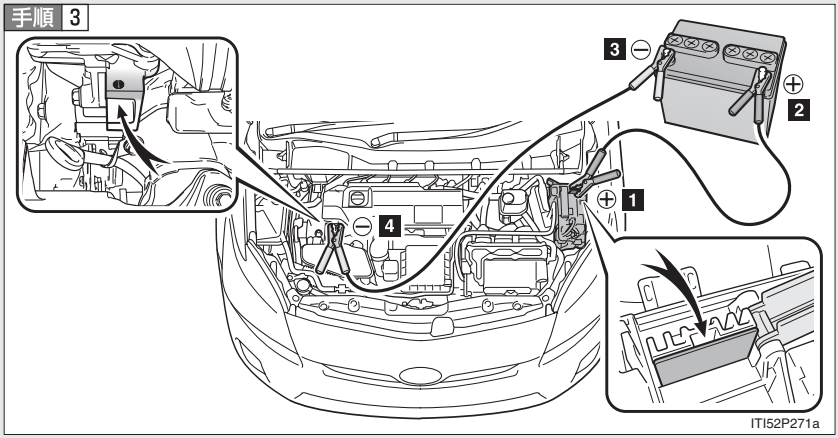
ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。



ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

手順 3



ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

手順 5 “ パワー ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ パワー ” スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

手順 7 READY インジケーターが点灯したことを確認する

点灯しない場合は、この手順でハイブリッドシステムを始動することができません。トヨタ販売店へご連絡ください。

手順 8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

手順 9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやエアコンなどを OFF にしてください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

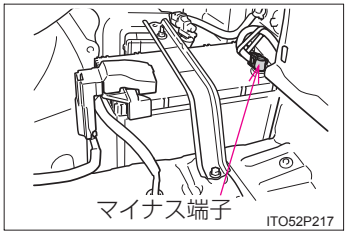
■補機バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーの搭載位置

→P. 361

■補機バッテリーのマイナス端子を脱着するときは



車体側のアース部分（マイナスケーブルの根元）ではなく、必ず補機バッテリー側の端子をはずしてください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項

●補機バッテリーあがりの処置をした直後は、スマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリーあがり処置後の、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“パワー”スイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、車両は補機バッテリーがあがる前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、“パワー”スイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前の“パワー”スイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●シフトポジションが P の状態で補機バッテリーがあがった場合は、P から他のシフトポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、パーキングロックにより前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させてから、すべてのシフトポジションへ切りかわることを、シフトポジションインジケーターで確認してください。

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“−”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤って補機バッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーの交換について

交換する場合は、プリウス専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火したりして爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないよう十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯が点滅または点灯：ガソリンエンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順に従って対処してください。

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する

蒸気が出ていない場合：

READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

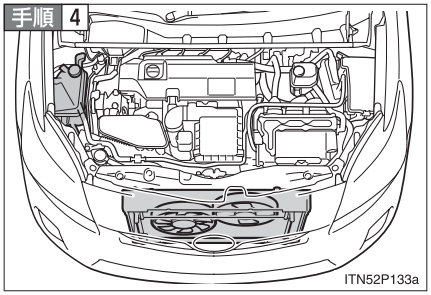
ファンが作動している場合：

高水温警告灯が消灯してから、ハイブリッドシステムを停止する

ファンが作動していない場合：

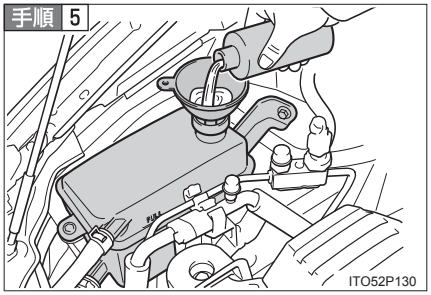
すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

手順 5



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 READY　インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

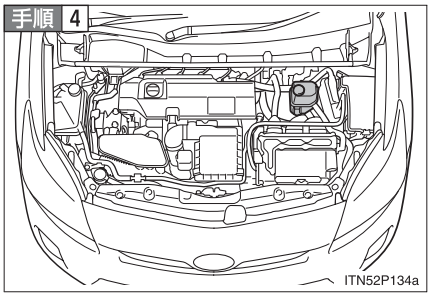
「ハイブリッドシステム過熱」が消えてから、ハイブリッドシステムを停止する

しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動していない場合：

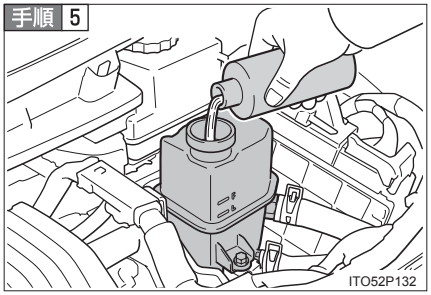
すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する

手順 4



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、パワーコントロールユニットの冷却水の量や冷却水もれを点検する

手順 5



パワーコントロールユニットの冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- 高水温警告灯が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」と表示された

⚠ 警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- “パワー”スイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。冷却ファンにふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬけがにつながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱いうちは、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する

手順 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

⚠ 警告

■脱出するときの警告

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、もの、または人との衝突を避けるため、周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ハイブリッド用トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

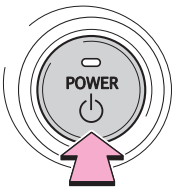
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



3 秒以上押す

ITI52P281

“パワー”スイッチを 3 秒以上押し続けてハイブリッドシステムを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

6-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）..... 470

6-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧..... 476

6-3. 初期設定
初期設定が必要な項目..... 479

メンテナンスデータ (油脂類の容量と銘柄など)

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	45

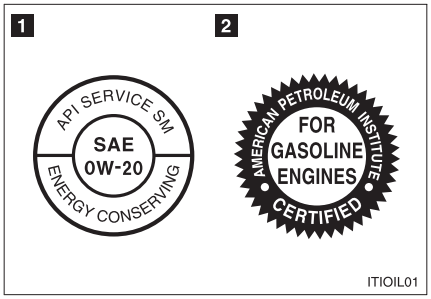
エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20 ※ （API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 （API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 （API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル　SL 5W-20 （API SL, EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル　SL 10W-30 （API SL, EC SAE 10W-30）	3.9	4.2

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

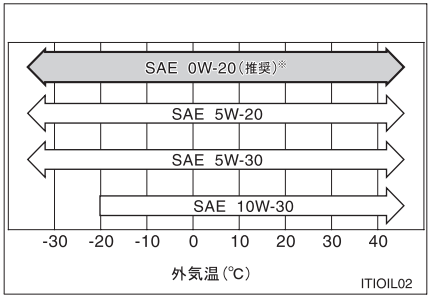


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の高さを示しています。粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリン エンジン	パワーコント ロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	7.2	2.1

ハイブリッド用トランスミッション

銘柄	容量 [L]（参考値※ 1）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.4

※ 1 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ 2	82

※ 2 “ パワー ” スイッチが ON モードのときに、196 N（20 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300 N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	8 ～ 11

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

車種	容量 [L]（参考値）
リヤワイパー装着車	4.5
リヤワイパー非装着車	2.0

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧　kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	185/65R15 88S	250 (2.5)	240 (2.4)
	195/65R15 91S	230 (2.3)	220 (2.2)
	215/45R17 87W		
応急用タイヤ*	T135/80D16 101M	420 (4.2)	

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム ・LED ヘッドライト装着車 ・ハロゲンヘッドライト装着車 （バルブタイプ：H11）	 60 LED※ 55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	LED※
	後退灯／リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	LED※
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルライト	5
	ルームライト	8
	ドアカーテシライト	5
	バニティライト（バニティミラー天井照明）	8
	シフトレバー照明	LED※
	足元照明*	LED※
	グローブボックスライト	LED※
	ラゲージルームライト	5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ZVW30	2ZR-FXE （1.8L ガソリン）	3JM	FF （前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくは、トヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム（→P. 42）	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限
ワイヤレスドアロック（→P. 55）	ワイヤレス機能	あり	なし
スマートエントリー&スタートシステム（→P. 42）とワイヤレスドアロック（→P. 55）共通	作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 7	レベル 1 ～ 6
			OFF
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	解錠後ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	約 30 秒	約 60 秒
			約 120 秒
	半ドア警告ブザー	あり	なし

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ライト自動点灯・消灯システム (→P. 198)	ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め
オートアラーム* (→P. 94)	メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし
イルミネーテッドエントリーシステム (→P. 315)	消灯までの時間	約 15 秒	約 7.5 秒
			約 30 秒
	“ パワー ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	解錠時の作動	あり	なし
	検知エリア接近時の作動	あり	なし
	足元照明の点灯*	あり	なし
	イルミネーション減光制御	あり	なし
メーター照明の自動調整	周囲の明るさにより、ディスプレイの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	レベル 0	レベル − 2 ～ +2
	周囲の明るさにより、減光したディスプレイの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	レベル 0	レベル − 2 ～ +2

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
リモートエアコンシステム* (→P. 282)	作動開始時のリモコンスイッチの操作	1 回押し続ける (約 0.8 秒)	1 回押し
			2 回押し
			1 回押し続ける (約 2.4 秒)
			非作動
	作動停止時のリモコンスイッチの操作	2 回押し	1 回押し
			1 回押し続ける (約 0.8 秒)
			1 回押し続ける (約 2.4 秒)
			非作動

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
バックガイドモニター*	・補機バッテリーの充電、交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
インテリジェントパーキングアシスト*		

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧..... 482

五十音順さくいん 483

症状別さくいん 496

ハイブリッドさくいん..... 499

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
EV	エレクトリックビークル
HUD	ヘッドアップディスプレイ
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール
S-VSC	ステアリングアシステッド ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

あ

アームレスト（リヤセンター
アームレスト）..... 337
アウターミラー（ドアミラー）..... 79
アクセサリーソケット..... 332
アクティブヘッドレスト..... 65
アシストグリップ..... 336
足元照明..... 314
アッパーグローブボックス..... 321
アンチロックブレーキ
システム（ABS）..... 225
アンテナ..... 313

い

ETC カード
カードについて..... 247
挿入のしかた..... 248
取り出し方..... 250
ETC システム
ETC カード..... 247
ETC システムについて..... 241
ETC ユニット..... 244
統一エラーコード一覧..... 257
利用履歴の確認..... 255
ETC ユニット
音量調整..... 256
各部の名称..... 244
装着位置..... 244
統一エラーコードの確認..... 256
ランプ表示と通知音..... 252
EPS（エレクトリック
パワーステアリング）..... 226
EV ドライブモード..... 144
イグニッションスイッチ..... 138
1 分間燃費..... 176
イベントデータ
レコーダー（EDR）..... 404
イモビライザーシステム..... 93
イルミネーテッド
エントリーシステム
カスタマイズ機能..... 477
作動について..... 315
点灯する部位..... 314
インジケーター
ハイブリッドシステム
インジケーター..... 172
表示灯..... 162
READY..... 138, 162
インナーミラー（ルームミラー）... 78

う

ウインカー（方向指示灯）
電球の交換..... 373, 374
方向指示レバー..... 155
ワット数..... 474
ウインドウ
ウォッシャー..... 206, 207
パワーウインドウ..... 81
リヤウインドウ
デフォッガー..... 286
ウインドウロックスイッチ..... 81
ウェルカム表示..... 167
ウォーニングライト
（警告灯）..... 163, 406
ウォッシャー
液の補給..... 388
スイッチ..... 206, 207
タンク容量..... 473
冬の前の準備・点検..... 262
運転
寒冷時の運転..... 262
正しい姿勢..... 97
手順..... 126
ハイブリッド車運転の
アドバイス..... 34

運転席シートベルト
非着用警告灯 410

え

エアコン
オートエアコン 268
ステアリングスイッチ 277
ソーラーベンチレーション
システム 279
フィルターの清掃・交換 389
リモートエアコンシステム 282
エアコンコンプレッサー 26
エアバッグ
一般的な警告 104
SRS エアバッグ 99
お子さまのための注意 104
カーテンシールドエアバッグに
関する警告 105
カーテンシールドエアバッグの
作動条件 100
改造・廃棄について 107
警告灯 408
サイドエアバッグに
関する警告 106
サイドエアバッグの
作動条件 100
正しい姿勢 97
配置 99
フロント SRS エアバッグの
作動条件 100
ABS（アンチロック
ブレーキシステム） 225
AUX 端子 308
エコドライブインジケーター
ランプ 172, 175
エコドライブモード 149
エコドライブモニター
（マルチインフォメーション
ディスプレイ） 34, 164
S-VSC（ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール） 225
エネルギーモニター 169
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS） 226
エレクトロニックトール
コレクションシステム
ETC カード 247
ETC システムについて 241
ETC ユニット 244
音量調整 256
統一エラーコード一覧 257
利用履歴の確認 255
エンジン
イグニッション
スイッチ 138
エンジンがかからない 451
エンジン警告灯 408
エンジン スイッチ 138
オーバーヒート 462
計器類 158
ハイブリッドシステムの
始動方法 138
パワースイッチ 138
ボンネット 360
エンジンオイル
冬の前の準備・点検 262
容量 470
エンジンスイッチ 138

お
オイル
油脂類の容量と銘柄 470
応急修理（タイヤパンク応急修理キット）..... 435
応急用タイヤ（スペアタイヤ）
空気圧..... 473
取り出し方..... 426
オーディオ
アンテナ..... 313
AUX 端子 308
MP3 ／ WMA ディスクの再生..... 299
オーディオインデックス..... 288
音質・音量バランスの調整.... 306
CD プレーヤー..... 293
ステアリングスイッチ..... 310
ラジオ..... 290
オートアラーム..... 94
オートエアコン..... 268
オートレベリングシステム
作動について..... 201
ヘッドライトオートレベリング警告灯..... 409
オーバーヒート..... 462
オーバーヘッドコンソールボックス..... 324
オープナー
給油口..... 89
バックドア..... 44
ボンネット..... 360
オープントレイ..... 328

お子さまの安全のために
ウインドウロックスイッチ 81
エアバッグに関する警告 104
お子さまのシートベルト着用 74
お子さまを乗せるときの警告 59, 63, 69
キーの電池に関する警告 387
シートヒーターに関する警告.....335
シートベルトに関する警告 75
ソーラーベンチレーションシステムに関する警告 280
タイヤパンク応急修理キットに関する警告.....450
チャイルドシート.....108
チャイルドシートの固定.....117
チャイルドプロテクター 58
トノカバーに関する警告 344
発炎筒の取り扱いに関する警告.....397
バックドアに関する警告 63
パワーウインドウに関する警告.....83
補機バッテリーに関する警告.....460
ムーンルーフに関する警告 87
リモートエアコンシステムに関する警告.....284
オドメーター（積算距離計）.....181

か
カーテンシールドエアバッグ.....99
カードホルダー.....329
外気温表示.....268, 275
回生ブレーキ.....23

カスタマイズ機能 476
ガソリンスタンドでの情報 500
カップホルダー 325
ガレージジャッキ 363
換気（ソーラーベンチレーション
システム） 279
寒冷時の運転 262

き
キー
キーナンバープレート 39, 40
キーの構成 39
キーレスエントリー 42, 55
キーをなくした 453
作動範囲 46
正常に働かない 454
電子キー 39
電子キーの電池が切れた 454
電池交換 385
メカニカルキー 39, 454
ワイヤレスリモコン 55
きしみやひっかき音が聞こえる
（ブレーキパッドウェア
インジケーター） 132
救援用端子 456
給油口 89
緊急時の対処
イベントデータレコーダー 404
オーバーヒートした 462
キーの電池が切れた 454
キーをなくした 453
緊急停止システム 27
緊急ブレーキシグナル 232
緊急用フック 401
警告灯がついた 406
警告メッセージが
表示された 412
けん引 398
故障したときは 394
シフトポジションが
切りかえられない 148
車両を緊急停止する 467
スタックした 466
電子キーが正常に働かない 454
発炎筒 396
ハイブリッドシステムが
始動できない 451
パンクした 424, 435
非常点滅灯 395
補機バッテリーがあがった 456

く
空気圧（タイヤ） 473
空調（エアコン）
オートエアコン 268
ソーラーベンチレーション
システム 279
フィルターの清掃・交換 389
リモートエアコンシステム 282
区間距離計
（トリップメーター） 181
駆動用電池 26
駆動用電池冷却用吸入口 27
曇り取り
フロントガラス 271
リヤウインドウ
デフォッガー 286
クルーズコントロール
クルーズコントロール 210
レーダークルーズ
コントロール 214
グローブボックス 321

け
警音器（ホーン）..... 157
計器類（メーター）
エコドライブモニター....34, 164
ヘッドアップディスプレイ.... 188
メーター..... 158
警告灯（ウォーニングライト）
運転席シートベルト非着用....410
ABS &ブレーキアシスト..... 408
SRS エアバッグ..... 408
エンジン..... 408
高水温..... 407
充電 407
助手席シートベルト非着用....410
電子制御ブレーキ 408
ヘッドライト
オートレベリング..... 409
燃料残量..... 410
パワーステアリング 408
半ドア..... 410
PCS 408
プリテンショナー 408
ブレーキ..... 406
マスターウォーニング..... 410
警告ブザー
運転席・助手席シートベルト
非着用..... 410
シフトポジション
切りかえ制限 151
スマートエントリー&
スタートシステム.....51, 419
パーキングブレーキ
未解除走行時 406
半ドア..... 47
半ドア走行時..... 410
ブレーキ..... 406
ムーンルーフ閉め忘れ..... 86
リバース..... 151
警告メッセージ
EV ドライブモード.....417
LED ヘッドライト 413
エンジンオイル圧力.....412
駆動用電池残量.....416
自動電源 OFF 機能.....422
シフト
ポジション.....417, 421, 422
スマートエントリー&
スタートシステム..419 ～ 423
電子キー .....419 ～ 423
ナビ・ブレーキアシスト 414
ハイブリッド
システム 413, 416
PCS.....414, 415, 416
P ポジション制御システム 413
補機バッテリー充電不足 418
レーダークルーズ
コントロール...414, 415, 416
化粧用（バニティ）ミラー.....331
けん引.....398

こ
交換
エアコンフィルター.....389
キーの電池 385
タイヤ 424
電球.....366
ヒューズ 378
工具（ツール）.....424, 435
航続可能距離.....182
後退灯（バックアップライト）
電球の交換 374
ワット数 474
高電圧ケーブル 26
コーションラベル 26
コートフック.....336

子供専用シート..... 108, 117
5 分間燃費 176
コンソール
オーバーヘッド
コンソールボックス..... 324
コンソールボックス 322, 323
フロントコンソールトレイ.... 328
フロントコンソール
前ポケット 328
コンライト（自動点灯・消灯装置）
カスタマイズ機能 477
ライトスイッチ 198

さ
サービスプラグ.....26, 31
サイドエアバッグ..... 99
サイド方向指示灯（ウインカー）
電球の交換..... 376
方向指示レバー 155
ワット数..... 474
サンシェード 85
サンバイザー 330

し
シート
子供専用シート 108
正しい姿勢..... 97
チャイルドシートの固定..... 117
手入れ..... 352
ヒーター..... 334
フロントシートの調整..... 65
フロントシートの調整に
関する警告 66
ヘッドレスト..... 70
リヤシートの操作 67
リヤシートの操作に関する
警告..... 69
シートヒーター..... 334
シートベルト
お子さまの着用..... 74
緊急時シートベルト
固定機構 74
シートベルト非着用
警告灯 410
シートベルト
プリテンショナー..... 73
清掃・手入れ 353
高さの調節 72
正しい着用 72
チャイルドシートの固定..... 117
妊娠中の方の着用..... 74
プリクラッシュ
シートベルト..... 73, 234
事故が発生したときは..... 32
室内灯
フロントパーソナル
ライト 316, 317
ルームライト 318
ワット数 474
自動 P ポジション
切りかえ機能 151
シフトポジション
インジケーター..... 158
切りかえ方 147
走行モード 149
P ポジションスイッチ 150
シフトレバー..... 147
シフトレバー照明 314
車速
スピードメーター..... 158
平均車速 172
ジャッキ
ガレージジャッキ..... 363
車載ジャッキ 424

ジャッキハンドル.....424
車幅灯
電球の交換.....372
ライトスイッチ.....198
ワット数.....474
車両型式.....475
車両仕様（スペック）.....470
収納装備.....319
手動光軸調整ダイヤル.....200
初期設定.....479
助手席シートベルト
非着用警告灯.....410

す

スイッチ
EV ドライブモード.....144
イグニッション.....138
ウインドウロック.....81
エコドライブモード.....149
エンジン.....138
換気.....279
クルーズコントロール.....210
シートヒーター.....334
車間距離切りかえ.....214
ステアリング.....165, 277, 310
ドアミラー.....79
ドアロック.....57
時計.....183
パワー.....138
パワーウインドウ.....81
パワーモード.....149
P ポジション.....150
非常点滅灯.....395
フォグライト.....203, 204, 205
プリクラッシュブレーキ.....235
フロントワイパー
デアイサー.....287
ヘッドアップディスプレイ.....188
ヘッドライトクリーナー.....209
メーター照度調整.....159
ライト.....198
リモートエアコン.....282
リヤウインドウ
デフォッガー.....286
レーダークルーズ
コントロール.....214
ワイパー&
ウォッシャー.....206, 207
スターター
ハイブリッドシステムが
始動できない.....451
ハイブリッドシステムの
始動.....138
スタック
スタックした.....466
ステアリングアシステッド
ビークルスタビリティ
コントロール（S-VSC）.....225
ステアリングスイッチ
エアコンの操作.....277
エコドライブモニターの
操作.....165
オーディオの操作.....310
タッチトレーサー
ディスプレイ.....159, 165
ステアリングホイール（ハンドル）
調整.....77
パワーステアリング警告灯.....408
ストップライト（制動灯）
電球の交換.....376
ワット数.....474
スピードメーター（速度計）.....158

スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 473
収納場所 424
取り出し方 426
スペック（車両仕様） 470
スマートエントリー&
スタートシステム
カスタマイズ機能 476
警告 51, 419
作動範囲 46
正常に働かない 454
節電機能 47
ドアの解錠・施錠 43
ハイブリッドシステムの
始動 138

せ
清掃
外装 348
シートベルト 353
内装 352
制動灯（ストップライト）
電球の交換 376
ワット数 474
積算距離計（オドメーター） 181
節電機能 47
洗車 348
前照灯（ヘッドライト）
オートレベリングシステム 201
手動光軸調整ダイヤル 200
スイッチ 198
電球の交換 367, 369
ヘッドライト
オートレベリング警告灯 409
ヘッドライトクリーナー 209
ライト消し忘れ防止機能 201
ライトセンサー 201
ワット数 474

そ
走行距離 182
走行モード
EV ドライブモード 144
エコドライブモード 149
パワーモード 149
ソーラーパネル付
ムーンルーフ 84
ソーラーベンチレーション
システム（換気） 279
速度計（スピードメーター） 158

た
ターンシグナルライト（方向指示灯）
電球の交換 373, 374
方向指示レバー 155
ワット数 474
タイヤ
応急用タイヤ 424
空気圧 473
交換 427
タイヤパンク
応急修理キット 435
チェーン 263, 265
点検 355
パンクした 424, 435
冬用タイヤ 262
ローテーション 355
タッチトレーサー
ディスプレイ 159, 165

ち
チェーン
（タイヤチェーン） 263, 265
チャイルドシート
ISOFIX バーでの固定 119
シートベルトでの固定 118
選択 108

チャイルドプロテクター 58
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ） 156

つ ツール（工具） 424, 435

て TRC（トラクション
コントロール） 225
DC ／ DC コンバーター 26
ディスプレイ
エコドライブモニター 164
タッチトレーサー
ディスプレイ 159, 165
ヘッドアップディスプレイ 188
マルチインフォメーション
ディスプレイ 164, 412
手入れ
外装 348
シートベルト 353
内装 352
テールライト（尾灯）
スイッチ 198
電球の交換 376
ワット数 474
デッキアンダートレイ 342
デッキサイドボックス 340
デッキフック 340
デッキボード 341
デフォッガー
フロントガラス 271
リヤウインドウ
デフォッガー 286
電気モーター 26
電球（バルブ）
交換 366
ワット数 474
点検・部品交換 360
電子キー
作動範囲 46
正常に働かないとき 454
節電機能 47
電池が切れた 454
電池交換 385

と ドア
ドアカーテシライト 318
ドアガラス 81
ドアミラー 79
ドアロック 42, 55, 57, 454
ドアガラス 81
ドアミラー（アウターミラー） 79
盗難防止システム
イモビライザーシステム 93
オートアラーム 94
時計 183
トップテザーアンカー 117
トノカバー 342
トラクション
コントロール（TRC） 225
トランスミッション 147
トリップ燃費履歴 179
トリップメーター
（区間距離計） 181
トレイ
前方トレイ 322
中段トレイ 309, 322
デッキアンダートレイ 342
フロントコンソールトレイ 328

な ナビ・ブレーキアシスト 225

に 荷物
積むときの注意 260
ラゲージルーム内装備 340

ね 燃費
1 分間燃費 176
5 分間燃費 176
トリップ燃費履歴 179
平均燃費 172, 177
燃料
ガソリンスタンドでの情報 500
給油 89
種類 470
燃料計 158
燃料残量警告灯 410
容量 470

は パーキングブレーキ（駐車ブレーキ） 156
パーソナルライト
スイッチ 316, 317
ワット数 474
ハイブリッドシステム
運転のアドバイス 34
オーバーヒート 462
計器類 158
始動できないときは 451
始動方法 138
ハイブリッドシステムについて 22
パワースイッチ 138
ボンネット 360
ハイブリッドシステムインジケーター 172
ハイマウントストップライト
電球の交換 376
ワット数 474
ハザードライト（非常点滅灯）
スイッチ 395
電球の交換 373, 374
ワット数 474
挟み込み防止機能
ドアガラス 82
ムーンルーフ 85
発炎筒 396
バックアップライト（後退灯）
電球の交換 374
ワット数 474
バックドア 60
バッテリー
冬の前の準備・点検 263
補機バッテリーあがりを防ぐために 458
補機バッテリーがあがった 456
バニティ（化粧用）ミラー 331
バニティミラー天井照明
作動について 331
ワット数 474
バルブ（電球）
交換 366
ワット数 474
パワーウインドウ 81
パワーコントロールユニット 26
パワースイッチ 138
パワーモード 149
パンクした
応急用タイヤ装着車 424
タイヤパンク応急修理キット装着車 435

番号灯（ランセンスプレートライト）
スイッチ……198
電球の交換……375
ワット数……474
ハンドル（ステアリングホイール）
調整……77
パワーステアリング警告灯……408

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）……225
PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム）……233
ヒーター
オートエアコン……268
シートヒーター……334
ミラーヒーター……286
P ポジションスイッチ……150
非常点滅灯（ハザードライト）
スイッチ……395
電球の交換……373, 374
ワット数……474
尾灯（テールライト）
スイッチ……198
電球の交換……376
ワット数……474
ヒューズ……378
表示灯……161
ヒルスタートアシスト
コントロール……230

ふ

VSC（ビークルスタビリティ
コントロール）……225
フォグライト
スイッチ……203, 204, 205
電球の交換……370, 374
ワット数……474
フック
けん引フック……398
コートフック……336
デッキフック……340
冬用タイヤ……262
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS）……233
ブレーキ
回生ブレーキ……23
電子制御ブレーキ警告灯……408
パーキングブレーキ……156
ブレーキ警告灯……406
メンテナンスデータ……472
ブレーキアシスト……225
ブレーキパッドウェア
インジケーター……132
フロアマット……338
フロントコンソールトレイ……328
フロントコンソール
前ポケット……328
フロントシート……65
フロントパーソナルライト
スイッチ……316, 317
ワット数……474
フロントフォグライト
スイッチ……203, 205
電球の交換……370
ワット数……474
フロント方向指示灯（ウインカー）
電球の交換……373
方向指示レバー……155
ワット数……474
フロントワイパーデアイサー……287

へ
平均車速 172, 177
平均燃費 172, 177
ヘッドアップディスプレイ 188
ヘッドライト（前照灯）
オートレベリングシステム 201
クリーナー 209
コンライト 198
手動光軸調整ダイヤル 200
スイッチ 198
電球の交換 367, 369
ヘッドライト
オートレベリング警告灯 409
ライト消し忘れ防止機能 201
ライトセンサー 201
ワット数 474
ヘッドライトクリーナー 209
ヘッドレスト
アクティブヘッドレスト 65
調整 70

ほ
ホイール 355, 473
ホイールナットレンチ 424, 435
方向指示灯（ウインカー）
電球の交換 373, 374
方向指示レバー 155
ワット数 474
ポータブルオーディオ
プレイヤー 308
ホーン（警音器） 157
補機バッテリー
補機バッテリーが
あがったときは 456
補機バッテリーについて 361
ボトルホルダー 327
ボンネット 360

ま
マスターウォーニングライト 410
マルチインフォメーション
ディスプレイ（エコドライブ
モニター） 34, 164, 412

み
ミラー
インナーミラー 78
ドアミラー 79
バニティミラー 331
ミラーヒーター 286

む
ムーンルーフ
ソーラーパネル付
ムーンルーフ 84
ソーラーベンチレーション
システム 279

め
メーター（計器類）
エコドライブモニター 34, 164
タッチトレーサー
ディスプレイ 159, 165
ヘッドアップディスプレイ 188
メーター 158
メーター照度調整スイッチ 159
メンテナンス
初期設定 479
メンテナンスデータ 470

も
モニター
エコドライブモニター 34, 164
エネルギーモニター 169

ゆ
ユーザーカスタマイズ機能 476
油脂類 470

ら
ライセンスプレートライト（番号灯）
スイッチ……198
電球の交換……375
ワット数……474
ライト
足元照明……314
グローブボックスライト……321
シフトレバー照明……314
電球の交換……366
ドアカーテシライト……318
バニティミラー天井照明……331
フロントパーソナル
ライト……316, 317
フロント
フォグライト……203, 205
ヘッドライト……198
方向指示灯……155
ラゲージルームライト……61
リヤフォグライト……204, 205
ルームライト……318
ワット数……474
ライト消し忘れ防止機能……201
ライトセンサー……201
ラゲージルーム内装備……340
ラゲージルームライト
作動について……61
ワット数……474

り
リモートエアコンシステム……282
リヤウインドウデフォッガー……286
リヤシート……67
リヤセンターアームレスト……337
リヤフォグライト
スイッチ……204, 205
電球の交換……374
ワット数……474
リヤ方向指示灯（ウインカー）
電球の交換……374
方向指示レバー……155
ワット数……474

る
ルームミラー（インナーミラー）……78
ルームライト
スイッチ……318
ワット数……474

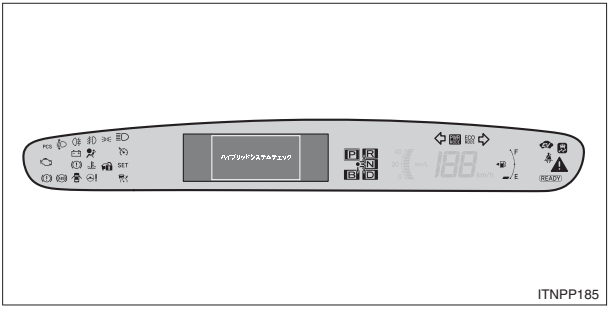
れ
冷却水
冬の前の準備・点検……262
容量……472
冷却装置
オーバーヒート……462
レーダークルーズ
コントロール……214

ろ
ロアグローブボックス……321
ロック
ウインドウロック……81
チャイルドプロテクター……58
ドアロック……42, 55, 57, 454

わ
ワイパー
フロント……206
リヤ……207
ワイパーデアイサー……287
ワイパーブレード……263
ワイヤレスリモコン
操作方法……55, 282
電池交換……385

症状別さくいん

タイヤがパンクした	P. 424 P. 435	パンクしたときは
ハイブリッドシステムが始動できない	P. 451	ハイブリッドシステムが始動できないときは
	P. 93	イモビライザーシステム
	P. 456	補機バッテリーがあがったときは
高水温警告灯が点滅または点灯した	P. 462	オーバーヒートしたときは
「ハイブリッドシステム過熱」という警告メッセージが表示された		
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった		
キーをなくした	P. 453	キーをなくしたときは
補機バッテリーがあがった	P. 456	補機バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 42 P. 55 P. 57	ドア
ホーンが鳴り出した	P. 94	オートアラーム
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 466	スタックしたときは
警告灯が点灯・点滅した	P. 406	警告灯がついたときは



ITNPP185

■警告灯一覧

マスターウォーニング P. 410

充電警告灯 P. 407

エンジン警告灯 P. 408

ブレーキ警告灯（赤色） P. 406

電子制御ブレーキ警告灯（黄色） P. 408

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 408

ABS & ブレーキアシスト警告灯 P. 408

パワーステアリング警告灯 P. 408

スリップ表示灯（点灯） P. 408

ヘッドライトオートレベリング警告灯 P. 409

PCS 警告灯（点滅） P. 408

クルーズコントロール表示灯※（点滅） P. 409

車間制御モード表示灯（点滅） P. 409

半ドア警告灯 P. 410

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 410

助手席シートベルト非着用警告灯 P. 410

高水温警告灯 P. 407

燃料残量警告灯（点滅） P. 410

※レーダークルーズコントロール装着車は、定速制御モード表示灯になります。

警告メッセージが表示された

P. 412 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージをご確認ください。

- 警告灯が点灯・点滅している（→P. 406）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 412）

■警告灯の点灯・点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 51
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサー部にふれたとき	
	シフトチェンジ操作を行ったとき	P. 151
走行中	シフトポジションをＲにしたとき	P. 151
	シフトチェンジ操作を行ったとき	P. 151
	ブレーキペダルを踏んだとき	P. 132

ハイブリッドさくいん

ハイブリッドシステムの概要について

■ ハイブリッドシステムについて - - - - - - - - - - - - - - - - - P. 22

ハイブリッドシステムについての注意事項

■ 高電圧部位 - P. 26
■ 警告メッセージ - P. 29, 412

運転のしかた

■ 運転にあたって - P. 126
■ ハイブリッドシステムの始動方法 - - - - - - - - - - - - - - - P. 138
■ トランスミッション - P. 147

環境に配慮した経済的な運転

■ ハイブリッド車運転のアドバイス - - - - - - - - - - - - - - - P. 34

事故が起きたときは

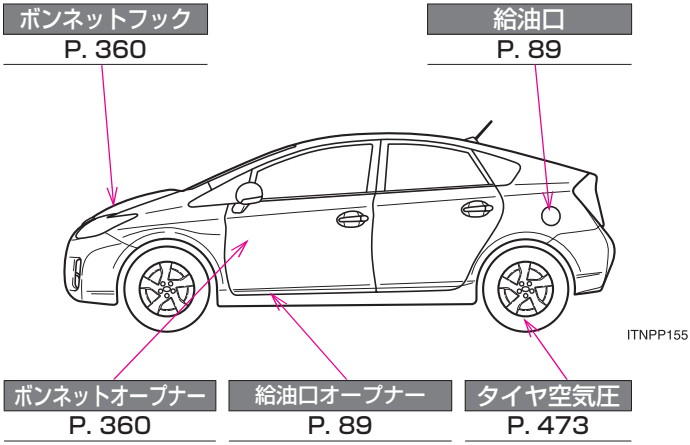
■ 事故が発生したときの警告 - P. 32

ハイブリッド車特有の説明がある項目

■ 計器類 - P. 158
■ 表示灯／警告灯 - P. 161
■ 警告メッセージ - P. 412
■ エコドライブモニター - - - - - - - - - - - - - - - - - - P. 34, 164
■ ボンネット - P. 360
■ けん引について - P. 398
■ ハイブリッドシステムが始動できないときは - - - - - P. 451
■ 補機バッテリーがあがったときは - - - - - - - - - - - - - - P. 456
■ オーバーヒートしたときは - - - - - - - - - - - - - - - - - - P. 462

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



<table>
<tr><td>燃料の容量
(参考値)</td><td>45L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td>無鉛レギュラーガソリン　P. 90，470</td></tr>
<tr><td>タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>標準タイヤ
<table>
<tr><th>タイヤサイズ</th><th>前輪
kPa(kg/cm^2)</th><th>後輪
kPa(kg/cm^2)</th></tr>
<tr><td>185/65R15 88S</td><td>250(2.5)</td><td>240(2.4)</td></tr>
<tr><td>195/65R15 91S</td><td rowspan="2">230(2.3)</td><td rowspan="2">220(2.2)</td></tr>
<tr><td>215/45R17 87W</td></tr>
</table>
応急用タイヤ*：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td>オイルのみ交換時
3.9 L
オイルとフィルター交換時
4.2 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td>トヨタ純正モーターオイル
・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20)
・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30)
・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30)
・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20)
・ SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450 - 0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

TOYOTA

M 47701
01999－47701
CI-2010年10月12日
2010年10月19日 初版
プリウス